



国立大学法人

鹿児島大学概要

2021

国立大学法人
鹿児島大学概要
2021

はじめに

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学の基本的な目標
- 04… 大学憲章
- 05… 学生憲章
- 06… 教育目標／生涯学習憲章
- 07… ポリシー
- 09… 男女共同参画基本理念
- 10… 沿革

組 織

- 13… 組織図
- 14… 学術研究院

学部・大学院等

- 15… 学部
- 18… 大学院
- 21… 総合教育機構
- 23… 研究推進機構
- 25… 南九州・南西諸島域共創機構
- 27… 教育学部附属学校
- 28… 鹿児島大学病院
- 29… 附属動物病院／附属図書館
- 30… 附属図書館／教育関係共同利用拠点
- 31… ヒトレトロウイルス学共同研究センター
- 32… 学内共同教育研究施設
- 33… 学内共同教育研究施設／海外拠点
- 34… 海外拠点／奄美群島拠点

教育・研究・社会貢献活動

- 35… 本学の特徴ある研究
- 38… かごしまルネッサンスアカデミー／
大学地域コンソーシアム

キャンパス

- 39… 支援センター等
- 40… 地域交流施設ほか
- 44… 位置図・交通アクセス
- 45… 地区別建物等配置図
- 49… 所在地一覧

資料編

組 織

- 51… 役職員等
- 54… 役職員数

学 生 等

- 56… 入学定員・現員数
- 57… 附属学校入学定員・現員数
- 58… 入学状況
- 60… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 61… 奨学生状況／経済支援制度

教育・研究・社会貢献活動

- 62… リポジット／学術刊行物
- 63… 産学官連携活動
- 64… 公開講座等

国際交流

- 65… 学術国際交流協定締結状況
- 67… 海外研修・留学等支援
- 70… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 71… 外国人留学生

財 務

- 73… 収入・支出決算額／予算
- 74… 外部資金受入状況

学部・大学院等

- 76… 鹿児島大学病院・附属動物病院実績
- 77… 附属図書館実績

キャンパス

- 78… 土地・建物・船舶

学 年 暦

学 期	
前 期	……4月1日～9月30日
後 期	…10月1日～3月31日
入 学 式	……………4月7日
休 業 日	
春 季 休 業	……4月1日～4月10日
夏 季 休 業	… 8月1日～9月30日
冬 季 休 業	…12月25日～1月8日
鹿児島大学記念日	……………11月15日
卒 業 式・修 了 式	……………3月25日

※学期・休業日は鹿児島大学学則より抜粋

歴 代 学 長

氏 名	任 期	備考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日	
〃	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日	
〃	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日	
中 村 未 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※
〃	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日	
〃	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日	
〃	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日	
井 形 昭 弘	昭和62年1月12日～平成 3年1月11日	
〃	平成 3年1月12日～平成 5年1月11日	
早 坂 祥 三	平成 5年1月12日～平成 9年1月11日	
田 中 弘 允	平成 9年1月12日～平成13年1月11日	
〃	平成13年1月12日～平成15年1月11日	
永 田 行 博	平成15年1月12日～平成19年1月11日	
吉 田 浩 己	平成19年1月12日～平成22年1月11日	
〃	平成22年1月12日～平成25年3月31日	
前 田 芳 實	平成25年4月 1日～平成28年3月31日	
〃	平成28年4月 1日～平成31年3月31日	
佐 野 輝	平成31年4月 1日～	

※学長事務取扱

「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学」を目指して

鹿児島大学の起源は、1773年に設立された藩学造士館にさかのぼります。第七高等学校造士館をはじめ各種高等専門学校との統合を経て、1949年（昭和24年）に新制国立鹿児島大学として発足しました。長い歴史を経て、現在は3つのキャンパスに9つの学部と9つの大学院研究科を置き、1万数百名の学生を擁する南九州地域最大の総合国立大学となりました。

さて、鹿児島大学は、地域社会、我が国ならびに国際社会に貢献し、本学の全構成員、卒業生、地域が誇りとする進取の気風にあふれる総合大学として“南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学”となることを目指しております。鹿児島大学は日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にあるという地理的特性や我が国の近代化を支えた多くの人材を育ててきた教育的精神的伝統と歴史を踏まえ、本学ならではの取り組みを推進しています。

また、昨年11月には第4期中期目標期間に向けて、持続可能な社会の実現、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能強化、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材育成等、「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」としての価値を高めるべく、次の5つの基本目標を学長ビジョンとして掲げました。

1. グローバル人材の養成に向けた教育改革
2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進
3. 地域課題に応える社会貢献、産学連携の推進
4. 地域を支える質の高い医療の提供
5. 自己分析に基づく的確な組織整備と運営

昨年度は、全世界に襲いかかる新型コロナウイルス感染症により、目まぐるしく変わる情勢の中、新たな取り組みや対応が求められるといった激動の日々が続きました。本学においても、多くの科目を遠隔授業で行ったため、新入生をはじめ、多くの学生がキャンパスにおらず、サークル等各種活動の制限などもあり、キャンパス内の風景も寂しいものとなっていました。まだまだ厳しい現状が続いておりますが、一人でも多くの学生が世界に羽ばたくよう、本学教職員はもとより、保護者の皆様並びに地域の皆様のご理解とご協力を得ながら、一丸となって、進取の気風あふれる開かれた鹿児島大学を創っていきたいと思います。



さ の あきら
学長 佐野 輝

◆略歴

1981年(昭和56年)
神戸大学医学部医学科卒業
1985年(昭和60年)
愛媛大学大学院医学研究科博士課程修了
2002年(平成14年)
鹿児島大学医学部教授
2013年(平成25年)
鹿児島大学医学部長
2017年(平成29年)
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科長
2019年(平成31年)
鹿児島大学学長

◆専門分野

精神神経医学

◆学位

医学博士

国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標

第3期中期目標(平成28～令和3年度)

鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、アジア・太平洋の中の鹿児島という地理的特性を踏まえ、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第3期中期目標・中期計画期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、以下の基本目標に取り組みます。

1. グローバルな視点を有する地域人材育成の強化

地域特性を活かした教育及び国際化に対応した教育を推進するとともに、高大接続の見直し、アクティブ・ラーニングの強化、教育の内部質保証システムの整備、学生支援の拡充等の教育改革に取り組みます。

2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進

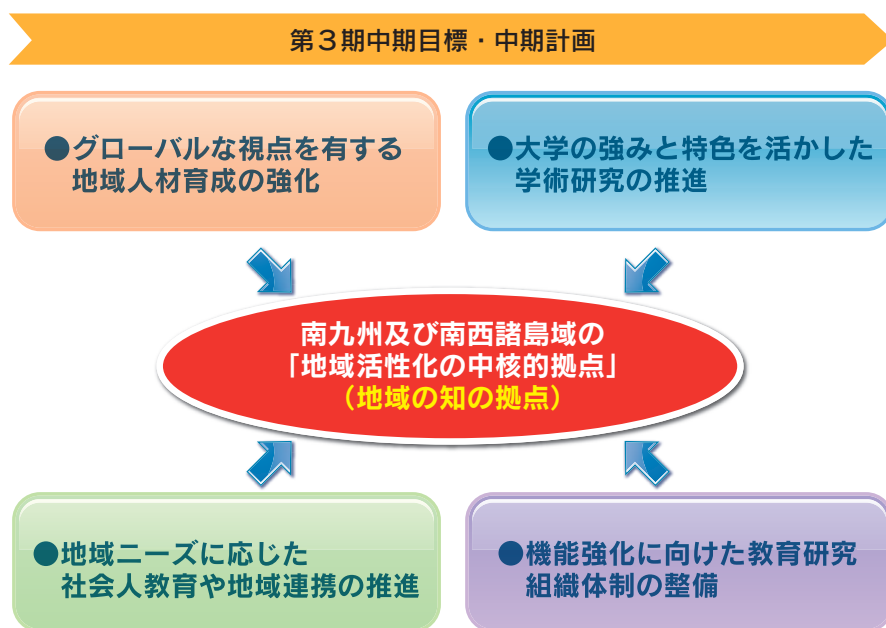
地域特有の課題研究「島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー」及び防災研究を推進するとともに、先進的な感染制御や実験動物モデル等の卓越した研究を促進します。

3. 地域ニーズに応じた社会人教育や地域連携の推進

知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域・産業界との連携を強化し、リカレント教育の拡充や地域イノベーションの創出等、「南九州・南西諸島域共創機構」を中心に社会貢献の取組を推進します。

4. 機能強化に向けた教育研究組織体制の整備

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、学術研究院制度を効果的に活用し、地域の総合大学としての特色を活かした学部等の再編や奄美群島拠点の拡充等、組織の見直しや学内資源の再配分に全学的な観点から取り組みます。



鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

教 育

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

研 究

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

社会貢献

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

大学運営

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

※「進取の精神」とは、自ら困難に立ち向かう態度である。

平成19年11月15日制定
(第58回鹿児島大学開学記念日)



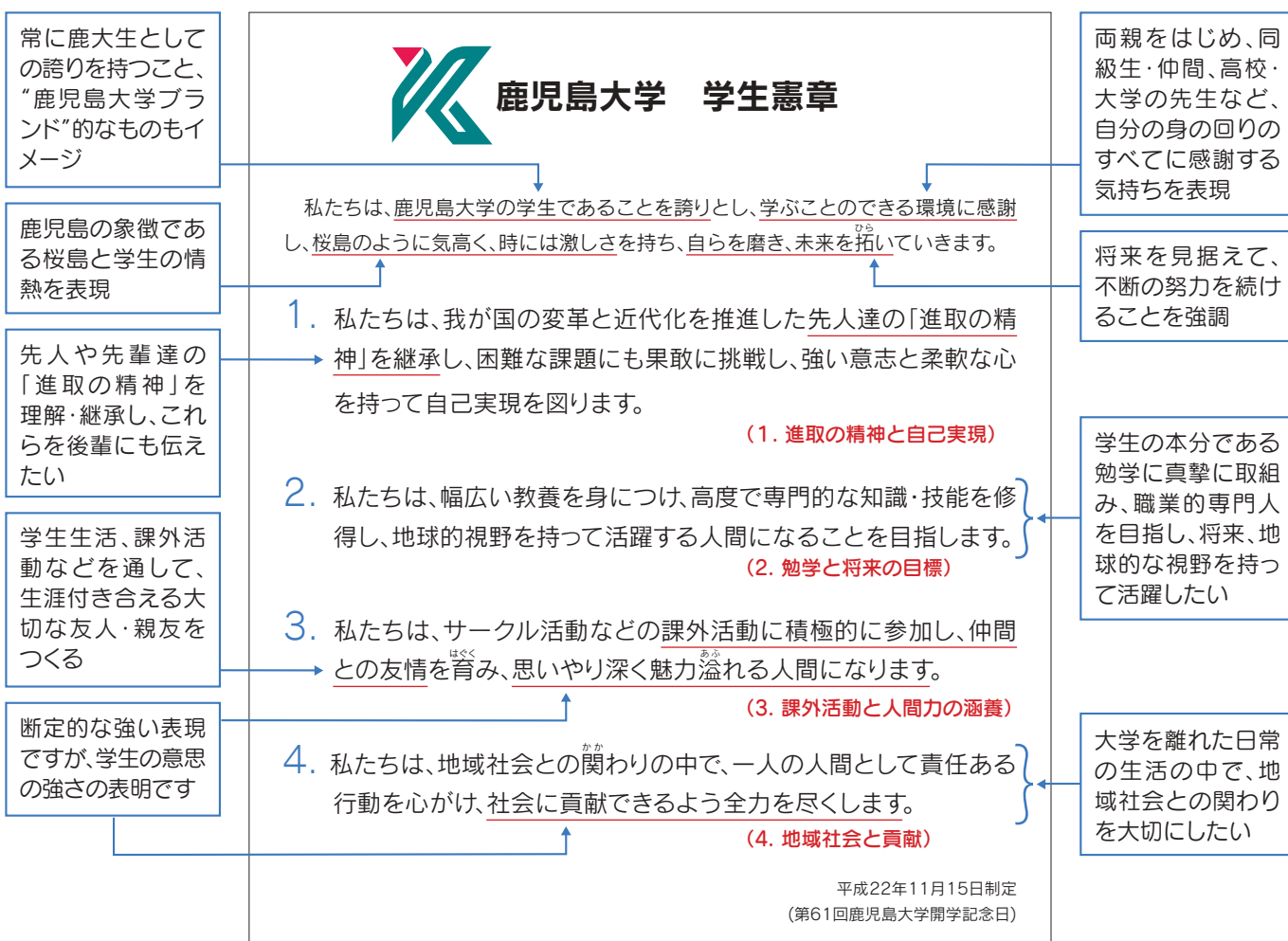
鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成22年11月15日制定
(第61回鹿児島大学開学記念日)

〈学生憲章の解説〉



鹿児島大学教育目標

鹿児島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、自主自律と進取の精神を有する人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲げます。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育みます。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ちむかう態度を養います。
3. 地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養います。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育みます。

平成23年12月15日制定

鹿児島大学生涯学習憲章

鹿児島大学は、大学憲章の理念に沿って、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしており、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習を推進します。

鹿児島大学は、古来より海上交通の要衝として多彩な文化を集積し、世界で固有の多様な自然と共生してきた地域に学び、成熟社会における新たな社会像、地域像、大学像を獲得できる生涯学習に全学で取り組みます。

地域のもつ知は大学及び大学人に新たな知的発見をもたらす宝庫であり、知的拠点としての鹿児島大学がめざす生涯学習とは、地域に生きる人びとと大学人がともに学び教え合う関係から知の循環を促し相互に成長していくことです。

鹿児島大学は、全構成員が生涯学習の理念を共有し、地域と世界を結ぶ視野をもって、生涯学習を組織的に実践するために、次の方針を掲げます。

1. 青年期の教育とともに、成人を対象とした教育に取り組み、生涯にわたる学習の機会を提供します。
2. 地域の発展の基礎となる多様な教育機会を用意し、激動の時代を生きる地域の人びとが、ともに支え合い、暮らしていくことに貢献します。
3. 大学の専門知と科学知が、地域の生活や経験と向きあうことを大切にします。そのことを通じて学問を鍛え直し、新しい社会を展望できる知を創造し、広く地域に還元していきます。
4. 鹿児島大学学生憲章の実現に向けて、学びの主体性を支え、進取の精神を養い、課題解決能力や実践力を育むため、学生が大学で修める学問を基礎に、地域とともに成長できる機会を保障します。
5. 柔軟で闊達な組織づくりに努め、大学と地域の相互理解を深める機会を創出し、生涯学習の推進を地域とともに発展する大学づくりの柱と位置づけます。

平成25年9月19日制定

鹿児島大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、大学憲章及び教育目標に鑑み、地域の活性化及び国際社会の発展に貢献していくため、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。

1. 社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、多様なコミュニケーションができる能力
3. 自ら進んで様々な社会活動に参加し、省察し、その上で、将来の課題を発見し、その探究・解決を志向し続けられる実践力

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学位を授与します。

■修士(博士前期)課程

修士(博士前期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、審査に合格した者に修士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における基礎的な研究能力
- 高度な学識と専門性を活かして地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■博士(博士後期)課程

博士(博士後期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与します。

- 研究倫理を基盤とした専門分野における独創的な研究能力
- 専門分野で指導的な役割を担い、地域と国際社会の発展に貢献できる能力

■専門職学位課程

専門職学位課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得した者に専門職学位を授与します。

- 高度専門職業人として求められる責任感、職業倫理観、及び実務能力
- 専門分野で指導的な役割を担うことのできる能力

鹿児島大学教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

1. 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成
 - ① 幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力を育む科目を配置します。
 - ② 自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目を配置します。
 - ③ 大学、地域及び国際社会における多様な人々とのコミュニケーションを重視した教育を展開します。
 - ④ アクティブ・ラーニングの推進を通して、学生が倫理観をもって自主的に問題に取り組むことを支援する教育を展開します。
 - ⑤ 人、自然、文化の多様性に見られる鹿児島特有の資源を活用した教育を展開します。
2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。
3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

大学院

鹿児島大学大学院は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力を備えた人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、教育課程(カリキュラム)を編成のうえ、実施します。

1. 進学から学位取得に至るまで系統性のある教育課程の編成

①修士(博士前期)課程

- 研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 専門分野における基礎的な研究能力と高度な専門性を発揮できる実践的な能力を身につけた人材を育成する教育を展開します。

②博士(博士後期)課程

- 研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 鹿児島大学の多様な学術的研究を背景に、課題の発見・探究・解決を目指す研究者や、専門分野を牽引していく役割を担うことのできる専門家を育成する教育を展開します。

③専門職学位課程

- 高度専門職業人として、固有の専門業務に必要な深い学識と卓越した能力を養成する体系化した教育を展開します。
- 学外との連携を通じた実務教育を行い、地域に根ざした高度専門職業人としての責任感と倫理観を養成する教育を展開します。
- 専門分野において、指導的な役割を担う実務家を養成する教育を展開します。

2. 目的・目標に応じた方法による教育の実施

学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。

3. 厳格な成績評価の実現

各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

鹿児島大学入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

大 学

鹿児島大学は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

1. 鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人
2. 人間としてのモラルを大切にし、教養をより高めようとする人
3. 知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人
4. ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人

このような学生を適正に選抜するために、学部の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

大学院

鹿児島大学大学院は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

■修士(博士前期)課程、博士(博士後期)課程

1. 学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人
2. 主体的に学ぶ態度を身につけ、専門分野に関連する諸問題に関心をもつ人
3. 自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲に満ちた人

■専門職学位課程

1. 高度専門職業人をめざす明確な問題意識・関心を持ち、幅広い教養と柔軟な思考力をもつ人
2. 専門職技能並びに実践力を身につけたい人
3. 学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人、または、当該分野の基礎資格や現場での経験を有する人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

鹿児島大学男女共同参画基本理念

男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国の最重要課題であると位置づけています。男女共同参画社会とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することのできる社会のことです。この実現には、教育・研究の場であるとともに、就業の場である大学の果すべき役割・社会的責任が極めて大きいものと考えます。

鹿児島大学は、男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画社会実現の意義と責任を認識しつつ、21世紀の総合大学に期待される使命を自覚し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざし、以下の基本理念の下、男女共同参画を積極的に推進します。

<基本理念>

鹿児島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現します。

「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」

<行動指針>

1. 男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業の場の確立および大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大します。
2. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を重視した施策を推進するための環境を整備します。
3. 女性の能力開発・能力発揮(エンパワーメント)を支援するために、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の推進、女性キャリアガイダンスの充実、再チャレンジ支援などを行います。
4. 男女共同参画に資する教育・研究、広報・啓発活動を、地域(地方自治体、教育機関、医師会、企業、NPO等)と連携して積極的に推進します。

平成22年1月21日制定
教育研究評議会決定

沿 革 (旧制度下)

はじめに

鹿児島大学

昭24.5(1949)置

藩学造士館 安永2(1773) 明4(1871)正
鹿児島県立 中学造士館 明17.12(1884)
鹿児島高等 中学造士館 明20.12(1887)称直 明29.9(1896)置
鹿児島県 尋常中学造士館 明29.9(1896)置
第七高等 学校造士館 明34.3(1901)置
第七高等学校 昭21.3(1946)称

高等学校 大学予科 明34.6(1901)~ 大10.8(1921)

小学校授業 講習所 明8.5(1875)
鹿児島師範 学校 明9.9(1876)称

鹿児島師範 学校 明13.11(1880)合
鹿児島尋常 師範学校 明20.3(1887)称
鹿児島県 師範学校 明31.4(1898)称
鹿児島県 第一師範学校 大9.4(1920)称
鹿児島県 師範学校 昭9.3(1934)称
鹿児島師範 学校 昭18.4(1943)国

小学正則 講習所
鹿児島女子 師範学校 明9.10(1876)称

鹿児島県 第二師範学校 大9.4(1920)称

鹿児島県 女子師範学校 明43.4(1910)置

鹿児島県立実業補 習学校教員養成所 大13.4(1924)
鹿児島県立青年 学校教員養成所 昭10.4(1935)称
鹿児島青年 師範学校 昭19.4(1944)国

鹿児島高等 農林学校 明41.3(1908)

鹿児島農林 専門学校 昭19.4(1944)称

鹿児島県立 商船学校 明41.5(1908)

鹿児島商船 学校 昭14.8(1939)国 昭21.2(1946)校

鹿児島水産 専門学校 昭21.4(1946)置

島津藩医 学校 明2.3(1869)置

鹿児島県立 医学校 明14(1881)称 明22(1889)正

鹿児島医学 専門学校 昭18.4(1943)置 昭27.3(1952)正

県立鹿児島 医科大学(旧制) 昭22.6(1947)置

薩摩藩病院 明2.3(1869)置

鹿児島県 病院 明4.7(1871)称

市立鹿児島 病院 明26.9(1893)移

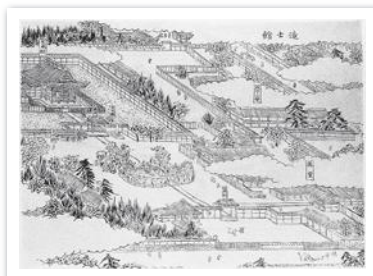
県立鹿児島 病院 明40(1907)称

県立鹿児島医学 専門学校附属病院 昭18.4(1943)管

県立鹿児島 大学 昭24.2(1949)置

医科大学 工学部

鹿児島県立 工業専門学校 昭20.4(1945)置



藩学造士館「三国名勝図会」(附属図書館「玉里文庫」所蔵)



第七高等学校造士館前景

【略記説明】

- 置: 設置
- 称: 改称
- 組: 改組
- 定: 認定
- 加: 参加
- 校: 廃校
- 離: 離脱
- 止: 廃止
- 造: 建造
- 移: 移管
- 停: 募集停止
- 国: 国立移管
- 管: 移管改称
- 措: 学内措置
- 合: 合併改称
- 直: 文部省直轄

鹿児島大学

昭24.5(1949)置

鹿児島県立
大学

昭24.6(1949)称

医学部

昭27.2(1952)置

【略記説明】

- 置:設置
 称:改称
 組:改組
 定:認定
 加:参加
 校:廃校
 離:離脱
 止:廃止
 造:建造
 移:移管
 停:募集停止
 国:国立移管
 管:移管改称
 措:学内措置
 合:合併改称
 直:文部省直轄

学部

- 文理学部 昭47.3(1972)正
 第七高等学校 昭25.3(1950)正
 鹿児島師範学校 昭26.3(1951)正
 鹿児島青年師範学校 昭26.3(1951)正

教養部

- 鹿児島県立大学医学部 昭33.4(1958)正
 県立鹿児島医科大学(旧制) 昭36.3(1961)正
 附属熱帯医学研究施設 昭35.4(1960)置、昭57.3(1982)正
 附属病院霧島分院 昭33.5(1958)置
 附属看護学校 昭33.5(1958)置
 附属助産婦学校 昭33.5(1958)置
 附属保健婦学校 昭36.4(1961)置
 附属腫瘍研究施設 昭42.6(1967)置
 昭63.3(1988)正 昭63.3(1988)正 平元.3(1989)正 平元.3(1989)正 平15.3(2003)正
 鹿児島県立大学工学部 昭33.4(1958)正
 鹿児島農林専門学校 昭27.3(1952)正
 鹿児島水産専門学校 昭26.3(1951)正

大学院

- 一般教養部 昭24.6(1949)置、昭40.3(1965)正
 教養部 昭40.4(1965)置、平9.3(1997)正
 医学部附属病院 昭33.5(1958)置、平15.9(2003)正
 歯学部附属病院 昭55.4(1980)置、平15.9(2003)正

大学院

- 法学研究科 昭54.4(1979)置、平15.3(2003)正
 人文社会科学研究科 昭61.4(1986)置、平13.9(2001)正
 理学研究科 昭52.4(1977)置、平12.3(2000)正
 工学研究科(修) 昭43.4(1968)置

専攻科

- 県立鹿児島医科大学研究科(旧制) 昭29.5(1954)置、昭36.3(1961)正
 教育専攻科 昭34.4(1959)置、平6.3(1994)正
 理学専攻科 昭44.4(1969)置、昭52.3(1977)正
 工学専攻科 昭34.4(1959)置、昭43.3(1968)正
 農学専攻科 昭29.4(1954)置、昭41.3(1966)正
 水産専攻科 昭34.4(1959)置、昭44.3(1969)正
 遠洋漁業学特設専攻科 昭28.4(1953)置、昭49.4(1974)称
 水産専攻科 平15.3(2003)正

機構

総合教育機構
平29.4(2017)置研究推進機構
平29.4(2017)置社会貢献機構
平29.4(2017)置、平30.4(2018)組学内共同教育
研究施設等医療技術短期大学部
昭60.10(1985)置、平11.4(1999)医学部保健学科に組、
平14.3(2002)正

ヒトレトロウイルス学共同研究センター 平31.4(2019)置 (熊本大学との共同設置)

附属図書館 昭24.5(1949)置
保健管理センター 昭47.5(1972)置
文理・農・教育・工学部分館 昭40.3(1965)正

稲盛アカデミー 平17.4(2005)置、平20.4(2008)組

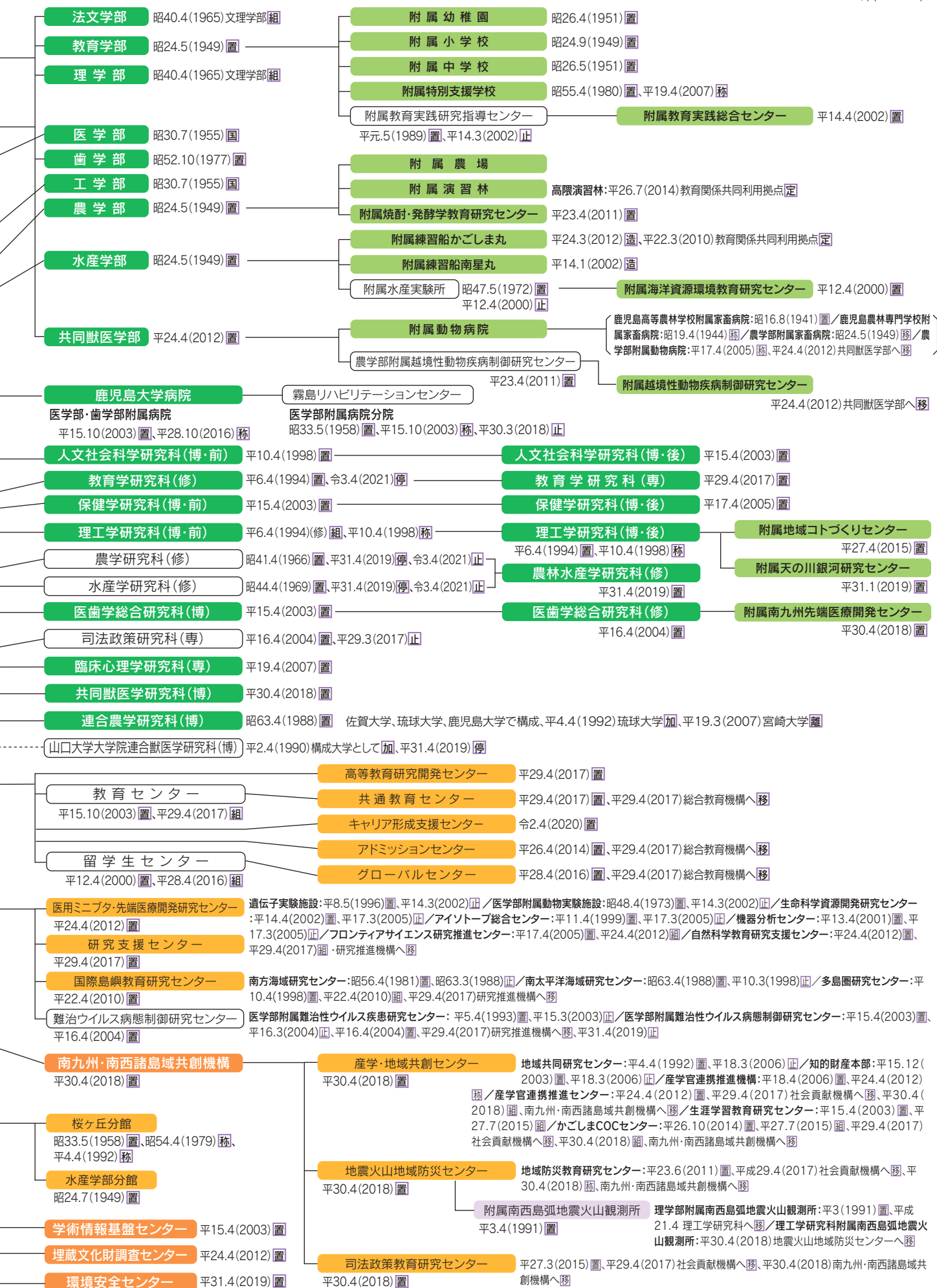
総合研究博物館 平13.4(2001)置

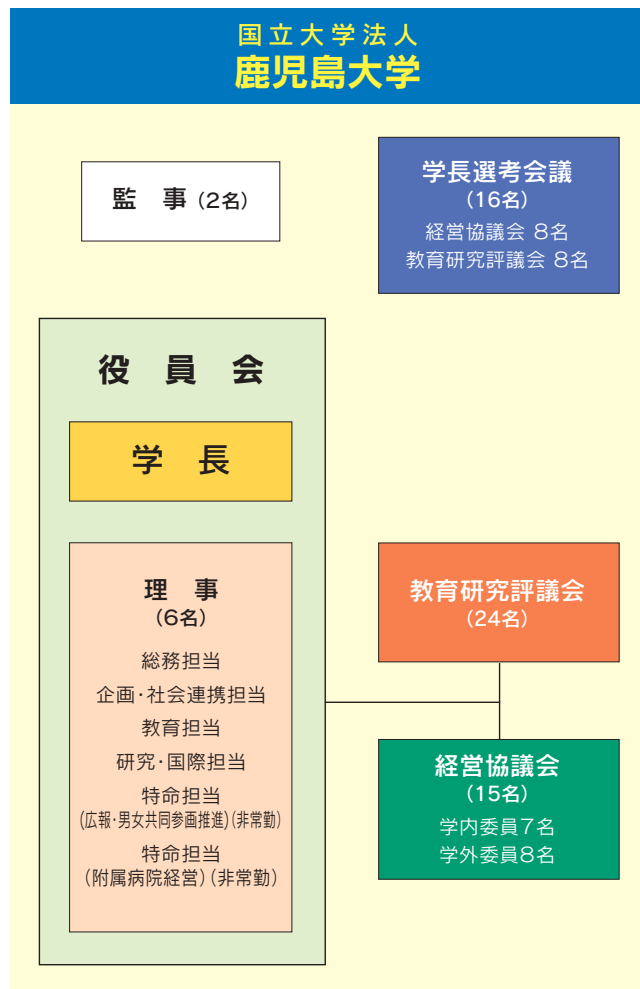
情報処理センター 昭62.12(1987)置、平7.3(1995)正
総合情報処理センター 平7.4(1995)置、平15.3(2003)正

研究支援センター環境保全施設 昭60.6(1985)置、平24.4(2012)称

北米教育研究センター 平20.9(2008)置

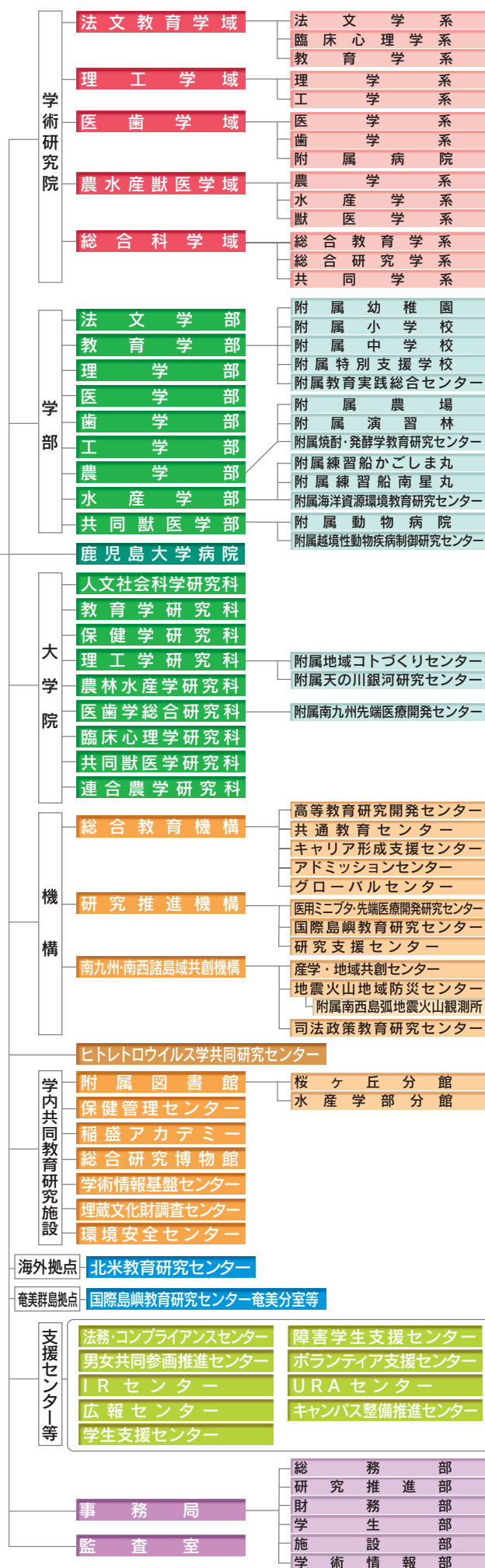
奄美群島拠点 平27.4(2015)置





鹿児島大学

(令和3年5月1日現在)



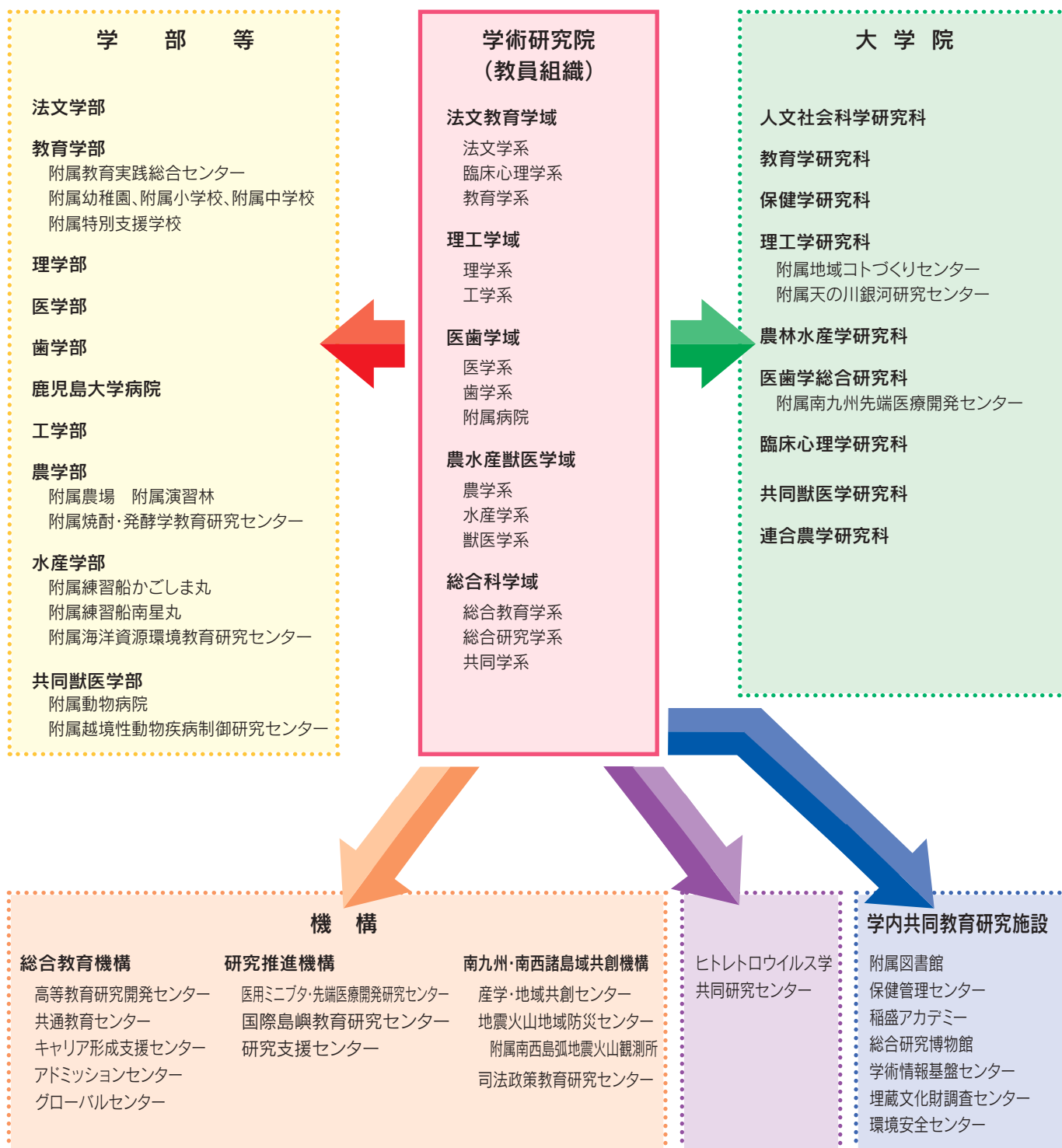
【学術研究院】

学長のリーダーシップの下、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、現行の教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たに学術研究院(教員組織)を平成27年4月1日に設置しました。

学術研究院は、5つの「学域」と14の「学系」からなり、学域は現在の学部・研究科等の教育研究分野に対応した一定規模の組織を形成し、学系は学域の下に教員の専攻分野に応じた組織となっています。

学術研究院長には学長を充て、今まで学部・研究科等ごとに所属していた教員を一元的に管理し、全学的な視点に基づいた計画的な教員人事を行うこととしています。

教育研究組織 (令和3年4月1日)



法文学部



法経社会学科／人文学科

藩学造士館、旧制第七高等学校の系譜を引く法文学部は、現在、法経社会学科（法学コース、地域社会コース、経済コース）、人文学科（多元地域文化コース、心理学コース）の2学科5コースを擁する南九州唯一の人文社会系総合学部となっている。

本学部では、「広く学ぶ」「深く学ぶ」「学びを活かす」という「3つの学び」を実現し、各コースの履修モデルにしたがった実践的できめ細かな専門教育と、学際的な知識と現場感覚を身につける「法文アドバンスト科目」などの教育プログラムを展開することで、総合的な観点から人間と社会を深く理解し、情報化、国際化および地域社会の変化にともなう諸問題に適切に対処できる現実的な課題解決能力を持った人材の育成を目指している。

教育学部



学校教育教員養成課程

教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。令和2年4月には、学校教育教員養成課程（初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コース）1課程に改組し、Society5.0に向けて、これからの社会を生きて行く子供の学ぶ力・学び続ける力を地域との関わりの中で育てるために、自らの専門性を効果的に活かして多様な他者と協働し、グローバルな視野をもって、地域を活かし輝かせる教員の養成を目指している。

理学部



理学科（数理情報科学プログラム、物理・宇宙プログラム、化学プログラム、生物学プログラム、地球科学プログラム）

「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。こうして現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究とともに、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠である。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- * 創造的で指導的な役割を担う専門的職業人として活躍できる人材
- * 未知の課題に挑戦する研究者・技術者として活躍できる高度な研究能力を有する人材

医学部



医学科／保健学科

医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として招聘した薩摩藩医学校を源流とし、昭和18(1943)年に開校した県立鹿児島医学専門学校を直接の前身とする。その後幾多の変遷を経て、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部となった。平成10(1998)年には保健学科が設置され、2学科体制となり、平成30(2018)年に医学部創立75周年、保健学科設置20周年を迎えた。人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ、医学・医療を担う人材を育成することを使命として掲げた教育・研究・診療を実践し、これまでに両学科を合わせて1万人を超える医療人を輩出している。鹿児島県のみならず、日本全国、さらに海外で人々の健康と福祉の向上、医学・医療の発展に多大な貢献をしている学部である。

歯学部



歯学科

歯学部は、沖縄を含む南九州地域における唯一の歯科医学教育・研究施設として、歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置され、平成29(2017)年に創立40周年を迎えた。

本学部では、生命科学の原理を理解し、科学的探究心と問題解決能力を身につけるとともに、各種口腔・顎顔面領域の疾患の診断、予防、および治療に関わる知識と技能を修得することを、教育目標としている。また、県内離島の歯科巡回診療同行実習や海外の大学での研修などを通して、地域医療の重要性を理解し、コミュニケーション能力を備えた国際的視野を有する人材を育成している。同時に、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践者としての歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

工学部



先進工学科（機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、海洋土木工学プログラム、化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、情報・生体工学プログラム）
／建築学科（建築学プログラム）

工学部の母体である鹿児島県立工業専門学校は、工業専門の理科系学徒の教育を目的として昭和20(1945)年4月に設置され、同30(1955)年に国立移管された。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取り組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ一人一人の学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用することにより、実社会における課題解決のために応用できる知恵として身につけることができる教育に心がけている。今日まで連綿と国際的な通用性を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を育む教育を実践している。

また、本学部は、我が国のものづくりの主要な分野を網羅する2学科7プログラム編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」としての展開に取り組んでいる。

農学部



農業生産科学科／食料生命科学科／農林環境科学科
／国際食料資源学特別コース(農学系サブコース)

農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本有数の食料生産基地に位置する本学部は、農業生産科学科(3教育コース)、食料生命科学科(3教育コース)、農林環境科学科(2教育コース)の3学科ならびに特別コース(農・水産分野からなる国際食料資源学特別コース)から構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林および附属焼酎・発酵学教育研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及ぶ多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。

水産学部



水産学科／国際食料資源学特別コース(水産学系サブコース)

水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「就職に強く学生に親切な水産学部」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む水圏をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の調査と保全、グローバル化する産業社会や「食」に関わる生活文化の創出において、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食料生産の確保とその生産基盤である海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、資源・環境・食品分野に強く、高度で先端的教育を受けた水産技術者を養成し、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国をはじめとする国際社会で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を多数送り出している。また、ISO9001認証に準拠した独自の教育システムを運用し、弛まぬ改善と教育の質の保証に取り組んでいる。農学部と連携した国際食料資源学特別コースも設置し、世界の食料問題に取り組むグローバル人材の育成も強化している。

共同獣医学部



獣医学科

共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置された。本学と山口大学による共同教育課程は、欧米水準の獣医学教育を目指し、令和元年6月には、国内及びアジアで初めてEAEVE(欧州獣医学教育機関協会)による教育認証を取得した。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指している。教育病院である附属動物病院には、小動物診療センターに加え、大動物診療センター、軽種馬診療センター、大隅産業動物診療研修センターを置く。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、高病原性鳥インフルエンザや狂犬病などの越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターも設置されている。

人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年に設置され、博士前期課程4専攻(法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻)および博士後期課程1専攻(地域政策科学専攻)によって構成されている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、奄美サテライト教室〔奄美大島、徳之島分室〕を通じた離島地域での授業開講、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試(秋入学)による留学生の受け入れなど、社会のニーズに積極的に応えている。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。令和元年度には経済社会システム専攻に地域開発教育コースが設置され、地域開発に関わるグローバル人材の養成を目的として英語による教育を行っている。

博士前期課程

- 法学専攻
- 経済社会システム専攻
- 人間環境文化論専攻
- 国際総合文化論専攻

博士後期課程

- 地域政策科学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、平成29年4月にこれまでの修士課程(教育実践総合専攻)に加え、新たに専門職学位課程(学校教育実践高度化専攻)を設置した。令和3年4月からは、修士課程(教育実践総合専攻)の募集を停止するとともに、専門職学位課程(学校教育実践高度化専攻)の入学定員を増員した上で、学校教育実践高度化専攻の1専攻に再編成した。

学校教育実践高度化専攻は、指導力・展開力を備え、様々な教育課題に取り組む新しい学校づくりの有力な一員となり得る新任教員や、確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備え、地域や家庭と連携しつつ学校において指導的役割を果たしうるスクールリーダーとしての中核的教員の養成を目的とする。所定の科目を履修すると修了時に教職修士(専門職)の学位が与えられる。

また、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭・養護教諭・特別支援学校教諭(知・肢・病)の一種免許状を所有していると、条件に応じて専修免許状を取得することもできる。

専門職学位課程

- 学校教育実践高度化専攻

保健学研究科

保健学研究科は、看護学・理学療法学・作業療法学に関する高度な専門知識・技術をもつ高度専門職業人ならびに優れた教育や研究のできる指導・管理者および離島や国際的な保健・医療に貢献できる人材を養成し、併せて教育研究の成果および情報を社会に広く提供し貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)優れた専門知識・技術をもつ高度専門職業人の育成、(2)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究ができる人材の育成、(3)離島・へき地や地域の保健医療活動の充実、向上に貢献できる人材の育成、(4)国際保健医療活動を推進できる人材の育成を教育目標としている。

なお、博士前期課程(看護学領域)には、放射線看護専門コース(定員2名)、島嶼・地域看護学コース(定員2名)、助産学コース(定員7名)を設置している。

博士前期課程

- 保健学専攻
 - 看護学領域
 - 保健学領域

博士後期課程

- 保健学専攻
 - 保健看護学分野
 - 神経運動障害基礎学分野
 - 臨床精神神経障害学分野

理工学研究科

理工学研究科は、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもと、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極め、社会の発展に寄与する高度専門職業人の育成を目的としている。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に2専攻12プログラム(PG)、博士後期課程に1専攻2コースを設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

博士前期課程

- 理学専攻
 - 数理情報科学PG 物理・宇宙PG
 - 化学PG 生物学PG 地球科学PG
- 工学専攻
 - 機械工学PG 電気電子工学PG
 - 海洋土木工学PG 化学工学PG
 - 化学生命工学PG 情報・生体工学PG
 - 建築学PG

博士後期課程

- 総合理工学専攻
 - 基盤研究コース 先端科学技術コース

農林水産学研究科

農林水産学研究科は農学研究科と水産学研究科を前身として平成31年(2019年)4月に設立された。個々のニーズにきめ細かく対応する先進的スマート農畜林水産業の創出等を担える人材を育成するため、南西諸島と南九州の環境や食品・生命科学に関する農水融合型の「環境フィールド科学専攻」「食品創成科学専攻」、および資源の持続的生産に向けたイノベーションを重視した「農林資源科学専攻」「水産資源科学専攻」の4専攻を設置している。学生は植物生産科学、畜産科学、地域ビジネス、食品流通、養殖、食品創成に関する生産活動、食と健康、およびそれらの基盤となる地域の環境特性、亜熱帯化、森林管理、防災、水産資源、地域の生物環境等の、高度な専門知識と研究・開発手法を学修する。それらに基づき、農畜林水産業や食品産業における問題を提起し、地域社会において指導的立場での解決方策を示す能力を持つ人材を養成する。また、グローバル化人材を育成する「ダブル・ディグリープログラム」、「熱帯水産学国際連携履修プログラム」、食品安全専門人材を育成するための「食品管理技術者教育プログラム」、および課程修了に必要なすべての学修を英語で行う「留学生プログラム」を開設している。

修士課程

- 農林資源科学専攻
- 食品創成科学専攻
- 環境フィールド科学専攻
- 水産資源科学専攻

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、12講座、3プロジェクト講座、3連携講座のほか、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)や、本研究科の優れた研究シーズの非臨床・臨床開発と実用化への一体的な支援・推進を行う南九州先端医療開発センター(平成30年4月)を含む8研究センター、3共同研究講座、7寄附講座が設置されている。

修士課程

- 医科学専攻

博士課程

- 健康科学専攻
- 先進治療科学専攻

臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理分野専門職学位課程であり、高度専門職業人の臨床心理士養成を主眼に平成19年度に国立大学初の独立研究科として設置された。学位は臨床心理修士(専門職)である。教育理念に(1)個別支援、集団支援、地域文化を理解した地域支援、危機介入支援ができる人材の育成、(2)教育、福祉、医療、司法・矯正領域等で即戦力となる人材の育成を掲げ、理論と実践を架橋すべく学内・学外実習を充実強化した2年間の教育課程を編成し、教育研究教員と実務家教員の協働による講義・演習・実習を連動させた指導を展開している。該当者には公認心理師受験資格も提供している。

入学定員は15名で、修了後は精神科を始めとする医療関係、児童養護施設、スクールカウンセラー等における心理職や、県市町村の心理職、家庭裁判所調査官補、法務技官等の公務員心理職に就いており、博士後期課程に進学し研究職に就いている者もいる。

専門職学位課程

- 臨床心理学専攻

共同獣医学研究科

共同獣医学研究科は、平成30年4月に鹿児島大学10番目（現在は9）の大学院として設置された。当研究科は、山口大学に設立された共同獣医学研究科と、修業年限4年間の共同教育課程（博士課程）を組み、2つの教育コースを設けている。一つは獣医科学コースで、我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースである。もう一つは獣医学専修コースで、実験動物の健康と福祉に寄与する実験動物医学専門医、病理学的診断により疾病制御を担う病理学専門家等の高度獣医学専門家、あるいは先端・高度な動物医療を担う指導者としての獣医療人を養成する。2つの教育コースとも修了要件を満たした場合、博士（獣医学）の学位が授与される。

博士課程

獣医学専攻

連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して安全・安心な食料生産と生物資源の環境保全を目指す、農林水産学分野における高度な専門教育と研究を行っている。3つの専攻の中には農学・林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業（タカラバイオ（株））との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座など、特徴ある分野が設置されている。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位修得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国内外の幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

（注）連合農学研究科は、3大学（佐賀、琉球、鹿児島）で構成

博士課程

生物生産科学専攻

応用生命科学専攻

農水圏資源環境科学専攻

学部・大学院等



総合教育機構

総合教育機構は、本学における学士の質保証、共通教育の実質化と高度化、そして地域人材の育成を全学的かつ学部横断的に行うことを目的として設置された本学全体の学修を支える組織であり、以下の5センターから構成されている。

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センターは、我が国と海外の高等教育（≒大学）について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査・検討を行っている。また、全学的な教育カリキュラムの構築と改善、教育改革についての提案、教育の質保証に向けた教職員の能力開発なども実施している。限られた学内資源を有効活用して高い教育成果、学習成果を挙げるための方策を立案、実施する主体としての役割が本センターに期待されている。

すなわち、本センターの活動には、「大学において大学を研究する」という側面と、「鹿児島大学において鹿児島大学について調査・検討する」という側面がある。そしてこの2つの取組の成果を、鹿児島大学における教育の改善につなげていくとともに、我が国の高等教育の発展にも資することが、本センターの大きな役割である。

近年、上記のように「大学が大学自身を調査・検討すること」をIR (Institutional Research)、「教職員の能力開発を行うこと」をFD (Faculty Development) やSD (Staff Development) と呼ぶ。これらの活動のうち、FDとSDについては大学の義務であるとされ、本学においても全学や各学部のFD委員会を中心に様々な取組が行われている。本センターは全学FD委員会において、IRで得られたデータを活用しつつ、FD・SD活動の企画立案を担っている。

さらに、学部横断型の全学的な取組である「地域人材育成プラットフォーム」において、教育プログラムの構築及びコーディネートを担当するのも本センターである。この「地域人材育成プラットフォーム」は、成績評価のための各種ルーブリック、学習のプロセスと成果を管理するためのラーニング・マネジメント・システム (LMS) やe-ポートフォリオの導入などを通じて、地域人材育成の基盤というだけでなく、鹿児島大学における教育改革の重要な牽引役となる。その質的向上および量的拡大は、本学の将来を左右する大きな試金石であると言える。

また、弊センターでは遠隔授業の対応も行っている。特に新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けた2020年度は、学生からの機器操作等の質問対応をはじめ、教職員向けの支援も幅広く実施した。具体的には、遠隔授業関連のマニュアル作成、講習会の実施にとどまらず、実際に授業を実施する教員の研究室等へ出向きサポートを行ったり、コンテンツ作成支援をしたりするなど多岐にわたる活動を行った。新型コロナウイルス感染症の流行収束後も、遠隔授業のメリットを活かしたハイブリッド授業などが継続されることが予想されるため、今後も講習会の実施やコンテンツ支援など継続的に実施していく。



▲FD・SD合同フォーラムの様子(鹿児島大学FD委員会・大学地域コンソーシアム鹿児島共催)



▲総合教育機構地域人材育成プラットフォームパンフレット

共通教育センター(共通教育)

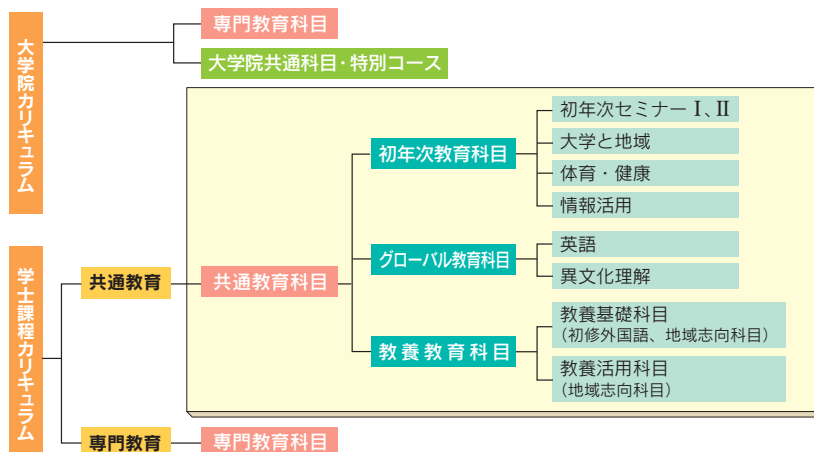
平成15年10月に設置された教育センターは、平成29年4月の総合教育機構の設置に伴い共通教育センターと高等教育研究開発センターへ再編された。

共通教育センターは、共通教育の運営及びその質保証・質的向上に責任を負う組織であり、全学協力体制に基づき実施する共通教育及び学芸員資格科目に関する企画・立案・実施、並びに教育に係る全学的な連絡調整等を行うことにより、鹿児島大学における教育の充実・発展を図ることを目的としている。

また、共通教育は、旧制第七高等学校時代以来連綿と引き継がれてきた学士課程教育の一つであり、大学での学び方や大学と地域との関わりを理解するとともに、自主自律的に学び続けるための基盤となる初年次教育、グローバル化が進む社会で貢献するための基盤となるグローバル教育、社会に貢献できる能力を養成するための教養教育をとおり、真理を愛し高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい国際社会で活躍しうな人材の育成を目指しており、鹿児島大学における教育の礎となっている。

鹿児島大学教育課程

(大きな枠内が共通教育センターの教育)



▲共通教育科目「屋久島の環境文化 I -植生-」授業風景



▲共通教育棟1号館

キャリア形成支援センター

キャリア形成支援センターは、全学的なキャリア形成支援体制のもとで、キャリア教育及びインターンシップを含めたキャリア形成・就職支援を充実・推進し、学生の多様なキャリア形成を全学的立場から支援することを目的として、令和2年4月1日に設置された。

【主な業務内容】

- キャリア教育の研究開発・実施
- キャリア・就職支援の企画立案・実施
- インターンシップの企画立案・実施
- 鹿児島大学地域人材育成プラットフォーム(かごしまキャリア教育プログラム)の運営及び実施
- 学生(卒業生及び中途退学者を含む)へのキャリア・就職に係る指導助言
- キャリア教育やキャリア・就職支援、インターンシップ等に関する調査・分析及び報告
- 求人その他の就職及びインターンシップ情報の収集・提供



▲センターの様子(上)
▲インターンシップ窓口(下)

アドミッションセンター

アドミッションセンターは、入学者選抜機能の検証、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、学生確保に係る広報活動等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的として平成26年4月に設置され、活動を行っている。

【主な業務内容】

- 多面的・総合的な能力の評価を行う入試の実施へ向けた各種調査・検討およびシンポジウム等の開催
- 入試結果の分析・評価や入学後の学業成績の追跡調査等を通じた入学者選抜機能の検証
- 鹿児島県内各地での「鹿児島大学説明会(単独主催)」の開催をはじめ、高校および高校生と大学との相互理解を深める「高校訪問」の企画実施、高校等からの大学訪問の受入といった入試広報活動



▲「鹿児島大学説明会」の様子

グローバルセンター

グローバルセンターは鹿児島大学の教育研究の国際化推進を目的に、留学生センター(平成12年設置)と国際連携推進センター(国際戦略本部(平成17年設置)を平成24年に改名)を統合して、平成28年4月に設置された。国際共同教育研究支援を行うとともに、鹿児島大学「進取の精神グローバル人材育成 双方向交流プログラム」(P-SEG Interactive)を運営して学生海外派遣を促進し、全学の外国人留学生を対象としたStudy Japan Programで日本語教育を司り、外国人留学生の受入を促進している。文部科学省「大学の世界展開力強化事業」(平成30年度採択・補助期間5年間)を統括している。



▲「タイ学生海外研修」の様子

キャンパス・グローバル化部門

- 国際プロジェクトの支援
- 海外の大学・研究機関との連携強化
- 国際社会に向けた情報発信

外国人留学生部門

- 全学留学生向け日本語、日本文化・異文化理解教育
- 外国人留学生への生活・学習支援
- 留学生と地域との交流促進

学生海外派遣部門

- 「進取の精神グローバル人材育成 双方向交流プログラム」(P-SEG Interactive)の実施
海外研修、学術交流協定校、トビタテ!留学JAPAN等の派遣留学促進
- 海外留学に必要な情報の提供、相談・指導
- 日本人学生と外国人留学生の協働学修促進



▲34カ国305名の外国人学生が留学中!

研究推進機構

本学は、第3期中期目標・中期計画期間において、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化するため、研究推進機構は、第3期中期目標・中期計画に基づき、地域活性化に繋がる研究力を強化するため、学内共同教育研究施設等の機能かした学術研究の質的向上とその推進に寄与することを目的としている。

機構の下部組織として医用ミニブタ・先端医療開発研究センター、国際島嶼教育研究センター、研究支援センターの3施設を設置して

医用ミニブタ・先端医療開発研究センター

医用ミニブタ・先端医療開発研究センターは、鹿児島大学における前臨床研究(トランスレーショナルリサーチ)を主眼とした重点的研究課題を推進するセンターである。

生命科学における重点的先端研究課題を遂行するために、三つの研究分野が設置されている。

臓器置換・異種移植外科分野では、先進医用ミニブタの開発と前臨床研究拠点形成を主たるプロジェクトとし、国内外における大動物(ミニブタ・サル)を用いた前臨床移植研究(Translational Transplantation Research)の中核拠点としての地位を確立し、特に「同種移植での免疫寛容誘導方法の確立と異種臓器移植の臨床応用を目指す」ことを最終的な研究目標として掲げ、臓器・細胞移植(同種・異種)および再生医療を中心とした研究課題を進めている。

遺伝子発現制御分野では、遺伝子工学及び細胞工学的な方法を用いて、ブタ細胞のゲノム改変(遺伝子の強発現、標的遺伝子の破壊など)に関する新規技術の開発を展開している。この細胞を起点にブタからヒトへの異種移植が可能な医用ブタ及び疾患モデルブタの開発を目指している。他方、マウスを用い臓器や生殖細胞への生体内遺伝子導入法の開発も行い、発生工学の基盤技術開拓も手掛けている。

先端医療開発分野では、癌幹細胞プロジェクトとして、浸潤・転移・再発の起点となり、癌の悪性形質を担う癌幹細胞に対する治療法開発の研究を行っており、今後はマイクロRNAやエクソソーム利用の可能性を検討する。また、確実に臨床にフィードバックできるトランスレーショナルリサーチとして、ミニブタを用いた内視鏡手術の教育と開発を行ってきた。

また、産学官および一般市民を対象とした公開シンポジウムを積極的に開催することによって、研究プロジェクトに対する幅広い理解を得る機会を設けている。



▲国内初となる異種移植抗原をノックアウトしたGalT-KOブタ腎のサルへの異種移植の成功例(臓器置換・異種移植外科分野)



▲先進医用ブタの開発と前臨床拠点形成プロジェクト第3回公開シンポジウム「ブタの医用動物への展開」の開催(2015年3月24日)

国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島からアジア・太平洋に広がる島嶼域を対象にした教育・研究を推進している。学内の兼務教員と協力して島嶼域の諸問題について先進的な教育・研究を行うとともに、英文学術誌“*South Pacific Studies*”等を発行して世界の島嶼学研究を牽引し、研究会やシンポジウム、観察会を通して研究成果を地域に還元している。令和二年度は甞島列島において兼務教員とともに総合学術調査を行った。新型コロナの影響のため例年より回数は少なかったが、研究会・島めぐり講演会はそれぞれ6回ずつ、シンポジウムは1回開催した。鹿児島の島嶼地域における研究成果については、高校生・大学生など将来の人材への育成や一般の方への知の還元のために『鹿児島島の島々』『鹿児島大学島嶼研ブックレット』等を発刊するとともに、英文書籍“*The Amami Islands*”や“*The Tokara Islands*”を出版して海外にも成果を発信している。また、「島における教育」を積極的に実施しており、共通教育科目「島のしくみ」では与論島、大学院全学横断的教育プログラムの「島嶼学概論」では三島村硫黄島において一部講義を行っている。また、教員免許状更新講習を奄美大島において行っている。さらに、平成27年4月に奄美市に国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置し、文化・社会・生物の多様な地域として発展してきている奄美群島で急務である多様性維持機構の解明と保全の活動を行っている。



▲奄美で行われた「サンゴ礁のいきもの親子観察会」の様子(2020年8月18日)



に大学の強みと特色を活かした学術研究をすることを基本目標の一つに掲げている。

を見直し平成29年4月に設置された。本学における研究推進に係る人的および物的資源の有効活用を促進し、本学の強みと特色を
 いる。

研究支援センター

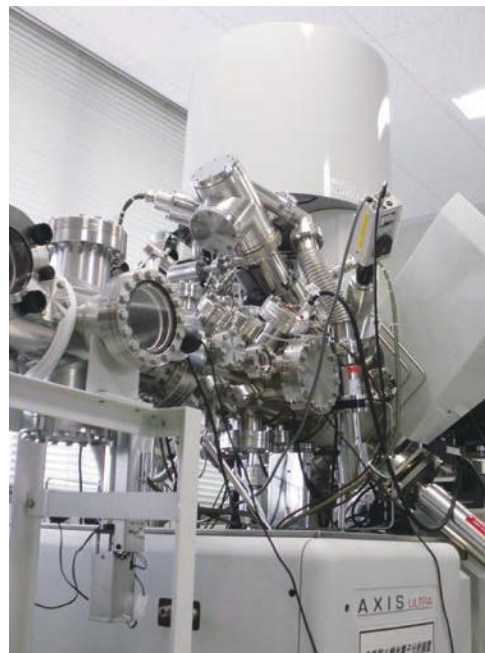
研究支援センターは、4施設から構成されており、高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、動物実験及びRIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としている。

機器分析施設は、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図っている。

遺伝子実験施設は、遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備および解析機器類を整備している。

動物実験施設は、実験動物および動物実験に関する教育研究、実験動物の品質管理および安全管理を行い、動物実験の適正化を図っている。

アイソトープ実験施設は、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理・防護ならびに核燃料物質の管理を担っている。



▲走査型X線光電子分析装置(島津AXIS-ULTRA DLD)



▲遺伝子実験施設



▲機器分析施設



▲アイソトープ実験施設



▲動物実験施設

南九州・南西諸島域共創機構

南九州・南西諸島域共創機構は、教育、研究と並び、大学の重要な使命である社会貢献の遂行を担っている。鹿児島大学における社会貢献に係る人的および知（インター及び旧がごしまCOCセンター）、「地震火山地域防災センター（旧地域防災教育研究センター）」および「司法政策教育研究センター」の3センターを統合・整の中核的拠点」の実現を目指し、自治体・企業との連携協力による共同研究・受託研究等の推進を通じ医療、観光、エネルギー、製造業、農林水産業等に関する課題の

産学・地域共創センター

産学・地域共創センターでは、研究シーズと地域ニーズとのマッチング、自治体等との共創による地域課題の解決と地域再生、事業化が見込まれる研究プロジェクトの支援、知的財産の創出、保護・管理および活用、地域ニーズに即した生涯学習機会の提供等の活動を行っている。更に、平成30年度から国立大学法人機能強化経費で措置された「南九州・南西諸島域の地域課題に応える研究成果の展開とそれを活用した社会実装による地方創生推進事業」を推進している。

■連携推進部門

- 本学で生まれた研究シーズと社会ニーズとのマッチングを図り、民間企業等との連携を通じた研究成果の社会還元、技術移転、社会実装の推進
- 共同研究・連携コーディネートの他、大学の研究成果等の情報発信、地域産業界等からの技術相談対応、外部資金等の獲得支援、自治体との連携プロジェクトの企画・立案などの活動

■知的財産・リスクマネジメント部門

- 知的財産の創出、権利化、維持及び活用の戦略的な推進、知的財産に係る教育・啓発活動
- 産学官連携に伴い生じるリスクのマネジメント

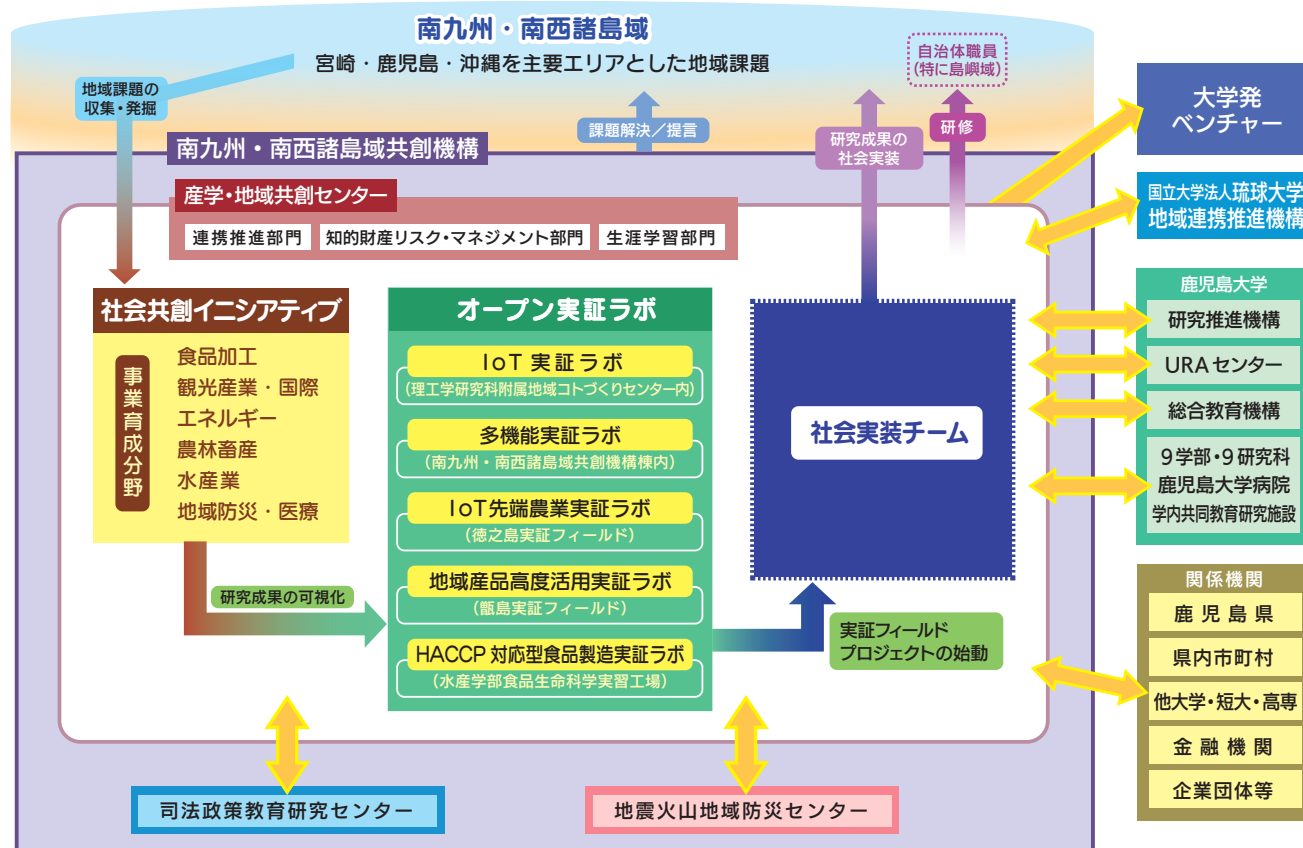
■生涯学習部門

- 人口減少型社会を見据えた生涯学習の質的転換への取組
- 青年期教育と成人教育、教養教育と職業教育などを接続させた高等教育機関としての生涯学習推進
- 地域の生涯学習の再構築への学校、行政、民間などと協働しての取組



▲研究シーズ集
2021-2022

南九州・南西諸島域の地域課題に応える研究成果の展開とそれを活用した社会実装による地方創生推進事業



的・物的資源の有効活用を促進、更なる推進を図るため、これまで独自の組織として社会・地域貢献活動を行ってきた「産学・地域共創センター（旧産学官連携推進センター）」、平成30年4月に同機構を設置した。機構では、鹿児島大学の第3期中期目標期間における基本的な目標である「南九州及び南西諸島域における地域活性化解決、地域イノベーションの創出、その活動成果の教育への還元といった取組を行っている。

地震火山地域防災センター

南九州から南西諸島にかけては、地震・津波、火山噴火、豪雨、台風などに起因する様々な自然災害が発生している。地震火山地域防災センターは、それら自然災害の防止と軽減を図るため、災害の実態解明、予測、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興等の課題に地域と連携して取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指している。

本センターは、以下のような部門・分野と観測所から構成され、地域防災の中核的拠点として様々な活動を行っている。

■調査研究推進部門

地震火山防災研究分野：南西島弧地震火山観測所と連携した地震災害、火山災害と防災に関する調査研究

気象水象地盤災害研究分野：気象災害、洪水災害、津波災害、土砂災害と防災に関する調査研究

災害医療総合防災研究分野：大規模災害（地震災害、火山災害、放射線災害など）に対応できる災害医療総合防災に関する調査研究

■防災教育推進部門

- 本学の共通教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営
- 地域防災の核となる防災リーダーの養成支援、防災士資格取得支援

■社会実装推進部門

- 地方公共団体、地域住民と連携した地域防災に係る課題の解決
- 自治体、自主防災組織、企業等からの防災に関する問い合わせの対応

■南西島弧地震火山観測所

- 地震・火山噴火予知に関する観測研究



▶防災・日本再生シンポジウム
(令和2年12月)

司法政策教育研究センター

司法政策教育研究センターは、法科大学院での法曹養成の経験とノウハウを継承し、①法学分野の教育研究の高度化や法律系人材の養成・拡充を実現する基盤の確保、②法科大学院修了後の司法試験受験のサポートを含む法曹志願者の支援、③地域で活躍している法律系人材や各種専門職のニーズに応えるリカレントや職能高度化の場の提供、④臨床法学教育の推進、⑤法律情報のネットワーク上への発信などによって、地域貢献ならびに地域活性化のために大学の知的資産を社会に埋め込む「実装化」の取組を行っている。

【主な活動】

■学部・大学院教育支援

- 高度な専門性を踏まえた実践力を身に付けるセミナーの開催
- ネットワークを活用した教育ノウハウの提供による授業実施支援

■リカレント・キャリア開発支援

- 地域の法曹、諸士業や地域専門職の能力の高度化支援
- 公務員や企業就業者のリカレントやキャリア開発支援

■法曹志願者支援

- 法科大学院説明会の開催などによる法曹志願者への支援
- 法務学修生（本学法科大学院修了生）その他の司法試験準備

■社会・地域貢献活動の展開

- センター無料法律相談の実施
- 地域に貢献する臨床法学教育活動（離島での法律相談など）
- 「全国条例データベースpowered by eLen」など、ネットワーク上への法律情報の発信



▶司法政策教育研究センターの諸活動



◀民法改正セミナーの一場面

教育学部附属学校

附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、創立142年目を迎える全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児19名、4歳児34名、5歳児33名、計3学級86名が在籍している。研究主題に「保育の質の向上につながるカリキュラム・マネジメント【2年次:環境構成】」を掲げて、本県の幼稚園教育の向上の役割を果たしている。また、学部と連携し研究を深めるとともに、親と子が共に育つ場としての幼稚園を目指している。



附属小学校

附属小学校は、創立144周年目を迎え、26学級820人の児童が在籍している。教育学部の附属機関として、教員としての確かな資質・能力を高める講義や教育実習に取り組むとともに、国や県の教育の動向や課題を踏まえた先導的な教育研究の推進及び、その成果の公開に取り組んでいる。また、複式学習指導法やICTを活用した教育活動の実践など、学校現場の様々なニーズに対応した授業視察を受け入れることを通して、県内外の教育の発展に寄与している。なお、令和3年度入学児童から6か年の計画で、1学年の定員を1学級(35名)減じることにより、学校規模の見直しを図っている。



附属中学校

附属中学校は、創立71年目を迎え、536名(学級数15)の生徒が在籍している。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、その1本1本に校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の名をもつシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒59名が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追求し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指している。



鹿児島大学病院

鹿児島大学病院は、平成15年10月に医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17センターとし、診療体制を再編成した。また、平成28年10月1日から病院名称を鹿児島大学病院とした。なお、病院再開発計画として、平成19年から約16年間の予定で建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。

平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、鹿児島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。

また、平成26年4月に、県より救命救急センターとしての指定を受け、平成26年1月にC棟に整備した屋上ヘリポートを有効活用し、救急患者の受入態勢の充実を目指している。なお、平成28年4月には災害拠点病院、平成29年11月には原子力災害拠点病院の指定を受けている。

教育面では、平成25年度に「総合臨床研修センター」を設置し、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努めており、平成28年8月には、九州の国立大学病院として初めて、厚生労働大臣から看護師の「特定行為研修指定研修機関」に指定されている。

なお、平成30年2月には、医療環境体制の充実と療養環境の向上を目指した新病棟(B棟)が完成し、平成30年3月には、霧島リハビリテーションセンターを閉院した。令和元年9月には「がんゲノム医療拠点病院」として指定され、鹿児島県におけるがんゲノム医療を推進している。

診療センター	部門科	中央診療施設等	プロジェクトセンター
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科	■検査部 ■手術部 ■放射線部 ■救命救急センター(救急科) ■集中治療部 ■輸血・細胞治療部 ■周産母子センター ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部(病理診断科) ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■腫瘍センター ■肝疾患相談センター ■漢方診療センター ■てんかんセンター ■HIV対策室 ■緩和ケアセンター ■歯科口腔ケアセンター ■超音波センター ■ME機器センター ■探索的医療開発センター ■外科医療振興センター	■下垂体疾患センター ■ヒトゲノム遺伝子解析センター
消化器センター	消化器内科 消化器外科	■医療器材管理部 ■医療情報部 ■総合臨床研修センター ■医療安全管理部 ■感染制御部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター ■女性医師等支援センター ■栄養管理室 ■臨床研究管理センター ■看護師特定行為研修センター	
脳・神経センター	脳神経内科 脳神経外科		■薬剤部 ■看護部 ■臨床技術部 ■事務部
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科		
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科		
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・甲状腺外科		
メンタルケアセンター	神経科精神科		
小児診療センター	小児科 小児外科		
女性診療センター	産科、婦人科		
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科		
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科		
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科		
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科		
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科		
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科		
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯補綴科		
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科		



▲病棟 (C 棟)



▲歯科診療棟・回復期リハビリテーション病棟

附属動物病院

鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院は、学部附属の教育施設であり、将来の獣医師を養成するための重要な教育病院である。動物の診断や治療に関する各種研究活動も行っており、地域獣医療の中核病院としても機能している。診療対象動物は、犬や猫といった伴侶動物の他に、地域性も背景とした産業動物の比率も大きく、この分野における機能が充実した数少ない病院でもある。平成20年には他の獣医系大学では類を見ない軽種馬診療センターも設置し、馬の診療にも対応している。共同獣医学部は、令和元年に獣医学教育の国際認証を取得しており、その一環として、平成29年に伴侶動物の診療を行う小動物診療センターと産業動物の診療を行う大動物診療センターをそれぞれ新営、改修設置した。

診療時間 月～金曜日	9:00～11:30（予約制）
	14:00～16:30（予約制）
	19:00～翌6:00（予約制・夜間診療）
休診	土曜日 日曜日 祝祭日



▲動物病院建物外観

附属図書館

附属図書館は、中央図書館（郡元キャンパス）、桜ヶ丘分館（桜ヶ丘キャンパス・医学図書館）および水産学部分館（下荒田キャンパス・水産学図書館）の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、一般市民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングコモンズとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

【中央図書館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋地上5階地下2階建（平成8年12月竣工）

総座席数 915席 図書蔵書冊数 1,003,143冊



【桜ヶ丘分館（医学図書館）】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

（偶数月の第1土曜日は14:00～18:00）

休館日

国民の祝日、年末年始等（12月27日～1月3日）

施設

鉄筋3階建（昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築）

総座席数 177席 図書蔵書冊数 168,411冊



【水産学部分館(水産学図書館)】

開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

休館日

日曜日、国民の祝日、年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋2階建(昭和45年2月竣工・平成26年3月改修)
総座席数130席 図書蔵書冊数58,863冊



教育関係共同利用拠点

各国立大学が有するさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、平成21年9月に認定制度が創設された。国立大学からの申請に基づき、文部科学大臣が認定を行う。

水産学部附属練習船かごしま丸

水産学部附属練習船かごしま丸は、平成22年度に、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として文部科学大臣より認定され、水産・海洋系カリキュラムを持ちながら練習船を保有しない全国の大学に質の高い洋上実習の機会を提供している。令和2年度より拠点認定3期目(5年間)に入り、従来の共同利用乗船実習に加えて、全国の大学の教職課程学生向けに、初等中等教育における海洋教育指導に資する洋上実習の機会提供を開始した。平成24年3月には、かごしま丸新船が竣工し、30年にわたり活躍してきたかごしま丸旧船の代船として、平成24年度から共同利用に投入された。かごしま丸新船は、電気推進システムと自動船位保持装置を搭載し、横・斜め移動やその回頭など特殊操船能力を持ち、防振・防音対策を施したことに加え、実験室の拡充により実習環境が大幅に向上した。また、水産・海洋分野の幅広い分野の教育のために搭載した様々な漁具や生物標本採集具、海洋観測装置など最新鋭の設備を活用し、本学および利用大学の学生・大学院生に高度な洋上教育を安全かつ効率的に実施できる。

拠点認定以降、国内の大学の水産・海洋系学部や研究科による利用に加えて、文系学部や放送大学の全国開放型授業、更には水産学部の主な対象域でもある東南アジア域内の大学に国際共同利用されるなど、充実した共同利用が展開されている。



農学部附属高隈演習林

高隈演習林(垂水市)は、森林・林業に関する教育研究のための附属施設として旧制鹿児島高等農林学校時代の明治42(1909)年に開設された。総面積3,061ヘクタール(垂水市の19%、本学が所有する土地の84%を占める)の広大な森林は、100年余り前から先人達が築き上げてきた人工林(屋久杉を起源とするスギやヒノキなど)がおおよそ3分の1を占め、残りは南九州を代表する豊かな照葉樹の天然林に覆われている。演習林は主に農学部森林科学コースの学生によって、専門課程の実習や研究等で利用してきたが、平成12(2000)年ごろから専門課程以外の共通教育や他大学の授業で、あるいは地域貢献として児童生徒を対象とした森林環境教育や社会人を対象とした林業技術者教育など、利用の幅が大きく広がっていった。

そこでこれまでの実績を基に、演習林のさらなる有効活用を図るため、平成26年度から高隈演習林は文部科学省より教育関係共同利用拠点到認定された。平成26年度～30年度の5年間で42大学から延べ3,011人の利用があった。平成31年度より「鹿児島の自然とくらしと林業をつなぐ学びの森拠点」として共同利用拠点の2期目がスタートし、林業、環境教育、動植物、防災、地域コミュニティー等の多様な分野で多くの大学から利用されている。



ヒトレトロウイルス学共同研究センター

ヒトレトロウイルス学共同研究センターは平成31年4月に鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学研究センターを再編・統合した新しい共同研究センターとして設置された。前身の両センターは、それぞれ20年以上にわたるHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）やHIV-1（ヒト免疫不全ウイルス1型）研究の歴史がある。本共同研究センターではこれらのレトロウイルスとは異なる研究領域であるHBV（B型肝炎ウイルス）を加えた3つのウイルスの診断法・治療法の開発を目指した共同研究を実施する。血液や神経の病気の原因となるHTLV-1やHIV-1と肝疾患の原因となるHBVはこれまで研究交流がほとんどなかったが、3つのウイルスは逆転写酵素をもち排除が困難という共通点をもつため、新しい研究体制ではこれまでにない発想による新しい治療法の開発を目指している。HTLV-1感染により、成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)や鹿児島大学で発見・命名されたHTLV-1関連脊髄症（HAM/TSP）を発症するが、これらの疾患に対しては、いまだに有効な治療法が開発されていない。HIV-1感染では、ウイルスの増殖を抑制する抗ウイルス剤が開発されエイズの発症を予防できるようになったが、ウイルスそのものを排除できないため、一生薬を飲み続けなければならない問題が残っている。HBV感染では致死的な肝硬変や肝癌を発症するが、ウイルスを完全に排除する治療法の開発はなされていない。本センターでは基礎研究と医薬品開発の橋渡しを担当するトランスレーショナルリサーチ部門を新設し、抗ウイルス剤と抗がん剤の開発を進めていく。さらに世界的な喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症についても、治療法などの研究開発を行う。

本共同研究センターでは、従来の共同研究では実施されなかった、教員の共同選考や、大型機器の計画的な導入等の、人的・物的資源の最適化を実施する全国的にも初の試みがなされるため、少子化時代の地方国立大学連携の新しいモデルケースとなる。



▲センター建物



▲センター実験室



保健管理センター

保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的としている。

センターでは、医師、保健師のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、神経科精神科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科）による健康相談業務を行っている。さらに学医とカウンセラー、キャンパスソーシャルワーカーがこころの健康相談及び学生支援を行っている。桜ヶ丘キャンパスには分室があり、保健師が健康相談業務を行っている。

また、定期健康診断Web問診システムや感染症申請Webシステムを確立し、学生の健康状態等の把握に努めている。

【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- こころの健康相談ならびに学生支援・職員支援
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行（定健受診者のみ）
- 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など）
- 環境衛生および感染症予防に関する指導
- 卒煙支援
- 心肺蘇生法講習会
- 産業医活動



稲盛アカデミー

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長（鹿児島大学名誉博士）および京セラ株式会社からの寄付により、平成17年に学内共同教育研究施設「稲盛経営技術アカデミー」として設置し、平成20年に「稲盛アカデミー」へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」ことを基本理念としている。このため稲盛哲学（フィロソフィ）の探究および継承・発展を基盤に据え、人材育成を目指した教育研究および社会貢献（人間教育、経営教育、地域・国際連携）を展開するとともに、名誉博士創設の国際賞、「京都賞」の受賞者講演会や関係行事などを通じた鹿児島県との連携・協働を図っている。

学内向けプログラム

共通教育科目の提供：「稲盛経営哲学」、「進取の精神」などに関わる科目の開設
国内体験学習や海外研修などの学習機会の提供
京都賞受賞者鹿児島講演会における「鹿児島コロキウム」の開催

学外向けプログラム

「履修証明制度」に基づく社会人向けプログラム「稲盛経営哲学」の実施
「公開シンポジウム」、「特別セミナー」の実施
「稲盛哲学」に関する国内外における研修の支援



総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置された。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っている。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催している。また、ニュースレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っている。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲特別展

学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報基盤を担う中核的組織として、電子計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理、大学全体の情報セキュリティ対策支援、事業継続計画対策、情報システムの企画・開発・ホスティング・運用、IT 相談等、教育研究全般の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

特に、情報セキュリティマネジメントシステムJIS Q 27001 (ISO/IEC27001)の認証を取得し、国際的な情報セキュリティ基準の下、安全な情報サービスを提供している。さらに平成28年度からは、サイバーセキュリティ戦略室が設置され、さらなるセキュリティ対策の強化および、事業継続計画対策、セキュリティ啓発活動、緊急を要するセキュリティ事案への迅速な対応を行う体制を整えている。

また、研究開発を行う情報メディア基盤部門、学術情報処理研究部門、情報システム開発部門の3部門が置かれ、それぞれの部門に属する専任教員が情報通信技術に関する研究開発、情報通信技術を生かした地域との連携、マルチメディア教材の研究開発、情報教育支援体制の整備による学内部局との連携、学術情報データの蓄積と発信に関する研究開発を推進するとともに、学内の教育研究の高度情報化に指導的な役割を果たしている。



埋蔵文化財調査センター

鹿児島大学では、郡元キャンパス・桜ヶ丘キャンパス・唐湊学生寮・指宿植物試験場・入来牧場に埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されている。埋蔵文化財調査センターは、学内の施設整備事業等によって影響を受けるこれらキャンパス内遺跡の保護対策を講ずることを目的として設置されている。センターの主な事業としては、校舎建設等工事に伴う発掘調査などの調査研究の実施や、調査報告書の作成、出土遺物の管理や活用などである。また、学内遺跡における研究成果公開の取組として、一般市民向けの体験発掘や遺跡見学会、公開講座などを開催している。



▲発掘調査の様子

環境安全センター

大学は高度で専門的な教育・研究活動が行われる場であり、新しい発見、有用な成果、人材育成により社会の発展に貢献している。その一方で、多種多様な廃棄物も発生しており、特に、実験廃液には危険性・有害性が高い性状のものも多くある。これらの安全・適正な取り扱いと処理は一事業場として当然のことであるが、万一問題が発生した場合には、個人として、そして組織として、迅速かつ適切に対応し、原因解明と再発防止に努める必要がある。

環境安全センターでは大学の教育・研究活動の結果生じる有害廃棄物の管理に関すること及び、実験排水の管理に関することについて全学から情報を集約し、安全・適切な管理を行えるよう体制を整備し、事故防止に貢献するとともに、学生・教職員に対し、適切な教育・指導・助言を行うことで安全・環境に関する高い知識と意識を持った人材の育成に貢献している。



北米教育研究センター

米国カリフォルニア州サンフランシスコに、海外拠点として北米教育研究センターを置いている。平成16年に産学連携ベンチャービジネス部門のシリコンバレー・オフィスとしてスタートし、平成20年に全学組織へと発展した。平成23年には、本学のブランチ・オフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実ともに海外拠点としての体制を整えた。センターは、1) 学生海外研修やインターンシップの実施、2) 北米における大学や企業等との連携、3) バイエリア地区に拠点を置く日本の大学間ネットワークであるJUNBAへの参加、情報交換などを行っている。



◀カリフォルニア学生海外研修の様子

フィリピン大学ピサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ピサヤス校 (UPV) の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミアガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行った。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており、平成27年度から開始された「熱帯水産学国際連携プログラム」などによる大学院生の交流も活発化している。



▲フィリピン大学ピサヤス校

稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1)ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2)ベトナム社会主義共和国内の大学との共同研究、(3)ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4)その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究および社会貢献に係る国際活動を推進するなど、国際的な交流活動を行っている。



▲この建物の12階に事務所が入っている

鹿児島大学奄美群島拠点

奄美群島拠点は、鹿児島大学の機能強化の一環として、奄美群島における地域活性化の中核的拠点として教育、研究及び社会貢献活動を推進し、地域課題を解決することを目的として設置された。この拠点は、(1)国際島嶼教育研究センター奄美分室、(2)奄美島嶼実験室、(3)奄美サテライト教室、(4)徳之島サテライト教室、(5)与論水産実験室の5つの施設から構成されている。

国際島嶼教育研究センター奄美分室(奄美市)

国際島嶼教育研究センター奄美分室は、奄美群島拠点の5つの施設の中で唯一教職員が常駐しており、奄美群島拠点の中核的施設である。平成27年4月に奄美市名瀬の旧名瀬保健所跡に設置された後、平成31年4月に奄美市名瀬の奄美群島大島紬会館6階に改めて設置された。奄美分室内には、教職員スペースのほかに、中学生・高校生に鹿児島大学や大学生活を紹介するスペースや奄美群島の社会・文化・自然などに関連する書籍を準備し、教育・研究及び地域貢献を推進することを目的としている。また、この施設の近くには、奄美島嶼実験室(名瀬公民館金久分館内)や教職員・学生が利用できる宿泊所(名瀬長浜町)がある。



▲分室内の大学紹介スペース

奄美サテライト教室(奄美市)・徳之島サテライト教室(徳之島町)

平成16年度、全国にも例のない離島でのサテライト教室が奄美市(旧名瀬市)に設置された。離島地区に高度専門教育サービスを提供することを目的として、平成19年度には徳之島町にもサテライト教室が開設された。

科目等履修生を中心にした受講生とサテライト教室出身の正規大学院生が集まり、熱心な授業が継続的に行われている。特に、人文社会科学研究科では、サテライト独自の講義科目「奄美プロジェクト研究」を開設し、離島の受講生のキャリアアップに役立てるような講義テーマを設定している。



▲授業風景



◆本学の特徴ある研究

(1) 地域社会の課題解決につながる研究

① 島嶼

国内外島嶼地域における自立的発展に寄与する研究の推進

鹿児島大学はその創立以来、鹿児島県下の島嶼域はもちろんのこと東南アジアや南太平洋の島々をフィールドとした研究が各学部で独自に行われてきた。このような歴史的伝統を踏まえ、南九州からアジア・太平洋諸地域などの産業振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化・情報環境の改善や向上など、地域や国際社会の発展に貢献するとともに、世界水準の教育・研究拠点となることを目指し、次の3プロジェクトとデータベース作成が行われている。

【環境変動に適応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクト】

自然や社会の環境変化の影響を受けやすい島嶼域の教育研究機関や行政と連携し、国際的な島嶼教育研究拠点を形成する。令和2年度は新型コロナウイルスにより、対面式のシンポジウムが開催できず、オンラインによるシンポジウム「奄美大島の内湾—濁りに隠れた生き物たちの楽園—」などを開催した。

【島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクト】

人々の生活に関わる社会、歴史、文化、医療、情報等の研究テーマを調査分析し、その相互関係も含めた総合的な生活力向上の改善策を構築する。令和2年度は昨年度に続き、甑島列島において総合調査を行った。

【島嶼地域発展のための適応策構築プロジェクト】

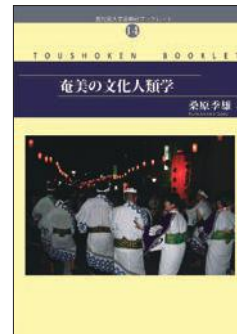
県内島嶼域の農林畜産水産資源の探索、機能性成分の分析などを通じて地域産業の発展や振興策を構築し、そのための人材養成を行う。令和2年度は人材養成を目指し、3冊の鹿児島大学島嶼研ブックレット『奄美の文化人類学』『魅惑の島々、奄美群島—歴史・文化編—』及び『魅惑の島々、奄美群島—農業・水産業編—』を出版した。

【多島域データベース】

鹿児島県南部の島嶼に関する文献データベースである「薩南諸島データベース」、国際島嶼教育研究センターの出版物データベースである「島嶼研出版物データベース」、奄美群島の自然科学系文献を対象にした「奄美生物多様性文献データベース」から成る『文献データベース』と鹿児島県島嶼統計資料から成る『資料データベース』を作成している。



▲シンポジウム「奄美大島の内湾—濁りに隠れた生き物たちの楽園—」のポスター



▲出版された書籍『奄美の文化人類学』

② 環境

世界自然遺産に登録された屋久島と世界自然遺産登録を目指している奄美地域を抱える鹿児島の豊かな自然環境と文化に関して、地域とともに問題解決を模索する研究である鹿児島環境学プロジェクトと、生物多様性に関する全学的な研究を推進する生物多様性プロジェクトを進めている。

鹿児島環境学プロジェクトでは、世界自然遺産の価値を損なうことなく育んできた奄美地域の人々の暮らしや伝統文化に焦点を当て、「奄美の環境文化」という視点から奄美大島の地域住民との共同研究を2017年度から実施している。2018-2020年度には、地域に即した環境文化とは何か、今後どのような環境文化を作り上げることが豊かな地域づくりにつながるのかについて考えるシンポジウムを各年度、龍郷町、大和村、奄美市で開催した。2021年2月には、奄美大島と東京を結ぶオンライン方式を取り入れ、動画配信を行う形で第4回環境文化シンポジウムを実施した。その成果は記録集として各方面に配布するとともに本学HPに掲載し、地域に還元すると同時に広く島内外に発信した。また、2019年度より奄美大島の人々が広く環境文化を考える契機とするため、居住地、年齢、職業など多様な100人に対して自然との関わりなどについてインタビューを行い、その成果を『奄美大島 100人の環境文化』（南方新社、2021年）と題して出版した。

生物多様性プロジェクトでは、文科省特別経費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」等の研究者と協力して、陸上、水中の各種生物について以下のような研究と情報発信を行った。奄美大島の国立公園内への長期モニタリングサイトの設置、移入種の分布調査、陸産貝類、魚類、海藻・海草、サンゴ類、カニ類、貝類、ゴカイ類等の分布調査を行った。それらの成果は、令和3年3月6日の鹿児島大学における「コロナ禍の奄美群島で教育研究をどのように進めたか・進めるか」のWebシンポジウム、153編の論文、60件の学会等の講演として発表した。教育活動として、奄美群島の「島めぐり講演会」をWebでの開催を含めて6回行い、沖永良部島で植物観察会を開催した。また鹿大の保存資料のデータベース化を進め、植物標本の公開数は14万点を越えた。



▲シンポジウムのポスター



▲鹿児島環境学研究会編集『奄美大島 100人の環境文化』

③ 食と健康

南九州、鹿児島を中心とした地域は、温帯から亜熱帯の気候と島嶼圏を擁する豊かな自然に恵まれ、日本における食料供給の重要拠点である。日本では少子高齢化社会が急速に進行中で、食による健康的な生活を実現することは今後の大きな課題である。また、世界ではアジア圏などで、急激な人口増加が予測されており、食料供給も重要な問題である。食と健康プロジェクトは、鹿児島の豊かな食品の機能性を解析することで、県産食材の需要を高めるとともに、食を通じた生活習慣病やフレイル予防など、健康長寿に寄与することを目的とした農学・水産学・医学の横断研究である。

【黒膳プロジェクト】鹿児島県産食材の機能性解析ならびに高機能化メニューを作成した。プロジェクトメンバーの城山ストア株式会社が生産・販売し、アントシアニンを多く含んだ黒米・黒野菜を取り入れた「薩摩黒膳弁当」は、2019年の全国スーパーマーケット協会主催お弁当・お惣菜大賞弁当部門優秀賞(第2位)受賞の栄誉に輝いた。

【黒糖焼酎・芋焼酎プロジェクト】長寿者の多い奄美地域で作られる、黒糖焼酎の機能性に着目した。本プロジェクトでは、黒糖焼酎や芋焼酎に、老化を抑え健康長寿を促進するホルモン「グレリン」と同様の働きをする物質(グレリン様物質)が含まれていることを発見した(2021年4月現在特許出願中)。



▲優秀賞を受賞した薩摩黒膳弁当



▲黒糖焼酎・芋焼酎に含まれるグレリン様物質の作用

④ 水

地域の水資源、火山地域や豪雨地域の土砂・洪水災害、水環境汚染などの学際的共同研究の成果を基礎とし、「赤潮・アオコを中心とした水圏環境保全」に取り組んでいる。

鹿児島県を含む南九州域は、豊かな陸水に恵まれ、深海から浅海、内湾、内海から外海まで多様な海域に囲まれている。これらの水圏環境から得られる水資源、生物資源は、農林水産業や食品産業などさまざまな産業で活用されている。その一方、資源開発の結果として生じる水圏環境の汚染が問題となっている。なかでも、富栄養化に伴う海域の赤潮や陸水域のアオコ、いわゆる有害・有毒藻類ブルーム(HABs)は、水資源、生物資源に多大な悪影響を及ぼしている。地球温暖化に伴い、亜熱帯域や熱帯域を起源とする有害・有毒藻類の移入も危惧される。これらの資源をよりどころとする産業の持続的発展のためには、地球温暖化の影響をいち早く受ける南九州域のHABs発生メカニズムを解明し、その防除対策を立案、提言しなければならない。そこで、本プロジェクトでは、海域から陸水域を含む南九州域の水圏環境に対し、水産・工学・農学系および南九州・南西諸島域共創機構 産学・地域共創センターが連携し、HABs対策を中心とした水圏環境保全に関する研究を推進している。



▲ダム湖で発生したアオコ



▲赤潮発生海域で採取した底泥

⑤ エネルギー

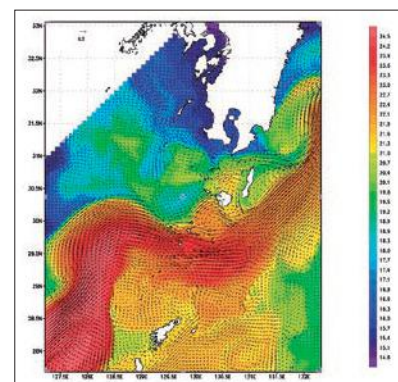
バイオマス、太陽光、海洋エネルギーなど再生可能エネルギーを生産する実用技術の開発と、分散型再生可能エネルギーの利用システムの確立により、地域再生、環境保持、農工連携などの課題に対するソリューションを創出することを目的として、以下の分野での研究を推進している。

バイオリアファイナリー技術開発: バガス等からバイオ燃料油を製造するプロセス技術の確立をめざし、産官学での共同プロジェクトを実施してきた。また、鹿児島の離島振興、農業畜産振興など地域再生に結びついたバイオマス活用ビジネスモデル検討を農工連携で進めている。

太陽光発電システムの高度利用・高効率化: 国および県の研究機関や企業と火山降灰・微粉塵等対策用太陽電池モジュールについて検討するとともに、モジュール上への積灰の抑制と発電量最大化の実現を目的として、降灰による発電量低下特性を明らかにするための実験を行っている。バイオガス改質プロセスを利用した水素製造とCO₂の分解: 多孔質酸化物イオン導電体からなる電気化学反応器の耐久性向上と水素ガス生成の高効率化を検討し、科学技術振興機構の新技术説明会で発表した。シラスを原料に用いたガス分離材料を開発した。

海洋エネルギー発電: 日本周辺の豊富な海洋エネルギーに注目し、潮流や海流などの流れを利用した海洋エネルギー発電の適地調査や発電装置が流れの場に及ぼす影響評価を行っている。また、任意の時刻の黒潮の流れや水温等をHP(http://dre.oce.kagoshima-u.ac.jp/vwp_fore/)で公開している。

再生可能エネルギーによる地域防災: 再生可能エネルギーの分散型供給システムによる地域利用について検討した。また需要側である住宅について、省エネルギーの新しい技術の評価検証に着手した。



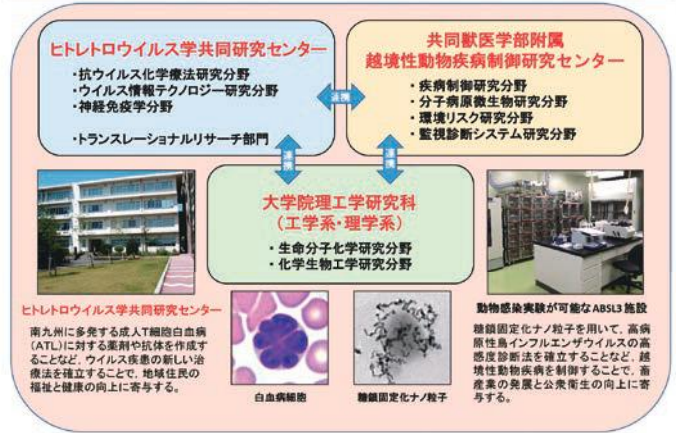
▲ホームページで公開している黒潮の流れと水温

(2) 国際水準の卓越した研究

⑥ 先進的感染制御(難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等)

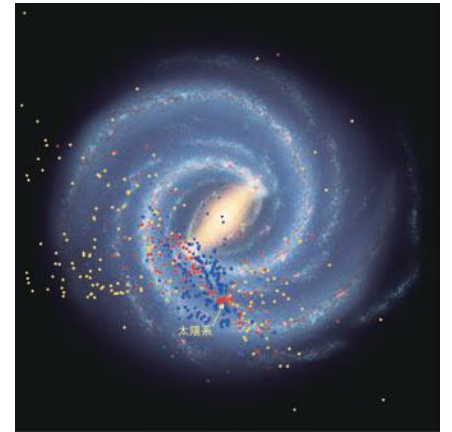
ヒトレトロウイルス学共同研究センター、共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター、そして大学院理工学研究科の研究分野の一部が連携することで、感染症制御に関する新しい学際的研究を実施している。特に、HTLV-1や鳥インフルエンザウイルスなど、鹿児島地域において脅威となる感染症に対し、診断・予防・治療に関わる先進的な研究を展開する事によって防御体制を構築し、地域住民の福祉と健康の増進を図るとともに、地元畜産業の発展と公衆衛生の向上にも寄与するような、感染症に関する国際レベルの研究を目指している。本学ではこれまでに、医学分野においてHTLV-1やそれによって起こる成人T細胞白血病や中枢神経疾患のHAMに関する卓越した研究業績があり、また、獣医学分野では鳥インフルエンザのサーベイランスや各種ウイルスの病原性解析、感染実験動物モデルの構築に多くの実績がある。

鹿児島大学先進的感染制御研究拠点(構想)



⑦ 天の川銀河

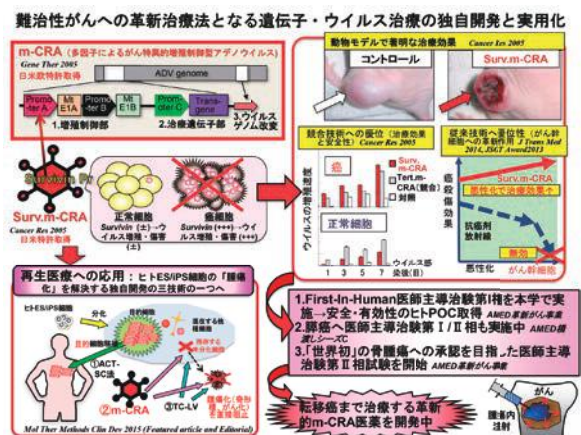
七夕伝承でおなじみの天の川は、数千億もの星々が集まった直径10万光年にも及ぶ天体で、太陽系はそこにある。宇宙には同種の天体である銀河が無数に存在するが、天の川銀河だけがその内部を3次元的に詳しく調べることができる。鹿児島大学では、天の川銀河の構造・内部運動、そこで起こる恒星・惑星の形成や末期の恒星が起こす種々の現象、銀河中心核のブラックホールの影響などについて、世界トップレベルの研究を行っている。国立天文台と共同で種々の天体までの距離や運動を観測したり、星間ガスの広域観測を実施するなど、天の川銀河の構造・運動の解明に大きな貢献をしている。薩摩川内市入来の20m電波望遠鏡は鹿児島大学が運用しており、他の望遠鏡と連携して巨大電波干渉計を構成できる能力を持つ。その隣にある鹿児島大学1m赤外線望遠鏡では、周期的に明るさが変わる星を観測して、その天の川銀河内の分布を明らかにしている。これに加えて、国内外の種々の望遠鏡を用いて様々な天体に関する詳細観測も行っており、年老いた恒星が放つジェットのごく初期の様子を明らかにするなど、天の川の完全理解に挑戦している。



▲VERA等による電波観測(青)と1m光赤外線望遠鏡の観測(赤と橙)によって距離が求められた天体の分布。背景画像はNASAによる想像図。

⑧ 難治性がん

腫瘍溶解性ウイルス(OV)治療は、革新的がん治療薬として世界的に開発が期待されているが、承認薬は未だ世界でも一例というように、全てに極めて高い高度専門性が要求される最先端医療技術である。研究代表者(小賤)は従来のOVの性能を凌ぐ「多因子によるがん特異的増殖制御型アデノウイルス(m-CRA)」作製法を独自開発し、医薬実用化の開発研究まで自身等で進めてきた。第一弾のSurvivin反応性m-CRA(Surv.m-CRA-1)は、競合技術の性能を凌ぎ、従来技術が無効のがん幹細胞まで効果的に治療可能などの革新的治療作用を持つことを、基礎研究で示した。種々の大型競争的研究に採択され、グローバル基準での非臨床開発(GMP製造、GLP非臨床試験、規制対応)も進めた。本学で実施したFirst-In-Human(患者さんへ世界初の投与)の医師主導治験第Ⅰ相を令和2年度に終了し、高い安全性と有望な有効性のデータも得られた。令和3年度AMED革新がん事業に新規採択され、「世界初の骨腫瘍での承認を目指した本邦発OVの医師主導治験第Ⅱ相」を開始した。また膵がんへの医師主導治験第Ⅰ/Ⅱ相も、AMED橋渡し事業シリーズCで実施中である。転移がんを効果的に治療する第二弾のSurv.m-CRA-2も、非臨床開発中である。さらに革新的ながん免疫治療となる、複数の「次世代m-CRA」の基礎研究開発も進めている。「世界初の革新的な医薬開発・実用化」を目指す本プロジェクトは、多くの競争的大型研究費の取得実績のように、極めて高い学術的・社会的な意義・価値が認められている。これらの成果は、本学発の先端医療シーズを実用化まで切れ目なく開発支援する「南九州先端医療開発センター」の整備にも、貢献している。



▲難治性がんへの革新治療法となる遺伝子・ウイルス治療の独自開発と実用化

◆かごしまルネッサンスアカデミー

鹿児島大学では、平成18年度から22年度の間、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」による補助事業として、「食の安全管理コース」、「経営管理コース」、「健康・環境・文化コース」の3コースによる人材育成プログラム「かごしまルネッサンスアカデミー」を実施し、総計250名の修了者を地域に送り出してきた。

平成24年度からは、この成果を受け、後継事業として、部局等が企画・実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラム（焼酎マイスター養成コース、次世代林業マイスター養成講座（旧「林業生産専門技術者養成プログラム」）、稲盛経営哲学プログラム、食品管理技術者養成コース）を、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証している。



▲講義（焼酎マイスター養成コース）

◆大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内13の高等教育機関（当時）が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立された。

令和2年度からは、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」として平成27年度から令和元年度まで実施された「食と観光で世界を魅了する『かごしま』の地元定着促進プログラム」の共同事業を継承し、また、鹿児島県内の国際交流の推進や留学支援を目的とした「鹿児島地域留学生交流推進会議」を本コンソーシアムに集約したことから、参加機関も国の機関、地方公共団体、産業関係団体及び各種団体を含む44機関に拡充された。さらに実施事業も再編し、現在「教育連携」「FD・SD活動」「教員免許状更新講習」「高大連携」「地域連携・就業」「地域留学生交流推進」の6事業部会を置き、活動を行っている。

〈参加機関〉



〈実施事業（「教育連携」）〉



▲かごしま教養プログラム



▲かごしまフィールドスクール

男女共同参画推進センター

鹿児島大学男女共同参画基本理念に基づく行動計画及び女性活躍推進法に係る一般事業主行動計画等により、男女共同参画の視点に立った情報提供や環境整備、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進、男女共同参画の視点に立った能力開発・能力発揮の支援、学外関係機関との連携等に取り組んでいる。

「研究支援員制度」「教員業務短期支援員制度」「保育支援制度」の運用や育児・介護制度紹介等による仕事と生活の両立支援、男女共同参画や女性リーダー育成に関するセミナー及び男女共同参画に係る共通教育科目等による意識醸成機会の提供、「メンター制度」の運用による相談対応等を実施している。

～一人ひとりが伸びやかに、自分らしく輝くために～



ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、平成20年7月に設置され、学生が様々なボランティア活動に参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整、災害支援ボランティア活動を行う学生に対する活動費の一部助成などの業務を行って、学生がボランティア活動に参加しやすい環境を設けて支援している。



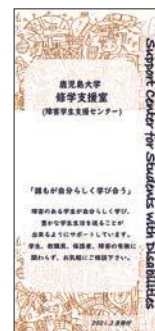
ピア・サポートルーム

学生の学生生活及び修学上の支援を図ることを目的に、上級生が学生の目線で下級生にアドバイスを行うピア・サポート（同じ立場の人同士（Peer）でサポートすること）制度を、平成24年4月にスタートさせた。その活動のための場所をボランティア支援センター内に設け、業務はボランティア支援センターで行っている。



修学支援室（障害学生支援センター）

修学支援室では、つまづきを感じている学生や障害を有する学生および保護者、担当教員からの修学に関わる相談に応じています。専任教員および事務職員が常駐し、障害を有する学生への支援を円滑に実施するため、各部署や保健管理センターと連携を取りながら、必要であれば、支援申請書の提出や修学支援会議を実施し、障害を有する学生が自分らしく豊かな学生生活を送ることができるように、支援を行っています。



URA センター

URAとは、University Research Administratorの略で、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する高度プロフェッショナル人材のことである。

URAセンターは、平成29年10月に設置され、現在4名のURAが、それぞれの専門性やこれまでのキャリアを活かし、「本学の研究力の調査分析」、「科学研究費助成事業等外部資金の獲得支援」、「分野横断型研究プロジェクトの創出支援」、「若手研究者研究支援」、「国際共同研究の推進・ネットワーク形成等に関する支援」、「研究者からの研究推進に関する個別相談」等、研究者が国際的に高い水準で研究できるように各種支援活動を実施している。

インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々との交流拠点として平成19年4月、正門に付設された。鹿児島大学の教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研究成果物の展示を行っている。スタッフが常駐し、市民が利用できる施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ等の販売を行っている。



開館時間 月～金曜日(祝祭日等除く) 9:30～16:30(販売は16:00まで)

販売物	鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、ねじめびわ茶、寮歌・学部歌歌集(CD)、全国藩校サミット鹿児島大会冊子、竹炭製吸臭・調湿材、オリジナルブレンドハーブティ、研究書籍、長命草シリーズ、サツマ黒味噌
主な展示物	ポストカード

総合研究博物館常設展示室(国登録有形文化財)

鹿児島大学には数多くの学術資料が蓄積されている。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設である。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設している。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けている。

現在、常設展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史資料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示しており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしている。



▲常設展示室外観

▲展示室内

開館時間 10:00～17:00 休館日 毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始(その他、臨時休館・閉館あり)

観覧料 無料

稲盛会館

稲盛和夫京セラ(株)名誉会長(昭和30年(1955年)鹿児島大学工学部卒)から工学部創立50周年記念事業(平成7年)の際に寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の職員その他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与することを目的としている。この建物は日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計によるもので、非常にユニークな構造であり、特に中央のキミ&ケサ メモリアルホールは卵型で、講演会・式典などに利用されている。



日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計
(地下1階～地上3階建、建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

キミ&ケサ メモリアルホール
(稲盛名誉会長のご両親の名前に由来)

稲盛記念館

本学の卒業生で、第一号の名誉博士である稲盛和夫鹿児島大学名誉博士より令和元年に寄贈されたもので、稲盛和夫名誉博士の哲学を学び、知の創造を刺激する場として、国際社会で活躍しうする有為な人材の育成と地域・産業界との連携強化を図ることを目的としている。ITコンセントを利用できるITプラザやフードコート・レストランがあり、学生・教職員が日常的に集うことができる施設となっている。また、稲盛和夫名誉博士の歩みや哲学等に触れる場として、稲盛ライブラリーや京都賞ライブラリーを設置している。



稲盛記念館外観

京都賞ライブラリー(3階)

植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、初代校長玉利喜造の命により計画された。そして10年後の大正8(1919)年頃、約1ヘクタールの分類式花壇として完成した。第二次世界大戦の戦災によって壊滅的な被害を受けたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られた。この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース)学生の樹木実習の場として利用されてきた。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられた。

植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されている。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されている。その後も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園の樹木たち」が刊行された。植物園には、豊富な樹種を目当てに種々の渡り鳥たちが集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れている。キャンパス内の緑のオアシスに是非足を運んでいただきたい。



学習交流プラザ

学生、教職員等が相互に交流を深めることにより、学生の進取の精神を育み、活気ある交流と情報交換を促進することを目的として、平成25年10月に設置された。

グループ学習室、学習ラウンジおよび学習交流ホールがあり、飲食もできるなど多様な学習形態に対応している。また、学生の自学自習をサポートするための書店や売店も併設されている。

〈施設名及び用途〉

階 別	施 設 名	用 途 等
1 階	ライフサポート フードコーナー 学習ラウンジ1 スタディサポート	売店 軽食・喫茶等 学習、休憩、談話等 文具、書籍、福利厚生関連商品の販売等
中2階	学習ラウンジ2 学習ラウンジ3 学習交流ホール グループ学習室	学習、休憩、談話等 学習、休憩、談話等 学習、講演会、研修、会議等 学習、研修、会議等
2 階	学習ラウンジ4	学習、休憩、談話等



食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施 設 名	延 面 積	席 数	所 在 地
中 央 食 堂	1,347㎡	638席	郡 元 地 区
軽食堂(ガロア)	121㎡	59席	郡 元 地 区
郡 元 南 食 堂	882㎡	222席	郡 元 地 区
フードコーナー(学習交流プラザ)	530㎡	188席	郡 元 地 区
桜ヶ丘 食 堂	518㎡	252席	桜ヶ丘地区
水産学部 食 堂	350㎡	130席	下 荒 田 地 区

大学会館

学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、昭和47(1972)年3月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっている。



階別	施 設 名	用 途 等
1	軽 食 堂	喫茶、食事 (59席)
	理 髪 室	理髪 (3台)
	共 用 談 話 室	休憩、談話 (48人)
2	音 楽 鑑 賞 室	音楽鑑賞 (51人)
	会 議 室 (1・2)	会議、研究会等(42人・20人)
3	和 室 (1～5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
4	ホ ー ル	音楽会、講演会、研究会等(300人)
	音楽練習室(1・2)	音楽等練習

課外活動施設

課外活動（サークル）は、大学教育における人間形成の上で非常に有益であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する学生会館以外に、平成14年3月に設置された学生サークル会館Ⅱ、平成25年10月に改築された学生サークル会館Ⅰなどがある。

学生サークル会館ⅠおよびⅡは、サークル間の交流・連携の場として、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室、多目的ホールおよびサークル室等を配置し、文化系、音楽系、体育系合わせて約120サークルが使用している。

施設名	所在地	備考
学生サークル会館Ⅰ・Ⅱ	郡元地区	文化系・音楽系・体育系サークル
馬房（厩舎）	郡元地区	馬術
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



体育施設（体育館等）



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設（武道場）	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m（7コース）

学生寮



棟名	区分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舎	A棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	〃	1,568	92
	女子寮	鉄筋4階建	1,627	81
	共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舎		鉄筋5階建	2,693	99
合計			7,617	348

国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年10月に、3号館が平成25(2013)年4月に設置された。



(1号館)			(2号館)		
室名	面積(㎡)	室数	室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	35室	単身室	12	30室
夫婦室	39	3室	夫婦室	40	6室
家族室	59	2室	家族室	56	4室
主事室	14		補食室	11	4室
事務室	16		洗濯室	11	4室
談話室	47		ラウンジコーナー	49	
娯楽室	94		応接コーナー	14	
和室	25		備考:延面積/1,259㎡ 建物構造/R4		
補食室	5~12	4室	(3号館)		
浴室	5~8	4室	室名	面積(㎡)	室数
洗濯室	10	4室	単身室	15.6	57室
管理入室	52		洗濯室	31.2	5室
倉庫	7		応接コーナー	15.6	1室
備考:延面積/1,430㎡ 建物構造/RC4			備考:延面積/1,507㎡ 建物構造/RC5		

外国人研究者宿泊施設

鹿児島大学を訪問する外国人研究者のための宿泊施設であり下荒田キャンパスに3棟、計22室の単身室がある。A棟は、鹿児島大学創立50周年記念事業の一環で寄付され、平成15年12月に完成した(鉄骨造地上2階、延床面積502㎡、計16室)。また、平成21年度からは共同研究終了後に譲渡された建物をB棟・C棟として新たに使用開始した(薄板軽量形鋼造地上2階、延床面積185.48㎡、計6室)。



大崎活性化センター

大崎活性化センターは、大崎町との「大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定」の締結により平成23年6月、大崎ものづくり会館内に設置された。

地域社会の教育・文化活動、健康・医療の推進、企業や自治体等との産学官連携活動等を通じて地域の課題解決に取り組み、活力ある地域の活性化を図ることを目的とし、地域教育・研究・交流の拠点として活用されている。

〒899-8313 鹿児島県曾於郡大崎町野方6222-1
TEL099-478-2611 FAX 099-478-2900



首都圏交流拠点

東京リエゾンオフィス

東京リエゾンオフィスは、首都圏における活動、情報の収集および発信等を活発に行うため、平成16年12月に東京都港区芝浦のキャンパス・イノベーションセンター(CIC)内に設置された。

主に、鹿児島大学の各種情報(大学概要・広報誌等)の提供、入試情報(各学部・研究科案内および募集要項等)の提供、首都圏における学生の就職支援および企業との技術相談・共同研究等に関する拠点として活用されている。

〒108-0023 東京都港区芝浦3丁目3番6号 キャンパス・イノベーションセンター(CIC)607号室
TEL・FAX:03-5440-9099 (CIC受付TEL03-5440-9020) ※現在スタッフは配置していない。



海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設は、鹿児島県伊佐郡(現伊佐市)出身の歴史小説家海音寺潮五郎氏のご遺族様より本学が寄贈を受けた世田谷区経堂の海音寺潮五郎記念館を、本学学生の首都圏における就職活動や学生および教職員が教育・研究等を行う際の東京拠点(宿泊施設)として改修・整備し、平成27年8月から運用を開始した。

〒156-0052 東京都世田谷区経堂2-12-9



JR山手線	小田急小田原線
JR中央線	都営三田線
京王線	都営浅草線
京王井の頭線	その他



郡元キャンパス

法文学部
教育学部
理学部
工学部
農学部
共同獣医学部

理工学研究科
臨床心理学研究科
連合農学研究科

- 1 北辰通り (大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稲盛通り (稲盛和夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り (附属農場越しに桜島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り (初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り (鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り

キャンパス

A-

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局
- 3 保健管理センター
- 4 埋蔵文化財調査センター・事務局車庫
- 5 農・獣医共通棟 (管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 共同獣医学部研究棟 A (獣医学科実験研究室)
- 7 共同獣医学部研究棟 B (獣医学科実験研究室)
- 8 農学部研究棟 C (生物資源化学科実験研究室)
- 9 農学部研究棟 D (生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- 10 農学部研究棟 E (生物環境学科・附属演習林実験研究室)
- 11 共同獣医学部附属動物病院大動物診療センター
- 12 共同獣医学部附属動物病院軽種馬診療センター
- 13 農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター (北辰蔵)
- 14 // 温室
- 15 // 植物研究実験施設
- 16 // 網室・硝子室
- 17 // 附属農場動物飼育棟
- 18 // 附属農場研究実験棟
- 19 // 低温貯蔵実験室
- 20 // 水理実験室
- 21 // 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟 (獣医学科実験研究室・総合研究博物館等)
- 23 研究支援センター (遺伝子実験施設)
- 24 研究支援センター (アイソトープ実験施設)
- 25 馬術部馬房
- 26 大学院連合農学研究科棟
- 27 総合研究博物館 (常設展示室)
- 28 学習交流プラザ
- 29 学生会館
- 30 中央食堂
- 31-1 南九州・南西諸島域共創機構棟 1 (地震火山地域防災センター)
- 31-2 南九州・南西諸島域共創機構棟 2 (産学・地域共創センター、URAセンター)

- 32 学術情報基盤センター
- 33 中央変電所・総合研究博物館標本収蔵庫
- 34 工学部情報・生体工学棟
- 35 地域コトづくりセンター棟
- 36 工学部電気電子工学棟
- 37 // 建築学棟
- 38 // 化学工学棟
- 39 // 機械工学第一実験棟
- 40 // 機械工学第二実験棟
- 41 // 機械工学第三実験棟
- 42 // 機械工学 2 号棟
- 43 // 機械工学 1 号棟
- 44 // 化学生命工学棟
- 45 // 薬品庫
- 46 // 海洋波動実験棟
- 47 稲盛会館
- 48 工学系講義棟
- 49 工学部海洋土木工学棟
- 50 // 共通棟
- 51 理工系総合研究棟・研究支援センター (機器分析施設)
- 52 理学部 1 号館 (管理室・物理・宇宙プログラム・化学プログラム・地球科学プログラム・実験研究室・講義室)、理学先端研究棟、天の川銀河研究センター
- 53 理学部 2 号館 (数理情報科学プログラム・生物学プログラム・化学プログラム・地球科学プログラム・実験研究室・講義室)





- 54 理学部3号館（生物学プログラム・実験研究室・講義室）
- 55 総合研究博物館
- 56 共通教育棟1号館（事務室・講義室・共通教育センター・キャリア形成支援センター・ボランティア支援センター・障害学生支援センター・グローバルセンター・高等教育研究開発センター）
- 57 共通教育棟2号館
- 58 稲盛アカデミー棟
- 59 共通教育棟3号館
- 60 共通教育棟4号館・環境安全センター
- 61 中央図書館
- 62 総合教育研究棟（司法政策教育研究センター・大学院臨床心理学研究科・国際島嶼教育研究センター）
- 63 法文学部1号館（管理棟・研究棟・講義棟）
- 64 " 2号館（研究棟・講義棟）
- 65 " 3号館（講義棟）
- 66 学生サークル会館Ⅱ-1
- 67 屋内プール50m
- 68 弓道場
- 69 学生サークル会館Ⅱ-2
- 70 第一体育館
- 71 第二体育館

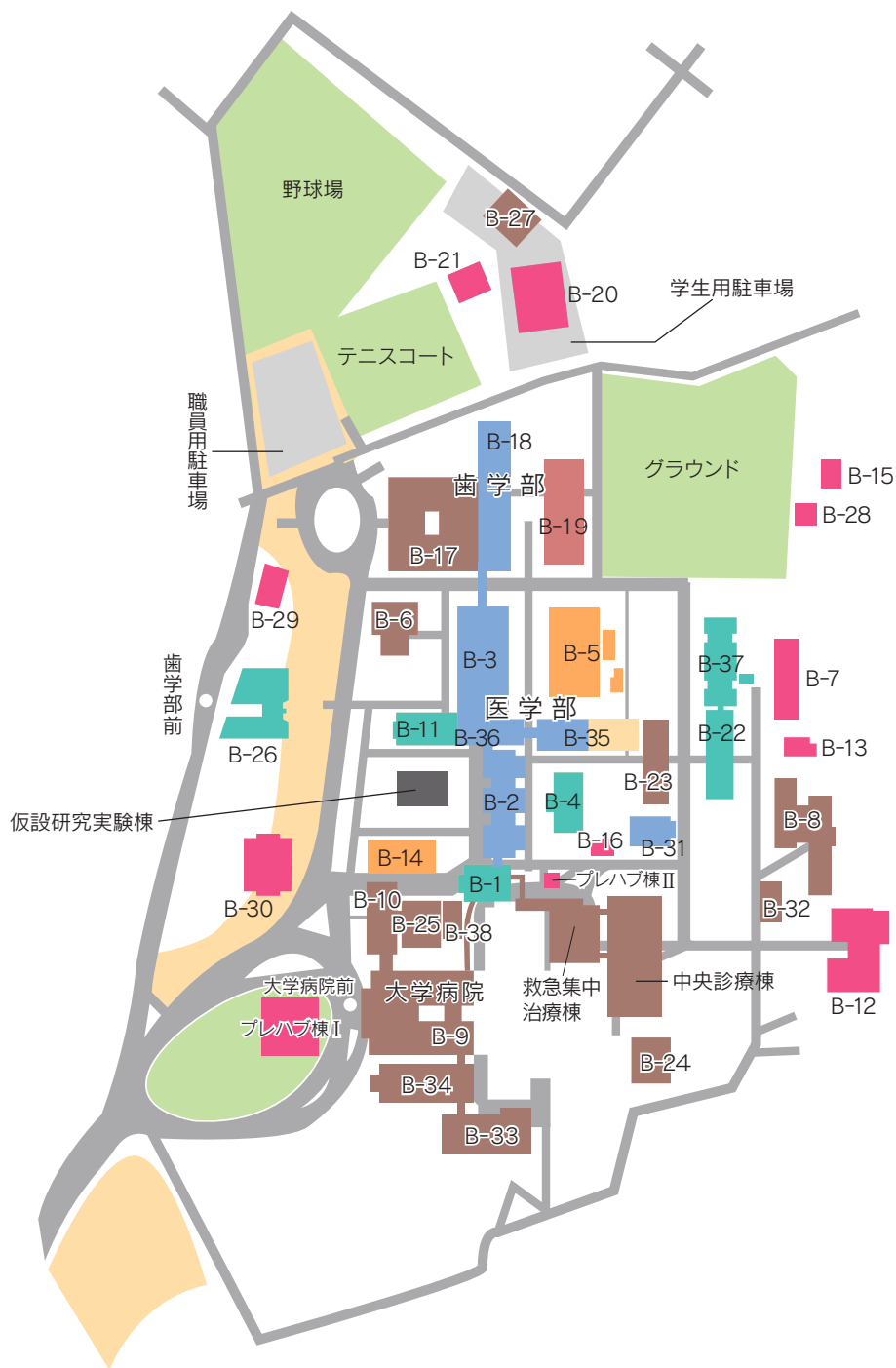
- 72 教育学部武道館
- 73 郡元南食堂
- 74 教育学部管理棟・理系研究棟
- 75 " 実習棟
- 76 " 第一講義棟
- 77 " 生涯教育総合研究棟
- 78 " 文系研究棟
- 79 " 附属教育実践総合センター
- 80 " 音楽美術科棟
- 81 " 附属幼稚園
- 82 " 附属小学校
- 83 " 附属小学校昆虫飼育室
- 84 " 附属小学校体育館
- 85 " 附属中学校
- 86 " 附属中学校体育館
- 87 学生寮
- 88 総合動物実験施設
- 89 教育学部第二講義棟（アクティブラーニングプラザ）
- 90 共同獣医学部附属動物病院小動物診療センター
- 91 さつぽん保育園
- 92 学生サークル会館Ⅰ
- 93 稲盛記念館

桜ヶ丘キャンパス

医学部
歯学部
医歯学総合研究科
鹿児島大学病院

B-

- ① 医学部臨床講義棟
- ② 医歯学総合研究科棟3(臨床医学系)
- ③ 医歯学総合研究科棟2(基礎医学系)
- ④ 実験施設
- ⑤ 研究支援センター(動物実験施設)
- ⑥ 福利厚生施設(桜ヶ丘会館)
- ⑦ 桜ヶ丘寄宿舍(学生寮)
- ⑧ 看護師宿舎
- ⑨ 鹿児島大学病院医科診療棟・病棟
- ⑩ 鹿児島大学病院管理棟
- ⑪ 医学部基礎講義実習棟
- ⑫ 中央機械棟
- ⑬ ポンプ室
- ⑭ 附属図書館桜ヶ丘分館(医学図書館)
- ⑮ サークル棟
- ⑯ 実験廃液処理施設
- ⑰ 鹿児島大学病院歯科診療棟
回復期リハビリテーション病棟
- ⑱ 医歯学総合研究科棟1(歯学系)
- ⑲ 歯学部講義・実習棟
- ⑳ 桜ヶ丘体育館
- ㉑ 運動器具庫
- ㉒ 医学部保健学科東研究棟
- ㉓ 共通教育棟
- ㉔ 資料保管庫
- ㉕ 医療情報施設
- ㉖ 鶴陵会館
- ㉗ 医学部・歯学部課外活動施設
- ㉘ 弓道場
- ㉙ さくらっ子保育園
- ㉚ 患者用立体駐車場
- ㉛ 医歯学総合研究科棟5
- ㉜ レジデントハウス
- ㉝ 病棟(C棟)
- ㉞ 病棟・診療棟(B棟)
- ㉟ 医歯学総合研究科棟4(新臨床医学系)
ヒトレトロウイルス学共同研究センター
- ㊱ 共同利用研究棟
- ㊲ 医学部保健学科西研究棟
- ㊳ 地域医療支援センター



関係施設凡例

- | | |
|----------------|---------------|
| ■ 大学院 医歯学総合研究科 | ■ 医・歯学部共用施設 |
| ■ 医学部 | ■ 学内共同教育研究施設等 |
| ■ 歯学部 | ■ 共通施設 |

下荒田キャンパス

水産学部

関係施設凡例

- 水産学部
- 学内共同教育研究施設等
- 共通施設



C-

- ① 1号館
- ② 2号館
- ③ 変電室
- ④ サークル棟
- ⑤ 3号館
- ⑥ 6号館(食堂(1階))
- ⑥ 6号館(附属海洋資源環境教育センター(2階))
- ⑦ 国際交流会館(1号館)
- ⑧ " (2号館)
- ⑨ " (3号館)
- ⑩ 大型回流水槽実験棟
- ⑪ 職員宿舎

- ⑫ 車庫・倉庫
- ⑬ 実験・実習支援棟
- ⑭ 5号館
- ⑮ 附属図書館水産学部分館(水産学図書館)
- ⑯ 4号館
- ⑰ 外国人研究者宿泊施設(A・B・C)

教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目



D-

- ① 校舎
- ② 体育館
- ③ 生活訓練棟
- ④ 水遊び場(プール)

学生寮

唐湊3丁目



A-89-

- ① 男子寄宿舎A棟
- ② " B棟
- ③ 女子寄宿舎
- ④ 共用棟

●所在地一覧●

【事 務 局】	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【法 文 学 部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
【教 育 学 部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
【附属幼稚園】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
【附属小学校】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
【附属中学校】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
【附属特別支援学校】	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
【附属教育実践総合センター 寺山自然教育研究施設】	〒890-0065 〒892-0871	〃 郡元一丁目20番6号 〃 吉野町10857-1	☎099(285)7111(代表)
【理 工 学 研 究 科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
【附属地域コトづくりセンター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8487
【附属天の川銀河研究センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)8012
【理学部・理工学研究科(理学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
【工学部・理工学研究科(工学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
【農 学 部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【附属農場】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
【学内農事部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8779
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十丁目1291番地	☎0993(22)2848
入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
附属演習林	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海潟3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝属郡南大隅町佐多大字馬籠349番地	
【附属焼酎・発酵学教育研究センター】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【水 産 学 部】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション	〒899-1403	出水郡長島町諸浦字蛤潟1620-3	☎0996(64)5013
附属海洋資源環境教育研究センター錦江湾ステーション	〒890-0062	鹿児島市与次郎二丁目9	
【共 同 獣 医 学 部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属動物病院	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
大隅産業動物診療研修センター	〒899-8313	曾於郡大崎町野方6222-1 大崎ものづくり会館内	☎099(478)1000
【附属越境性動物疾病制御研究センター】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【医 歯 学 総 合 研 究 科】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【医 学 部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【歯 学 部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【鹿児島大学病院】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【臨床心理学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
【総合農学研究科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【附属図書館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
【桜ヶ丘分館(医学図書館)】	〒890-8532	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5205
【水産学部分館(水産学図書館)】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
【保健管理センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
【共通教育センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8821
【稲盛アカデミー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3751
【高等教育研究開発センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8826
【キャリア形成支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7321・7341
【アドミッシンセンター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3049
【グローバルセンター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3601
【総合研究博物館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
【環境安全センター】	〒890-8520	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8126
【国際島嶼教育研究センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
奄美分室	〒894-0026	奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階	☎0997(69)4852
【研究支援センター】	〒890-8520	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
【動物実験施設】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5500
【遺伝子実験施設】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
【機器分析施設】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7188
【アイソトープ実験施設】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8740
【医用ミニボタ・先端医療開発研究センター】	〒890-8520	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
【先端医療開発分野】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
【臓器置換・異種移植外科分野】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
【遺伝子発現制御分野】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
【産学・地域共創センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	
【連携推進部門】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
【知的財産・リスクマネジメント部門】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3881
【生涯学習部門】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7294
【地震火山地域防災センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7234
附属南西島弧地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
【ヒトレトロウイルス学共同研究センター】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6246
【学術情報基盤センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7474
【埋蔵文化財調査センター】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7270
【司法政策教育研究センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3905
【ボランティア支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3146・3147
【障害学生支援センター】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3287
【稲盛会館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
【大学学生会館】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
【学 生 寮】	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
【国際交流会館(1号館・2号館・3号館)】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)7551
【外国人研究員等宿泊施設】	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
【外国人研究者宿泊施設】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	
【北米教育研究センター】	201 Spear St. Suite 1100, San Francisco, CA 94105	アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ	

※ A: 郡元キャンパス、B: 桜ヶ丘キャンパス、C: 下荒田キャンパス

資料編

- 51… 役職員等
- 54… 役職員数
- 56… 入学定員・現員数
- 57… 附属学校入学定員・現員数
- 58… 入学状況
- 60… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 61… 奨学生状況／経済支援制度
- 62… リポソトリ／学術刊行物
- 63… 産学官連携活動
- 64… 公開講座等
- 65… 学術国際交流協定締結状況
- 67… 海外研修・留学等支援
- 70… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 71… 外国人留学生
- 73… 収入・支出決算額/予算
- 74… 外部資金受入状況
- 76… 鹿児島大学病院・附属動物病院実績
- 77… 附属図書館実績
- 78… 土地・建物・船舶

役 員

学 長		佐 野 輝
【筆頭理事】		
理 事	研究・国際担当	馬 場 昌 範
理 事	総務担当	越 塩 俊 介
理 事	企画・社会連携担当	岩 井 久 晃
理 事	教育担当	武 隈 晃
理 事	特命担当(広報・男女共同参画推進)	石 窪 奈穂美
理 事	特命担当(附属病院経営)	萩 元 美恵野
監 事	業務監査	日 高 正 文
監 事	会計監査	松 枝 千 鶴

副 学 長

研究・国際担当	馬 場 昌 範
総務担当	越 塩 俊 介
企画・社会連携担当	岩 井 久 晃
教育担当	武 隈 晃
財務・施設担当	田 頭 吉 一
附属病院担当	坂 本 泰 二
情報担当	森 邦 彦
経営改革担当	渡 邊 睦

学長補佐

総務・人事担当	西 隆一郎
コンプライアンス担当	原 田 いづみ
広報担当	中 島 宏
企画・評価担当	尾 崎 孝 宏
法人評価担当	境 雅 夫
社会連携担当	高 橋 省 吾
防災担当	地頭園 隆
南九州畜産獣医学拠点担当	宮 本 篤
教務担当	溝 口 和 宏
地域人材育成プラットフォーム担当	橋 本 雅 仁
学生生活担当	前 田 雅 人
入試担当	土 田 理
高大接続・入試広報担当	太 田 一 郎
就職・学生支援担当	枚 田 邦 宏
研究企画推進担当	奥 野 浩 行
国際企画推進担当	畝田谷 桂 子
IR担当	北 原 兼 文

経営協議会委員

学 長	佐 野 輝
鹿児島県医師会会長	池 田 琢 哉
株式会社鹿児島銀行取締役会長(代表取締役)	上 村 基 宏
鹿児島県知事	塩 田 康 一
鹿児島市立病院長	坪 内 博 仁
学校法人津曲学園理事長	
鹿児島経済同友会代表幹事	津 曲 貞 利
日本瓦斯株式会社代表取締役社長	
株式会社南日本放送取締役相談役	中 村 耕 治
弁護士法人福元法律事務所代表社員	福 元 紳 一
JA鹿児島県中央会代表理事会長	山 野 徹
理 事	馬 場 昌 範

(令和3年5月1日現在)

理 事	越 塩 俊 介
理 事	岩 井 久 晃
理 事	武 隈 晃
鹿児島大学病院長	坂 本 泰 二
事務局長	田 頭 吉 一

教育研究評議会評議員

学 長	佐 野 輝
理 事	馬 場 昌 範
理 事	越 塩 俊 介
理 事	岩 井 久 晃
理 事	武 隈 晃
副 学 長	渡 邊 睦
法文学部長	松 田 忠 大
教育学部長	有 倉 巳 幸
理学部長	岡 村 浩 昭
医学部長	橋 口 照 人
歯学部長	西 村 正 宏
工学部長	木 下 英 二
農学部長	橋 本 文 雄
水産学部長	佐久間 美 明
共同獣医学部長	三 角 一 浩
鹿児島大学病院長	坂 本 泰 二
理工学研究科長	山 口 明 伸
医歯学総合研究科長	井 戸 章 雄
臨床心理学研究科長	中 原 睦 美
連合農学研究科長	寺 田 竜 太
ヒトレトロウイルス学共同研究センター 鹿児島大学キャンパス長	久保田 龍 二
附属図書館長	橋 口 知
学内共同教育研究施設代表者	森 邦 彦
総合教育機構長	武 隈 晃
研究推進機構長	馬 場 昌 範
南九州・南西諸島域共創機構長	岩 井 久
事務局長	田 頭 吉 一

事 務 局

事務局長	田 頭 吉 一
総務部長	田 中 智 雄
総務課長	中 間 勝 利
企画評価課長	山 下 憲一郎
人事課長	松 浦 洋 人
情報企画課長	田 中 賢 治
研究推進部長	玉 井 英 司
研究協力課長	尾 崎 誠
社会連携課長	今 辻 幸 二
財務部長	饗 場 厚
財務課長	大 津 信 輔
経理課長	玉 利 陽 二
学生部長(命)	内 山 修 一
教務課長	安 田 和 義
共通教育課長	大 園 豊美代
学生生活課長	永 松 巖
キャリア形成支援課長	下 田 智 子
入試課長	加 治 裕 文
国際事業課長	本 田 敏 幸

(令和3年5月1日現在)

施設部長	長 野 繁 美
企画課長	大久保 一 也
建築課長	松葉瀬 昭 仁
設備課長	初 井 輝 寿
学術情報部長	河 野 泰 久
情報管理課長	(河 野 泰 久)
情報サービス課長	徳 田 眞 澄

監査室

監査室長	安 永 いづみ
------	---------

学術研究院

学域長

理工学域長	山 口 明 伸
医歯学域長	井 戸 章 雄

学系長

法文学系長	松 田 忠 大
臨床心理学系長	中 原 睦 美
教育学系長	有 倉 巳 幸
理学系長	岡 村 浩 昭
工学系長	木 下 英 二
医学系長	橋 口 照 人
歯学系長	西 村 正 宏
農学系長	橋 本 文 雄
水産学系長	佐久間 美 明
獣医学系長	三 角 一 浩
総合教育学系長	武 隈 晃
総合研究学系長	馬 場 昌 範
共同学系長	馬 場 昌 範

学 部 等

法文学部

学部長	松 田 忠 大
副学部長	藤 内 哲 也
副学部長	中 島 大 輔
事務長	村 山 敬 三

教育学部

学部長	有 倉 巳 幸
副学部長	今 林 俊 一
副学部長	瀬 戸 房 子
副学部長	山 口 武 志
事務長	野 村 浩 史
附属教育実践総合センター長	土 田 理
附属幼稚園長	假屋園 昭 彦
附属小学校長	假屋園 昭 彦
附属中学校長	上 谷 順三郎
附属特別支援学校長	寺 床 勝 也

理学部

学部長	岡 村 浩 昭
副学部長	小 山 佳 一
副学部長	新 留 康 郎
副学部長	中 尾 茂

医学部

学部長	橋 口 照 人
副学部長	赤 崎 安 昭
副学部長	西 尾 善 彦
副学部長	大 脇 哲 洋
副学部長	八 代 利 香

歯学部

学部長	西 村 正 宏
副学部長	杉 浦 剛
副学部長	松 口 徹 也
副学部長	田 口 則 宏

鹿児島大学病院

病院長	坂 本 泰 二
副病院長(医科総括・医療安全担当)	石 塚 賢 治
副病院長(歯科総括・医療安全担当)	杉 浦 剛
薬剤部長	武 田 泰 生
看護部長	宮 園 幸 江
臨床技術部長	弓 場 裕 之
事務部長	山 崎 正 人
総務課長	鮎 川 秋 徳
経営企画課長	宮 野 英 彦
経理調達課長	横 枕 久美子
施設管理課長	松 崎 健太郎
医務課長	山 森 剛

工学部

学部長	木 下 英 二
副学部長	川 畑 秋 馬
副学部長	橋 本 雅 仁
副学部長	堀 江 雄 二

農学部

学部長	橋 本 文 雄
副学部長	北 原 兼 文
副学部長	山 本 雅 史
副学部長	寺 岡 行 雄
附属農場長	津 田 勝 男
附属演習林長	枚 田 邦 宏
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	玉 置 尚 徳

水産学部

学部長	佐久間 美 明
副学部長	上 西 由 翁
副学部長	佐 野 雅 昭
副学部長	石 川 学
事務長	瀬戸口 浩
附属練習船かごしま丸船長	内 山 正 樹
附属練習船南星丸船長	幅 野 明 正
附属海洋資源環境教育研究センター長	小 谷 知 也

共同獣医学部

学部長	三 角 一 浩
副学部長	三 好 宣 彰
副学部長	遠 藤 泰 之
附属動物病院長	藤 木 誠
附属越境性動物疾病制御研究センター長	小 原 恭 子

農学部・共同獣医学部等事務部

事務部長	中 村 智 子
総務課長	(中 村 智 子)
学務課長	橋 元 浩 幸

大 学 院

人文社会科学部研究科

研究科長	松 田 忠 大
副研究科長	竹 内 勝 徳

教育学研究科

研究科長	有 倉 巳 幸
------	---------

保健学研究科

研究科長	赤 崎 安 昭
副研究科長	八 代 利 香

農林水産学研究科

研究科長	佐久間 美 明
副研究科長	橋 本 文 雄

理工学研究科

研究科長	山 口 明 伸
副研究科長	岡 村 浩 昭
副研究科長	木 下 英 二
副研究科長	富 安 卓 滋
副研究科長	二 宮 秀 與
附属地域コトづくりセンター長	二 宮 秀 與
附属天の川銀河研究センター長	和 田 桂 一

理工学研究科等事務部

事務部長	原 田 隆
研究科・工学系総務課長	(原 田 隆)
研究科・工学系学務課長	立和名 幸 洋
理学系事務課長	松 崎 聖 一

医歯学総合研究科

研究科長	井 戸 章 雄
副研究科長	田 川 義 晃
副研究科長	山 崎 要 一

医歯学総合研究科等事務部

事務部長	内 山 保 一
総務課長	平 野 謙一郎
学務課長	大 中 浩 己

臨床心理学研究科

研究科長	中 原 睦 美
副研究科長	廣 瀬 幸 市

共同獣医学研究科

研究科長	三 角 一 浩
------	---------

連合農学研究科

研究科長	寺 田 竜 太
副研究科長	三 好 和 陸

機 構

(令和3年5月1日現在)

総合教育機構

機構長	武 隈 晃
高等教育研究開発センター長	伊 藤 奈賀子
共通教育センター長	末 吉 靖 宏
キャリア形成支援センター長	枚 田 邦 宏
アドミッションセンター長	太 田 一 郎
グローバルセンター長	畝田谷 桂 子

研究推進機構

機構長	馬 場 昌 範
医用ミニブタ・先端医療開発研究センター長	宮 田 篤 郎
国際島嶼教育研究センター長	河 合 深
研究支援センター長	小 山 佳 一

南九州・南西諸島域共創機構

機構長	岩 井 久
産学・地域共創センター長	高 橋 省 吾
地震火山地域防災センター長	地頭蘭 隆
附属南西島弧地震火山観測所長	中 尾 茂
司法政策教育研究センター長	米 田 憲 市

ヒトレトロウイルス学共同研究センター

センター長	松下修三(熊本大学)
鹿児島大学キャンパス長	久保田 龍 二

学内共同教育研究施設

附属図書館	
附属図書館長	橋 口 知
桜ヶ丘分館長	郡 山 千 早
水産学部分館長	宇 野 誠 一
保健管理センター所長	伊地知 信 二
稲盛アカデミー長	武 隈 晃
総合研究博物館長	本 村 浩 之
学術情報基盤センター長	森 邦 彦
埋蔵文化財調査センター長	中 村 直 子
環境安全センター長	富 安 卓 滋

海外拠点

北米教育研究センター長	スティーブン コーダ
-------------	------------

奄美群島拠点

奄美群島拠点長	岩 井 久
---------	-------

■職員数

(令和3年5月1日現在)

部局等名		役 員		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		教諭等		小 計		事務・技術・その他						小 計		非常勤職員		合 計			
																		事務		技術		その他									
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	合計	
役 員	学 長	1														1												1	1		
	理事・監事（非常勤含む）	5	3													5	3											5	3	8	
事務局	事 務 局 長																	1						1				1	1		
	監 査 室																	1	2					1	2		1	1	3	4	
	総 務 部																	55	20					55	20	32	11	87	31	118	
	研 究 推 進 部																	12	6					12	6		3	12	9	21	
	財 務 部																	25	5					25	5	1	3	26	8	34	
	学 生 部																	27	21					27	21	4	15	31	36	67	
	施 設 部																	2		17	1			19	1		4	19	5	24	
学部等	学 術 情 報 部																	6	14					6	14	14	23	20	37	57	
	法 文 学 部			39	6	22	9	1				2				62	17	10	7					10	7	1	9	73	33	106	
	教 育 学 部			15	1	27	8	8								50	9	8	10	1	1			9	11	2	10	61	30	91	
	附属教育実践総合センター			1	1											1	1											1	1	2	
	附 属 幼 稚 園												1	4	1	4												1	4	5	
	附 属 小 学 校												31	6	31	6	1	2				1	1	2	3		5	33	14	47	
	附 属 中 学 校												26	6	26	6		1						1		2	26	9	35		
	附 属 特 別 支 援 学 校												15	13	15	13	1	1						1	1		5	16	19	35	
	医 学 部			12	8	4	2	1	1	4	11					21	22											5	21	27	48
	鹿 児 島 大 学 病 院			3	1	7	1	32	7	71	29					113	38	49	31	12	1	197	729	258	761	285	329	656	1,128	1,784	
	農 学 部			21		28	2		2	5	3					54	7			2											
	附 属 農 場			1		2										3				15	1										
	附 属 演 習 林			1		1										2				4	1										
	附 属 焼 酎・発 酵 学 教 育 研 究 セ ン ター			2		1	1									3	1	16	14												
	共 同 獣 医 学 部			13		8	1			2						23	1														
	附 属 動 物 病 院			3		2				3	2					8	2			1			1								
	附 属 越 境 性 動 物 疾 患 制 御 研 究 セ ン ター					1	1	1			1	1				2	3														
	水 産 学 部			13	1	14	2	1		10	2					38	5			4	2										
	附属練習船かごしま丸																														
附属練習船南星丸																	7	5			17										
附属海洋資源環境教育研究センター																					9	1									
大学院	附 属 海 洋 資 源 環 境 教 育 研 究 セ ン ター			2						1					2	1			4												
	教 育 学 研 究 科			6	1	6									12	1												12	1	13	
	医歯学総合研究科（医学系）			40	2	13	4	14	3	42	21				109	30	28	17	3	5		4	31	26	2	174	206	250	456		
	医歯学総合研究科（歯学系）			19		10	2	4	1	31	17				64	20															
	附 属 南 九 州 先 端 医 療 開 発 セ ン ター																		1		1		2				2		2		
	臨 床 心 理 学 研 究 科			2	2	1	2				1				4	4										2	4	6	10		
	連 合 農 学 研 究 科			1											1												1		1		
	理 工 学 研 究 科																1						1					1		1	
総合教育機構	理工学研究科（理学系）			20	1	24	1	1	1	8	2				53	5	4	8	1				5	8	1	11	59	24	83		
	理工学研究科（工学系）			39	1	42				21	3				102	4	12	7	19	5			31	12	1	25	134	41	175		
	高等教育研究開発センター					1	1				1				2	1											2	1	3		
	共通教育センター			6	1	13	7	2	2	3	2				24	12										1	24	13	37		
研究推進機構	アドミッションセンター					1									1													1		1	
	グローバルセンター					3				1							4										1		5	5	
	キャリア形成支援センター					1					1				2												2		2		
	医用ミニブタ・先端医療開発研究センター					1										1										2	1	2	3		
南九州・南西諸島域共創機構	国際島嶼教育研究センター			2		2									4												1	4	1	5	
	研 究 支 援 セ ン ター			1		2									3				7				7			3	10	13	10	23	
	機 構 付																									2		2	2		
	産学・地域共創センター			1		1									2												4	2	4	6	
	地震火山地域防災センター																										3		3	3	
	附属南西島弧地震火山観測所					1									1										1	2	2	2	4		
	司法政策教育研究センター																								1	1	1	1	2		
	保健管理センター			1		1					1				2	1		2				2		4		4	2	9	11		
学内共同教育研究施設等	稲盛アカデミー					1				1					1	1												1	1	2	
	総合研究博物館			2							1				2	1											4	2	5	7	
	学術情報基盤センター			2		2					1				5													5		5	
	埋蔵文化財調査センター					1										1											3		4	4	
	環境安全センター										1					1				1			1					1	1	2	
	障害学生支援センター																										2		2	2	
	ボランティア支援センター																								1	1	1	1	2		
	北米教育研究センター																										1		1	1	
ヒトレトロウイルス学共同研究センター				2		2	1							4	1											6	4	7	11		
合 計		9	301	287	83	302	2	102	1,086	266	173	91	17	226	738	583	928	360	763	1,803	1,917										

(注) ※ 特任職員、休職者および休業者は含まない。再雇用職員、病院・動物病院特別常勤職員を含む。

※ 教員は教員組織（学術研究院）に所属し、学部等や研究科等の教育等に係る業務を主として担当するため、学術研究院および学部等・研究科等の両方に計上する。

※ 教務職員、事務系（図書系含む）・技術系以外の一般職員、海事職員（教員以外）および医療職員はその他に計上する。

■学術研究所属教員数

(令和3年5月1日現在)

学 域	学 系	教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		合 計		
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	合計
法 文 教 育 学 域	法 文 学 系	39	6	22	9	1					2	62	17	79
	臨 床 心 理 学 系	2	2	1	2			1				4	4	8
	教 育 学 系	22	3	33	8	8						63	11	74
理 工 学 域	理 学 系	20	1	24	1	1	1	8	2			53	5	58
	工 学 系	39	1	42				21	3			102	4	106
医 歯 学 域	医 学 系	52	10	17	6	15	4	46	32			130	52	182
	歯 学 系	19		10	2	4	1	31	17			64	20	84
	鹿児島大学病院	1	1	5	1	31	6	70	28			107	36	143
農水産獣医学域	農 学 系	25		32	3		2	5	3			62	8	70
	水 産 学 系	16	1	14	2	1		10	3			41	6	47
	獣 医 学 系	16	1	11	2			6	3			33	6	39
総 合 科 学 域	総合教育学系	6	4	16	8	2	3	5	2			29	17	46
	総合研究学系	6		9	1							15	1	16
	共 同 学 系	5	1	4			1	1	3			10	5	15
合 計		299		285		81		300		2		967		
		268	31	240	45	63	18	204	96		2	775	192	

■特任職員数

(令和3年5月1日現在)

部局等名		常 勤														小 計		非常勤														小 計		合 計		
		教	授	准教授	講	師	助	教	助	手	研究員	専門員	教	授	准教授			講	師	助	教	助	手	研究員	専門員											
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	合計						
事 務 局	総 務 部																								1	1	1	1	1	1	1					
	財 務 部											2		2																2		2				
	学 生 部												3		3												2	2	3	2	5					
学 部 等	教 育 学 部	3	1	1		1	1								5	2									1	1	1	1	6	3	9					
	附属教育実践総合センター																									1	1		1	1	1					
	医 学 部									1													1	1		1	1	1	2	3						
	鹿児島大学病院				1	1	31	7				1	21	33	29			1		1					6	22	7	23	40	52	92					
	農 学 部				1									1												1	1	1	1	2						
	附属演習林				1									1															1	1						
	附属焼酎・発酵学 教育研究センター							1							1														1	1						
	共同獣医学部							2	2						2	2									1	1	1	1	1	1	2					
	共同獣医学部附属動物病院																										2	2	2	4	6					
	水 産 学 部																						1				1		1	1						
大 学 院	人文社会科学部						1							1															1	1						
	農林水産学研究科																																			
	共同獣医学研究科			1										1															1	1						
	医歯学総合研究科	2		5		5	1	13	6			7	11	1	3	33	21			1	2		1	5			1	8	34	29	63					
	臨床心理学研究科																																			
	理工学研究科(理学系)						1			1					2														2		2					
	理工学研究科(工学系)							2							1	3														3	3					
	附属天の川銀河 研究センター																									1	1		1	1						
総 合 教育機構	高等教育研究開発センター						1		2		1			4															4		4					
	アドミッションセンター																																			
	グローバルセンター				1		1	1						4	1	6													1	6	7					
	キャリア形成支援センター														1	1									1	1		1	1	2						
研 究 推 進 機 構	医用ミニブタ・先端医 療開発研究センター						1								1				1							1		2		2						
	国際島嶼教育研究センター							1				1			2	1											1		1	2	3					
	研究支援センター																											1								
南 九 州・ 南 西 諸 島 域共創機構	産学・地域共創センター	3	1	1							2		1	7	1										1	2	1	2	8	3	11					
	地震火山地域防災センター	2									1			3																3		3				
	附属南西島弧地震火山観測所							1						1															1		1					
	司法政策教育研究センター																3	1										3	1	3	1	4				
学 内 共 同 教育研究 施設等	法務コンプライアンスセンター																																			
	男女共同参画推進センター																								1			1		1	1					
	障害学生支援センター							1							1															1	1					
	保健管理センター																									2	2		2	2						
	稲盛アカデミー													2	2															2	2					
	総合研究博物館							1							1														1		1					
	学術情報基盤センター	1												1	1	1													1	1	2					
	埋蔵文化財調査センター																																			
	URA センター	1		1	2										2	2													2	2	4					
	IR センター	1													1															1		1				
ヒトレトロウイルス 学共同研究センター	3			1			1	1						4	2									2			2	4	4	8						
合 計		18	13	13	75	3	24	41	187	5		2	4										12	46	69	256										
		16	2	9	4	9	4	54	21	2	1	12	12	8	33	110	77	4	1				1	1	1	3			3	9	11	35	20	49	130	126

(注) 休職者および休業者は含まない。

■学 部

(令和3年5月1日現在)

学 部	学科・課程	入学 定員	3年次 編入学定員	現 員						計
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
法 文 学 部	法 経 社 会 学 科	245	6	246 (105)	245 (107)	260 (131)	293 (120)	-	-	1,044 (463)
	人 文 学 科	165	4	168 (108)	169 (125)	175 (126)	201 (139)	-	-	713 (498)
	法 政 策 学 科 ※			-			5 (0)	-	-	5 (0)
	経 済 情 報 学 科 ※			-			17 (1)	-	-	17 (1)
	人 文 学 科 ※			-			16 (8)	-	-	16 (8)
	小 計	410	10	414 (213)	414 (232)	435 (257)	532 (268)	-	-	1,795 (970)
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	190		191 (115)	199 (118)	204 (96)	247 (121)	-	-	841 (450)
	特別支援教育教員養成課程 ※					17 (12)	20 (18)	-	-	37 (30)
	生涯教育総合課程 ※						3 (1)	-	-	3 (1)
	小 計	190		191 (115)	199 (118)	221 (108)	270 (140)	-	-	881 (481)
理 学 部	理 学 科	185		193 (57)	187 (60)					380 (117)
	数 理 情 報 学 科 ※					60 (9)	36 (5)	-	-	96 (14)
	物 理 学 科 ※					59 (10)	51 (8)	-	-	110 (18)
	生 命 化 学 科 ※					56 (22)	52 (24)	-	-	108 (46)
	地 球 環 境 学 科 ※					68 (24)	51 (18)	-	-	119 (42)
	小 計	185		193 (57)	187 (60)	243 (65)	190 (55)	-	-	813 (237)
医 学 部	医 学 科	110	10	122 (49)	130 (43)	112 (46)	104 (37)	107 (36)	130 (29)	705 (240)
	保 健 学 科	120	20	120 (101)	123 (100)	124 (101)	121 (99)	-	-	488 (401)
	小 計	230	30	242 (150)	253 (143)	236 (147)	225 (136)	107 (36)	130 (29)	1,193 (641)
歯 学 部	歯 学 科	53		67 (34)	44 (24)	49 (28)	56 (26)	48 (21)	52 (29)	316 (162)
	先 進 工 学 科	385	17	433 (64)	350 (59)					783 (123)
工 学 部	建 築 学 科	55	3	61 (15)	52 (14)					113 (29)
	機 械 工 学 科 ※			1 (0)	20 (0)	108 (8)	110 (8)	-	-	239 (16)
	電 気 電 子 工 学 科 ※			3 (0)	19 (1)	93 (6)	70 (1)	-	-	185 (8)
	建 築 学 科 ※			2 (0)	9 (2)	55 (17)	69 (32)	-	-	135 (51)
	環境化学プロセス工学科 ※			1 (0)	5 (0)	33 (4)	37 (4)	-	-	76 (8)
	海洋土木工学科 ※			0 (0)	19 (0)	61 (7)	42 (2)	-	-	122 (9)
	情報生体システム工学科 ※			1 (0)	13 (2)	91 (12)	93 (17)	-	-	198 (31)
	化 学 生 命 工 学 科 ※			0 (0)	4 (0)	58 (23)	44 (13)	-	-	106 (36)
	小 計	440	20	502 (79)	491 (78)	499 (77)	465 (77)	-	-	1,957 (311)
農 学 部	農 業 生 産 科 学 科	75		77 (42)	77 (39)	78 (41)	100 (41)	-	-	332 (163)
	食 料 生 命 科 学 科	70		68 (49)	69 (45)	67 (44)	80 (41)	-	-	284 (179)
	農 林 環 境 科 学 科	60		57 (21)	61 (23)	58 (19)	63 (15)	-	-	239 (78)
	生 物 生 産 学 科 ※			-			2 (1)	-	-	2 (1)
	生 物 資 源 化 学 科 ※			-			1 (0)	-	-	1 (0)
	生 物 環 境 学 科 ※			-			1 (0)	-	-	1 (0)
	国際食料資源学特別コース			13 (9)	18 (14)	19 (11)	-			50 (34)
	小 計	205		215 (121)	225 (121)	222 (115)	247 (98)	-	-	909 (455)
水 産 学 部	水 産 学 科	140		145 (40)	152 (44)	164 (50)	145 (45)	-	-	606 (179)
共同獣医学部	獣 医 学 科	30		31 (14)	34 (16)	30 (11)	32 (15)	30 (10)	29 (13)	186 (79)
合 計		1,883	60	2,000 (823)	1,999 (836)	2,099 (858)	2,161 (860)	185 (67)	211 (71)	8,656 (3,515)

(注) 1. () は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。 2. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期の編入学定員。 3. ※は旧学科、旧課程を表す。

4. 農学部および水産学部の国際食料資源学特別コースの現員は学科に含まれる。

<東京海洋大学海洋科学専攻科>

入学定員	現 員
10	10 (1)

(注) 1. 水産学部の学生は連携により東京海洋大学海洋科学専攻科に進学することができる。

2. この専攻科を修了した者は、海技士として船舶運航に従事するために必要な資格を得ることができる。

3. () は女子で内数。

■大学院

(令和3年5月1日現在)

研 究 科	入学 定員	現 員								
		修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程					合 計
		1年	2年	計	1年	2年	3年	4年	計	
人 文 社 会 科 学 研 究 科	28	20 (12)	29 (18)	49 (30)						49 (30)
	6				2 (1)	6 (5)	10 (2)		18 (8)	18 (8)
教 育 学 研 究 科			26 (14)	26 (14)						26 (14)
	20				19 (8)	17 (4)			36 (12)	36 (12)
保 健 学 研 究 科	22	23 (12)	27 (15)	50 (27)						50 (27)
	6				6 (2)	10 (3)	6 (2)		22 (7)	22 (7)
理 工 学 研 究 科	286	314 (44)	300 (34)	614 (78)						614 (78)
	24				8 (0)	9 (2)	9 (1)		26 (3)	26 (3)
農 林 水 産 学 研 究 科	101	117 (51)	83 (32)	200 (83)						200 (83)
医 歯 学 総 合 研 究 科	10	12 (7)	12 (5)	24 (12)						24 (12)
	50				54 (11)	62 (17)	46 (11)	152 (36)	314 (75)	314 (75)
臨 床 心 理 学 研 究 科	15				16 (10)	15 (13)			31 (23)	31 (23)
連 合 農 学 研 究 科	23				27 (6)	33 (12)	45 (21)		105 (39)	105 (39)
共 同 獣 医 学 研 究 科	6				6 (2)	6 (2)	11 (1)	7 (0)	30 (6)	30 (6)
合 計	597	486 (126)	477 (118)	963 (244)	138 (40)	158 (58)	127 (38)	159 (37)	582 (173)	1,545 (417)

(注) 1. () は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。

2. 教育学研究科学校教育実践高度化専攻、臨床心理学研究科は専門職学位課程である。

3. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(令和3年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3年保育 20 2年保育 15	19	34	33	86	3歳児、4歳児、5歳児 各1学級 計3学級

(注)4歳児は3年保育進級児と2年保育入園児、5歳児は4歳児の進級児

【教育学部附属小学校】

(令和3年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
	単式学級	1年 105 2～6年 140	104	137	137	137	130	132	777	1年3学級、2～6年4学級 計23学級
	複式学級	1年 8	8						43	1・2年で1学級
		2年 8		8						
		3年 8			8					
		4年 8				8				
		5年 8					5			
		6年 8						6		5・6年で1学級
	合 計	1年 113 2～6年 148	112	145	145	145	135	138	820	計26学級

【教育学部附属中学校】

(令和3年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
	普通学級	180	180	178	178	536	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(令和3年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
	小学部	3	3	3	3	2	3	17	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級	
	中学部	6	7	5	6	-	-	-	18	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	8	8	8	-	-	-	24	各学年1学級 計3学級

学部

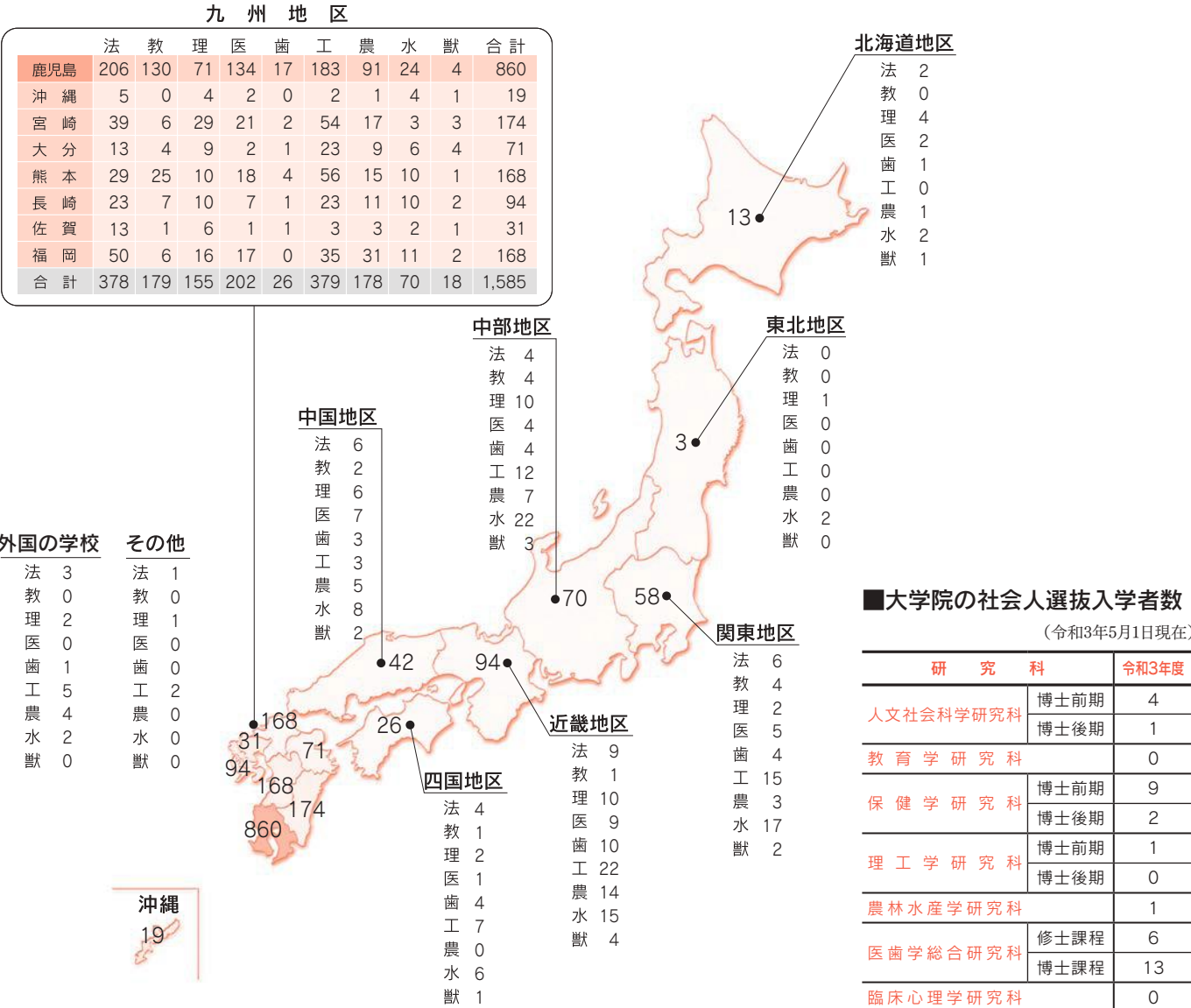
(令和3年度)

学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地		入学者の出身地割合(%)	
				県 内	県 外	県 内	県 外
法 文 学 部	410	1,315 (675)	413 (213)	206	207	49.9	50.1
教 育 学 部	190	769 (414)	191 (115)	130	61	68.1	31.9
理 学 部	185	693 (214)	193 (57)	71	122	36.8	63.2
医 学 部	230	940 (497)	230 (149)	134	96	58.3	41.7
歯 学 部	53	236 (116)	53 (26)	17	36	32.1	67.9
工 学 部	440	1,467 (241)	445 (76)	183	262	41.1	58.9
農 学 部	205	460 (265)	212 (118)	91	121	42.9	57.1
水 産 学 部	140	500 (155)	144 (40)	24	120	16.7	83.3
共同獣医学部	30	157 (86)	31 (14)	4	27	12.9	87.1
合 計	1,883	6,537 (2,663)	1,912 (808)	860	1,052	45.0	55.0

(注) ()内は女子を内数で表す。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験合格(従前の大学入学資格検定合格を含む)の入学者を表す。



■大学院の社会人選抜入学者数

(令和3年5月1日現在)

研 究 科	令和3年度
人文社会科学研究科	博士前期 4
	博士後期 1
教 育 学 研 究 科	0
保 健 学 研 究 科	博士前期 9
	博士後期 2
理 工 学 研 究 科	博士前期 1
	博士後期 0
農林水産学研究科	1
医歯学総合研究科	修士課程 6
	博士課程 13
臨床心理学研究科	0
共同獣医学研究科	0
連合農学研究科	0
合 計	37

(注) 現職教員を含む。

■大学院(志願者・受験者・合格者状況)【10月入学を除く】

【修士課程・博士前期課程】

(令和3年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	
人文社会科学研究科	法学専攻	5	4	3	0	7	4	3	0	7	4	2	0	6				6
	経済社会システム専攻	10	0	0	3	3	0	0	3	3	0	0	1	1				1
	人間環境文化論専攻	5	2	1	2	5	1	1	2	4	0	1	1	2				2
	国際総合文化論専攻	8	4	1	3	8	4	1	3	8	4	1	3	8				8
	計	28	10	5	8	23	9	5	8	22	8	4	5	17				17
保健学研究科	保健学専攻	22	18	9	0	27	18	9	0	27	14	9	0	23				23
理工学研究科	理学専攻	64	76	0	2	78	75	0	2	77	73	0	2	75				62
	工学専攻	222	274	1	1	276	269	1	1	271	268	1	1	270				252
	計	286	350	1	3	354	344	1	3	348	341	1	3	345				314
医歯学総合研究科	医科学専攻	10	6	6	0	12	6	6	0	12	6	6	0	12				12
農林水産学研究科	農林資源科学専攻	39	41	0	13	54	39	0	13	52	37	0	9	46				44
	食品創成科学専攻	26	39	0	4	43	37	0	4	41	37	0	4	41				38
	環境フィールド科学専攻	16	20	0	0	20	19	0	0	19	17	0	0	17				17
	水産資源科学専攻	20	20	1	2	23	20	1	1	22	18	1	1	20				18
	計	101	120	1	19	140	115	1	18	134	109	1	14	124				117
合 計		447	504	22	30	556	492	22	29	543	478	21	22	521				483

【博士課程・博士後期課程】

(令和3年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	進学者	計	一般	社会人	留学生	進学者	計	一般	社会人	留学生	進学者	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学専攻	6	0	1	1	1	3	0	1	1	1	3	0	1	1	1	3	2
保健学研究科	保健学専攻	6	5	2	0	—	7	5	2	0	—	7	4	2	0	—	6	6
理工学研究科	総合理工学専攻	24	4	0	1	—	5	4	0	1	—	5	4	0	1	—	5	5
医歯学総合研究科	健康科学専攻	19	7	2	1	—	10	7	2	1	—	10	7	2	1	—	10	8
	先進治療科学専攻	31	29	12	4	—	45	29	12	4	—	45	28	12	4	—	44	44
	計	50	36	14	5	—	55	36	14	5	—	55	35	14	5	—	54	52
連合農学研究科	生物生産科学専攻	7	9	—	—	—	9	8	—	—	—	8	8	—	—	—	8	8
	応用生命科学専攻	8	4	—	—	—	4	4	—	—	—	4	4	—	—	—	4	4
	農水圏資源環境科学専攻	8	8	—	—	—	8	8	—	—	—	8	8	—	—	—	8	8
	計	23	21	—	—	—	21	20	—	—	—	20	20	—	—	—	20	20
共同獣医学研究科	獣医学専攻	6	7	—	—	—	7	7	—	—	—	7	5	—	—	—	5	5
合 計		115	73	17	7	1	98	72	17	7	1	97	68	17	7	1	93	90

【専門職学位課程】

(令和3年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
教育学研究科	学校教育実践高度化専攻	20	24	—	—	24	23	—	—	23	19	—	—	19	19
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	15	32	0	1	33	29	0	0	29	16	0	0	16	16
合 計		35	56	0	1	57	52	0	0	52	35	0	0	35	35

■卒業生数・就職状況

(令和3年5月1日現在)

学 部	卒業生数 〈累 計〉	令和2年度 卒業生数	就 職 状 況																
			就職 希望者 数	就 職 者 数	就 職 率 (%)	業 種 別						地 区 別							
						農 林 業 漁 業	建 設 業 電気・ガス・水道 情報・通信・運輸 卸売・小売	金融・保険 医療・福祉 教育・学習 サービス	公務員	教 員	その他	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	鹿児島 県 内	その他
法 文 学 部	18,255	428	350	329	94.0		86	91	113	8	31	42	1	10	2		101	157	16
教 育 学 部	20,309	224	192	182	94.8		18	32	29	103		12	4	6	2		48	110	
理 学 部	7,904	162	75	73	97.3		32	13	17	9	2	14	1	4		1	23	30	
医 学 部	8,314	228	99	97	98.0			90	7			6	2	3	3		17	66	
歯 学 部	2,257	54																	
工 学 部	20,522	462	186	183	98.4		127	31	21		4	77	8	15	4	2	41	33	3
農 学 部	13,823	198	129	127	98.4	6	47	29	34	2	9	29	7	5	9		38	36	3
水 産 学 部	8,387	143	97	93	95.9	3	56	19	12	2	1	36	14	6	4		10	22	1
共同獣医学部 (文理学部)	122	32	26	26	100.0		1	17	8			6	3	1	1	2	6	6	1
合 計	102,544	1,931	1,154	1,110	96.2	9	367	322	241	124	47	222	40	50	25	5	284	460	24

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降を計上した。

2. 卒業生数は9月卒業生を含む。

3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。

4. 卒業生数(累計)には、令和2年度を含む。

■大学院修了生数

(令和3年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	令和2年度 修了生数	修了生数 (累計)	令和2年度 修了生数	修了生数 (累計)	令和2年度 修了生数
人文社会科学研究科	665	27	29	3	-	-
教育学研究科	892	15	-	-	41	13
保健学研究科	344	20	14	3	-	-
医学研究科*	-	-	581	-	-	-
理工学研究科	7,658	271	435	8	-	-
農学研究科	2,307	1	-	-	-	-
水産学研究科	1,315	1	-	-	-	-
農林水産学研究科	87	87	-	-	-	-
医歯学総合研究科	216	15	549	42	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	144	-
臨床心理学研究科	-	-	-	-	194	15
連合農学研究科	-	-	799	20	-	-
法学研究科*	123	-	-	-	-	-
人文科学研究科*	120	-	-	-	-	-
理学研究科*	539	-	-	-	-	-
歯学研究科*	-	-	112	-	-	-
合計	14,266	437	2,519	76	379	28

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。

2. *印は旧研究科である。

■学位授与状況

(令和3年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累計	令和2年度 授与	累計	令和2年度 授与	累計	令和2年度 授与	累計	令和2年度 授与
人文社会科学研究科	665	27	43	3	1	0	-	-
教育学研究科	892	15	-	-	-	-	41	13
保健学研究科	344	20	25	4	3	0	-	-
医学研究科	-	-	701	-	1,484	-	-	-
歯学研究科	-	-	136	-	71	-	-	-
理工学研究科	7,658	271	499	10	80	1	-	-
農学研究科	2,307	1	-	-	-	-	-	-
水産学研究科	1,315	1	-	-	-	-	-	-
農林水産学研究科	87	87	-	-	-	-	-	-
医歯学総合研究科	216	15	604	45	40	2	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	-	-	144	-
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-	194	15
連合農学研究科	-	-	996	21	140	2	-	-
(法学研究科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人文科学研究科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理学研究科)	539	-	-	-	-	-	-	-
合計	14,266	437	3,004	83	1,819	5	379	28

(注) 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。

■奨学生状況

(令和3年5月1日現在)

学 部 ・ 研 究 科 等		在 学 生 数	給 付	日 本 学 生 支 援 機 構		各 種 団 体 育 英 会	計	在 学 生 対 する 百 分 率
				第 一 種 奨 学 生	第 二 種 奨 学 生			
学 部	法 文 学 部	1,795	235	368	262	12	877	48.9
	教 育 学 部	881	102	177	113	13	405	46.0
	理 学 部	813	86	151	107	2	346	42.6
	医 学 部	1,193	98	183	187	12	480	40.2
	歯 学 部	316	21	32	44	2	99	31.3
	工 学 部	1,957	175	363	281	4	823	42.1
	農 学 部	909	97	186	126	1	410	45.1
	水 産 学 部	606	59	83	60	2	204	33.7
	共同獣医学部	186	14	24	21	8	67	36.0
	計	8,656	887	1,567	1,201	56	3,711	42.9
大 学 院 (修士課程)	人文社会科学研究科	49		5	2	1	8	16.3
	教育学研究科	26		5	0	0	5	19.2
	保健学研究科	50		5	1	0	6	12.0
	理工学研究科	614		131	16	3	150	24.4
	農林水産学研究科	200		30	1	0	31	15.5
	医歯学総合研究科	24		1	0	0	1	4.2
	計	963		177	20	4	201	20.9
大 学 院 (博士課程)	人文社会科学研究科	18		2	0	0	2	11.1
	保健学研究科	22		2	0	0	2	9.1
	理工学研究科	26		4	0	0	4	15.4
	医歯学総合研究科	314		21	0	4	25	8.0
	共同獣医学研究科	30		3	0	0	3	10.0
	連合農学研究科	105		6	0	5	11	10.5
	計	515		38	0	9	47	9.1
大 学 院 (専門職学位課程)	教育学研究科	36		2	1	0	3	8.3
	臨床心理学研究科	31		5	1	0	6	19.4
	計	67		7	2	0	9	13.4
合 計		10,201		1,789	1,223	69	3,968	38.9

※在学者数は外国人留学生を含む

<備考:日本学生支援機構奨学金月額(令和3年度入学者)>

■新型給付奨学生 ●学部生のみ 第Ⅰ区分-自宅生:29,200(33,300)円/自宅外生66,700円 ※()は生活保護者、児童養護施設出身者等の給付額
第Ⅱ区分-自宅生:19,500(22,200)円/自宅外生44,500円 第Ⅲ区分-自宅生:9,800(11,100)円/自宅外生22,300円

■第一種奨学生 ●学部生:自宅通学20,000・30,000・45,000円/自宅外通学20,000・30,000・40,000・45,000・51,000円

●大学院生:修士・博士前期課程50,000・88,000円/博士後期課程80,000・122,000円

■第二種奨学生 ●学部生:20,000・30,000・40,000・50,000・60,000・70,000・80,000・90,000・100,000・110,000・120,000円

●大学院生:50,000・80,000・100,000・130,000・150,000円

■大学独自の経済支援制度

鹿児島大学離島高等学校出身者支援スタートアップ奨学金

鹿児島県内の離島地域に所在する高等学校を卒業し、現役で鹿児島大学に入学した学部生のうち、入学年度の本学前期分授業料免除を申請し、許可された学生を対象に、予算の範囲内で25万円を給付する制度である。

種村完司私費外国人留学生奨学金

鹿児島大学名誉教授で、元教育学生担当理事の種村完司氏からの寄付金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するために、平成22年7月に設立されたもの。出入国管理及び難民認定法別表第1の4の表に規定する「留学」の在留資格を有する者で、本学の学部および大学院の正規課程に在籍する私費外国人留学生を対象として、毎年度5名の学生に支給している。

■リポジトリ

(令和3年3月31日現在)

学 部 等	論 文 数
法 文 学 部	1,248
教 育 学 部	2,458
理 学 部	608
医 学 部	157
歯 学 部	307
工 学 部	1,139
農 学 部	2,612
水 産 学 部	1,087
共 同 獣 医 学 部	37
人 文 社 会 学 研 究 科	145
保 健 学 研 究 科	27
理 工 学 研 究 科	919
医 歯 学 総 合 研 究 科	1,246
法 科 大 学 院 (2004.4~2017.3)	2
臨床心理学研究科(専門職大学院)	15
連 合 農 学 研 究 科	572
山 口 大 学 連 合 獣 医 学 研 究 科	5
鹿 児 島 大 学 病 院	56
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	1,755
教 養 部 (1965.4-1997.3)	23
学 内 プ ロ ジ ェ ク ト	246
関 連 学 会 等	624
合 計	15,288



■学術刊行物

学 部	刊 行 物	発 行 回 数
法 文 学 部	鹿児島大学法学論集	年 2 回
	経済学論集(法文学部紀要)	年 2 回
	鹿児島大学法文学部紀要人文学科論集	年 1 回
	鹿児島大学法文学部国語国文学会誌(国語国文薩摩路)	年 1 回
	鹿大史学会誌(鹿大史学)	年 1 回
	地域政策科学研究	年 1 回
教 育 学 部	Discussion Papers In Economics and Sociology	不 定 期
	鹿児島大学教育学部研究紀要(人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編)	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属幼稚園研究誌	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究冊子	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要	隔 年 1 回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医 学 部	鹿児島大学医学雑誌	ネッ上で随時更新
	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 1 回
歯 学 部	南九州歯学会雑誌	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	不 定 期
	鹿児島大学農学部農場年報	年 1 回
	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
国 際 島 嶼 教 育 研 究 セ ン タ ー	南太平洋研究	年 2 回
	南太平洋海域調査研究報告	不 定 期
	島嶼研だより	年 2 回
	South Pacific Newsletter	年 1 回
	島嶼研分室だより	年 2 回
保 健 管 理 セ ン タ ー	鹿児島大学島嶼研ブックレット	年 2 回
	年報	年 1 回
グ ロー バ ル セ ン タ ー	紀要	年 1 回
総 合 研 究 博 物 館	鹿児島大学総合研究博物館研究報告	不 定 期
	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	不 定 期
	鹿児島大学総合博物館ニューズレター	年 2 回
学 術 情 報 基 盤 セ ン タ ー	年報	年 1 回
	事業報告書	年 1 回
産 学 ・ 地 域 共 創 セ ン タ ー	研究シーズ集	隔 年 1 回 (ネット上随時更新)
	かごしま生涯学習研究ー大学と地域	年 1 回
稲 盛 ア カ デ ミ ー	鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要	年 1 回
研 究 支 援 セ ン タ ー	動物実験施設年報	年 1 回
	遺伝子実験施設年報	年 1 回
	機器分析施設年報	年 1 回
環 境 安 全 セ ン タ ー	環境安全センターだより	年 1 回 (ネット上随時更新)
埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー	埋蔵文化財調査センター調査報告書	年 1 回
	年報	年 1 回

■協 定

協 定 名	協 定 締 結 年 月 日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県酒造組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島県青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学官連携に関する基本協定	平成21年 5月28日
国立大学法人鹿児島大学と九州森林管理局との九州の林業再生のための必要な人材育成等に関する協定	平成21年10月29日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町・国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日
大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定	平成23年 6月24日
南さつま市と国立大学法人鹿児島大学との健康長寿のまちづくり推進事業に関する連携協定	平成24年 7月27日
国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人水産総合研究センターとの包括連携に関する協定	平成25年 9月27日
公益財団法人東京オリムピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定	平成26年 6月23日
鹿児島県と国立大学法人鹿児島大学の動物疾病制御及び関連分野に係る相互連携に関する協定	平成26年 7月 3日
特定非営利活動法人 NPO 造士館講座と国立大学法人鹿児島大学との連携協定	平成26年 7月 7日
株式会社鹿児島銀行及び野村證券株式会社との産学連携授業に関する連携協定	平成26年 9月26日
奄美群島広域事務組合との包括連携協定	平成26年11月28日
与論町漁業協同組合と国立大学法人鹿児島大学との水産学分野における実践的教育研究等に関する協定	平成27年 7月14日
鹿児島商工会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年 4月 7日
国立大学法人鹿児島大学と株式会社三井住友銀行との産学連携協力に関する協定	平成28年 8月29日
国立大学法人鹿児島大学と環境省自然環境局との自然環境保全に係る連携・協力に関する協定	平成28年10月31日
日置市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年11月 1日
大学間連携による光・赤外線天文学研究教育拠点のネットワーク構築事業に関する協定	平成29年 4月 1日
株式会社鹿児島銀行と鹿児島県内大学等(8校)との地方創生に関する取組に関する協定	平成29年 4月 7日
志布志市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成29年 5月 8日
林野庁九州森林管理局と国立大学法人鹿児島大学の連携と協力に関する協定書	平成29年8月30日
国立大学法人鹿児島大学と大学共同利用機関法人人間文化研究機構との連携・協力に関する協定	平成30年 6月 1日
伊佐市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成30年 7月 6日
国立大学法人鹿児島大学とJAグループ鹿児島との組織間連携の推進に関する協定	平成31年 3月 4日
南九州市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成31年 3月13日
国立大学法人鹿児島大学と国立大学法人熊本大学とのヒトレトロウイルス学共同研究センターの編成及び運営に関する協定	平成31年 3月18日
薩摩川内市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	令和元 年 7月 2日
徳之島3町(徳之島町・天城町・伊仙町)と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	令和2 年 5月15日
地域密着型パイロット人材創出プログラムの実施に伴う連携協力に関する協定	令和2 年10月15日
国立大学法人鹿児島大学と日本航空株式会社及び日本エアコミューター株式会社との包括連携に関する協定	令和3 年 3月16日

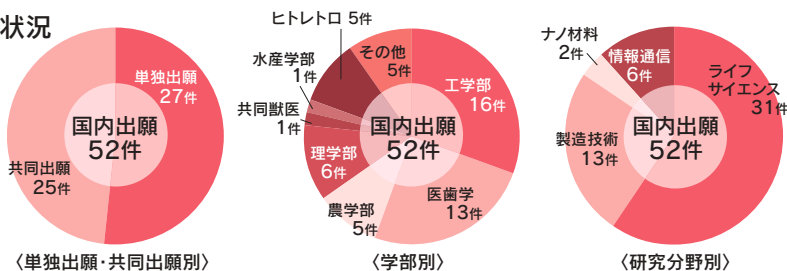
■寄附講座

部 局 名	講 座 名	設 置 期 間	寄 附 者 名	主 な 研 究 内 容 等
医 歯 学 総 合 研 究 科	医 療 関 節 材 料 開 発 講 座	平成18年6月1日～令和5年3月31日	京セラ㈱	●人工股関節の開発 ●最小侵襲手術手技(MIS)の確立と器具の開発、間接潤滑、骨吸収、骨形成、軟骨再生 ●軟骨分化 ●変形性股関節症の成因
	シ ス テ ム 血 栓 制 御 学 講 座	平成27年4月1日～令和5年3月31日	薬種開発㈱ 藤森工業㈱ ㈱シノテスト 旭化成ファーマ㈱	●血栓傾向、血栓準備状態の診断と治療法の開発 ●生体の各臓器・細胞のエネルギー要求度に応じた数量分配の分子細胞機構の機構とその病態の解明、治療法の開発
	が ん 病 態 外 科 学 講 座	平成29年7月1日～令和4年6月30日	中外製薬㈱ 社会医療法人 聖医会 ㈱新日本科学	●消化器癌における微小癌細胞及びオルガノイドの基礎及び臨床研究
	地 域 医 療 ・ 健 康 医 学 講 座	平成30年12月1日～令和5年11月30日	出水市病院事業	●出水地区において、生活習慣病および消化器疾患の高リスク群を囲い込み、健康寿命の延伸を図るとともに、生活習慣病や消化器疾患の発症・重症化予防モデルを確立する。
	心 血 管 病 予 防 分 析 学 講 座	平成31年4月1日～令和4年3月31日	社会医療法人義順顕彰会	●心血管病を予知・予防する先制医療を実現し、健康寿命延伸に寄与するモデルとして、種子島において既存の健診を生かした島民健康分析を行う。
	婦 人 科 が ん 先 端 医 療 学 講 座	令和2年4月1日～令和5年3月31日	指宿市	●婦人科がんに対するがん遺伝子パネル検査 ●ナノメディシンを利用した低毒性抗がん剤の開発 ●子宮がんに対するセンチネルノードナビゲーションサージャーリー ●妊産性温存・拳児希望を希望する若年子宮頸がん患者に対する公汎子宮頸部摘出術 ●婦人科がんロボット手術による患者QOL向上とロボット手術遠隔医療に関する研究
	骨 関 節 医 学 講 座	令和2年4月1日～令和7年3月31日	出水市病院事業	●骨関節障害の新規治療法開発を目的とした病態メカニズムの研究
	医 用 ミ ニ プ ラ ・ 先 端 医 療 開 発 研 究 セ ン タ ー	高 生 体 適 合 性 医 療 機 器 ・ 臓 器 開 発 講 座 平成29年6月1日～令和4年3月31日	社会医療法人白光会白石病院 日本ゴア㈱ ニプロ㈱ ㈱カネカメディックス ㈱ジェイ・エム・エス 有限会社中央医療器械	●血液透析臨床医療における問題点把握と既存医療機器の課題把握 ●新規医療機器の開発と前臨床研究による評価 ●脱細胞化生体組織を用いた生体適合性組織・臓器の開発

■共同研究講座

設置部局	共同研究講座名(設置年月)	相手方企業等	設置期間
理工学研究科	CRS資源循環システム(令和2年4月)	CRS株式会社	R2.4.1～R4.3.31
医歯学総合研究科	漢方薬理学(令和3年1月)	クラシエ製薬株式会社	R3.1.1～R5.12.31
	次世代GcMAF創薬学(令和3年4月)	医療法人再生未来	R3.4.1～R6.3.31
	地域連携外科学(令和3年4月)	社会医療法人卓翔会市比野記念病院	R3.4.1～R6.3.31

■知的財産管理状況

《2020年度》
出願状況《2020年度末》
特許保有件数

	登録済	出願中	合 計		登録済	出願中	合 計
国 内	344	222	566	外 国	82	126	208

《2020年度 ライセンス・譲渡実績》

	新規件数	金額(千円)
特 許	6	16,077
商 標	3	315
意 匠	0	12
ソフトウェア	2	1,990
ノウハウ	8	2,226
マテリアル	2	1,367
合 計	21	21,987

(注)千円未満四捨五入により作成 (2021年3月31日現在)

■公開講座

公開講座名	実施部局	開催期間	代表者	職 名	受講対象者	開催場所
いまさら聞けない!住宅ローンの基礎知識	法文学部	2020年11月16日	王 鏡凱	准教授	社会人	鹿児島大学郡元キャンパス法文棟1号館101号室
冷静と情熱の間!我々はどこまで合理性を求めるのか?	法文学部	2020年11月16日	王 鏡凱	准教授	社会人	鹿児島大学郡元キャンパス法文棟1号館101号室
一人1台の情報端末の GIGA スクール環境で授業力パワーアップ	教育学部附属教育実践総合センター	2021年2月7日	山本 朋弘	准教授	現職教員を中心とした教育関係者	Web による講義
小学校プログラミングの展開	教育学部附属教育実践総合センター	2021年2月7日	山本 朋弘	准教授	現職教員を中心とした教育関係者	Web による講義
鹿児島大学理学部数理データサイエンス講座	理学部	2020年12月25日	秦 浩起	准教授	社会人	理学部・学術情報基盤センター
マタニティライフを楽しもう	医学部保健学科	2020年8月8日、9月7日	井上 尚美	講師	妊婦の方	Web による講義
焼酎マイスターリカレント講座 ①焼酎学の基礎	農学部	2020年8月29日～10月3日	高峯 和則	教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
焼酎マイスターリカレント講座 ②焼酎製造の実践	農学部	2020年9月26日～12月5日	高峯 和則	教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
焼酎マイスターリカレント講座 ③焼酎の商品知識	農学部	2020年9月12日～12月12日	高峯 和則	教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
焼酎マイスターリカレント講座 ④焼酎文化論	農学部	2020年9月5日～12月26日	高峯 和則	教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
焼酎マイスターリカレント講座 ⑤焼酎マーケティング	農学部	2020年10月31日～2月20日	高峯 和則	教授	鹿児島県酒造組合から焼酎マイスターの称号を付与された者	農・獣医共通棟
歯が痛いのに歯は悪くない - 非歯原性歯痛を知る -	大学病院	2020年12月6日	千堂 良造	助教	一般市民	鹿児島県民交流センター 中研修室
ジュニア陸上教室 1期 (新規者対象)	共通教育センター	2020年6月20日、6月27日、7月11日、7月18日、7月25日	塗木 淳夫	准教授	小学1年生～6年生	鹿児島大学教育学部グラウンド
ジュニア陸上教室 1期 (2019年度3期受講者対象)	共通教育センター	2020年6月20日、6月27日、7月11日、7月18日、7月25日	塗木 淳夫	准教授	(2019年度3期受講者で継続受講を希望する)小学2年生～6年生と中学1年生	鹿児島大学教育学部グラウンド
ジュニア陸上教室 2期	共通教育センター	2020年9月5日、9月12日、9月26日、10月10日、10月17日	塗木 淳夫	准教授	小学1年生～6年生	鹿児島大学教育学部グラウンド
ジュニア陸上教室 3期	共通教育センター	2020年11月3日、11月14日、11月21日、11月23日、12月6日	塗木 淳夫	准教授	小学1年生～6年生	鹿児島大学教育学部グラウンド
遠隔授業に挑戦! その1- 奄美の世界自然遺産とノネコ問題	産学・地域共創センター	2020年9月26日	小栗 有子	准教授	2020年度後期公開授業受講予定者	ZOOM アプリによる講義
遠隔授業に挑戦! その2- 鹿児島のグローバル化を考える	産学・地域共創センター	2020年9月30日	酒井 佑輔	准教授	2020年度後期公開授業受講予定者	ZOOM アプリによる講義
オンライン講座の可能性と住民の学習 —奄美の世界自然遺産登録とコミュニティづくり—	産学・地域共創センター	2021年3月4日	小栗 有子	准教授	奄美市職員、社会教育関係団体等	オンライン (Zoom)

■大学間学術交流協定校(26カ国・地域、92機関)

(令和3年5月1日現在)

国・地域	締結機関名	締結年月日
インド	カルナタカ国立工科大学	2005年3月23日
	アンダラス大学	2003年12月1日
インドネシア	インドネシア大学	2009年12月9日
	ボゴール農科大学	2010年6月4日
	ディボネゴロ大学	2008年6月30日
	バンドン工科大学	2010年11月22日
	サムラランギ大学	2011年2月8日
	パティムラ大学	2014年3月25日
	スリウィジャヤ大学	2015年11月2日
	アイルランガ大学	2012年11月19日
タイ	メジョー大学	2001年4月30日
	国立モンクット王工科大学トンブリ校	2002年1月16日
	国立モンクット王工科大学ラカバン校	2016年4月1日
	カセサート大学	2005年12月19日
	スラナリ工科大学	2009年4月17日
韓国	釜慶大学校	1995年7月6日
	全北大学校	1997年4月22日
	群山大学校	1997年12月1日
	済州大学校	1998年1月30日
	江陵原州大学校	2001年2月8日
	江原大学校	2002年4月5日
	公州大学校	2004年10月18日
	木浦大学校	2010年5月28日
	祥明大学校	2013年5月13日
	忠北大学校	2016年8月18日
中国	韓国外国語大学校	2013年1月22日
	湘潭大学	1986年12月11日
	雲南農業大学	1989年5月11日
	湖南農業大学	1989年6月2日
	中南大学	1993年6月15日
	中国医科大学	1993年9月13日
	湖南大学	1995年8月23日
	南京工業大学	1999年9月14日
	東北師範大学	2001年11月13日
	中国人民大学	2002年7月1日
	東北大学	2004年12月3日
	重慶大学	2006年5月22日
	山東師範大学	2009年12月24日
	上海海洋大学	2011年10月24日
	首都経済貿易大学	2013年3月1日
	華東政法大学	2013年10月10日
	大連海事大学	2015年7月27日
	四川大學錦江学院	2011年12月16日
バングラデシュ	ダツカ大学	2013年12月24日
	バングラデシュ農業大学	2014年12月27日

国・地域	締結機関名	締結年月日
フィリピン	フィリピン大学	2007年12月12日
	フィリピンポリテクニク大学	2017年4月1日
ベトナム	ベトナム国家農業大学	2002年3月6日
	ハノイ貿易大学	2002年12月25日
	ベトナム社会科学院	2007年5月23日
	ニャチャン大学	2015年7月31日
ミャンマー	カントー大学	2009年5月25日
	獣医科学大学	2018年12月24日
マレーシア	マレーシアアトレンガヌ大学	2005年4月22日
	マレーシアサバ大学	2009年3月4日
	マレーシアブトラ大学	2010年3月16日
マレーシア	マレーシア国際イスラム大学	2013年10月29日
	マレーシア国際イスラム大学	2013年10月29日
パキスタン	シンド大学	2020年12月21日
台湾	淡江大学	2005年11月5日
	国立高雄科技大學	2008年2月29日
	国立中興大学	2009年4月1日
	国立高雄大学	2016年4月7日
	国立成功大学	2005年12月23日
台湾	国立台湾海洋大学	2010年7月15日
	国立台湾海洋大学	2010年7月15日
オーストラリア	ニューイングランド大学	1995年7月20日
	シドニー工科大学	2000年3月1日
オーストラリア	セントラルクイーンズランド大学	2019年12月5日
	セントラルクイーンズランド大学	2019年12月5日
パプアニューギニア	パプアニューギニア大学	1987年5月29日
南太平洋12カ国・地域	南太平洋大学	1982年7月21日
アメリカ合衆国	ジョージア大学	1979年11月29日
	マイアミ大学	1992年11月30日
	グアム大学	2006年4月5日
	アルフレッド大学	2006年11月8日
	西ジョージア大学	2007年5月23日
	サンノゼ州立大学	2012年4月23日
	ノースダコタ州立大学	2014年1月15日
	ハワイ大学マノア校	2018年8月8日
	ウィスコンシン大学ラクロス校	2021年2月4日
	ウィスコンシン大学ラクロス校	2021年2月4日
ブラジル	サンカルロス連邦大学	2011年8月19日
	アマゾナス連邦大学	2016年4月28日
スウェーデン	リンシェーピング大学	2010年6月11日
スペイン	バレンシア工芸大学	2000年2月7日
スロバキア	スロバキア農業大学	2015年5月1日
ドイツ	カール・フォン・オシエツキー大学 オルデンプルク	2015年7月27日
	ロッテンブルク林業大学	2013年11月5日
フランス	レンヌ第2オート・ブルターニュ大学	2010年7月1日
	ボルドー・モンテーニュ大学	2017年1月26日
トルコ	アンカラ大学	2012年12月10日
エジプト	カフルアッシャイフ大学	2011年9月5日
	ベンハ大学	2018年8月7日
ザンビア	ザンビア大学	2019年8月22日
イラン	イスファハン医科大学	2017年4月18日

■部局間学術交流協定校(28カ国・地域、73機関)

国・地域	締結機関名	締結年月日
法文学部		
中国	内蒙古師範大学外国語学院	2017年6月19日
	長江大学外国語学院	2019年6月28日
フランス	大西洋ブルターニュ・マネジメント学院	2019年4月12日
ドイツ	ミュンヘン大学東アジア研究部日本センター	2003年10月29日
イタリア	フィレンツェ大学歴史考古地理芸術学科	2020年8月9日
法文学部・人文社会科学研究科		
韓国	釜山大学校社会科学大学	2007年3月8日
中国	内蒙古大学民族学与社会学学院	2016年11月1日
	上海海事大学外国語学院	2018年7月1日
	海南大学外国語学院	2019年7月19日
台湾	国立暨南国際大学人文学院	2017年4月18日
タンザニア	セントオーガスティン大学タンザニア	2018年12月16日
教育学部		
台湾	国立台北教育大学	2012年4月1日
ドイツ	ボン大学哲学部	2006年9月26日
フランス	国立障害者教育指導方法高等研究所	2013年9月24日
教育学部附属中学校		
台湾	台北市立大直高級中学校	2013年12月16日
医学部		
韓国	中央大学校赤十字看護大学	2012年11月15日
鹿児島大学病院		
韓国	韓国中央大学病院	2015年1月28日
歯学部		
中国	香港大学歯学部	2017年7月11日
韓国	慶熙大学校歯学部	2019年11月28日
台湾	国立陽明大学歯学部	2017年8月12日
	高雄医学大学歯学部	2017年8月7日
タイ	プリンスオブソンクラーク大学歯学部	2018年7月4日
インドネシア	ブラウイジャヤ大学歯学部	2020年4月8日
マレーシア	マラヤ大学歯学部	2020年2月19日
ミャンマー	ヤンゴン歯科大学	2014年10月30日
	マンダレー歯科大学	2014年10月30日
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学歯学部	2014年11月17日
農学部		
中国	華中農業大学	2018年5月22日
台湾	中国文化大学農学院	2012年10月3日
タンザニア	セントオーガスティン大学タンザニア	2018年4月19日
タイ	メーファンラン大学農産学部	2016年11月14日
マラウイ	リロングウェ農業天然資源大学	2016年8月23日
	マラウイ科学技術大学	2019年3月25日
ミャンマー	パテイン大学	2016年12月4日
メキシコ	ヌエボレオン自治大学	2019年1月22日

(令和3年5月1日現在)

国・地域	締結機関名	締結年月日
水産学部		
インドネシア	ハサヌティン大学海洋科学水産学部	2007年11月17日
タイ	東南アジア漁業開発センター	2003年12月3日
韓国	韓国海洋科学技術院	2017年5月22日
	大連海洋大学	2003年10月21日
中国	浙江海洋学院	2011年4月5日
	中国国家海洋局第2研究所	2014年10月9日
	華中農業大学水産学院	2018年7月27日
台湾	国立嘉義大学生命科学院	2016年11月28日
フィリピン	サンカルロス大学文理学院	2012年5月30日
マレーシア	マレーシア科学大学	2019年11月1日
スペイン	アリカンテ大学	2012年3月28日
ノルウェー	トロムソ大学生物水産経済学部	2019年6月25日
エリトリア	海洋科学技術大学	2011年4月30日
エジプト	エジプト国立海洋水産研究所	2018年3月20日
トルコ	チャナツカレ・オンセキズ・マルト大学	2017年12月21日
コロンビア	マグダレナ大学	2020年2月12日
ブラジル	アマゾン連邦農業大学	2019年2月28日
大学院国際連携プログラムの形成のための包括協定	サムラトランギ大学(インドネシア)	2014年8月19日
	フィリピン大学ヴィサヤス校(フィリピン)	
	カセサート大学(タイ)	
	トレンガヌ大学(マレーシア)	2016年2月29日
	ニャチャン大学(ベトナム)	
	ボゴール農科大学(インドネシア)	2019年1月15日
共同獣医学部		
バングラデシュ	チッタゴン獣医動物科学大学	2013年6月23日
	シェレバングラ農科大学動物科学・獣医学部	2019年10月31日
フィリピン	カヴィテ州立大学獣医生命科学部	2020年3月13日
ドイツ	ベルリン自由大学	2018年7月6日
フランス	ヴェットアグロスーパ(フランス獣医学農学高等教育学校)	2015年8月25日
ポルトガル	トラスモンテスアルトデウオ大学獣医学部	2019年2月13日
トルコ	アフイヨン・コジャテペ大学	2014年3月21日
ベトナム	タイグエン農林大学動物科学・獣医学部	2018年10月3日
理工学研究科		
韓国	韓国沿岸生態学研究所(海洋環形動物資源バンク)	2016年11月28日
台湾	国立台湾大学理学部	2019年1月19日
アメリカ合衆国	州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所	2015年11月30日
フランス	ピエール&マリー・キュリー大学(パリ第6大学)	2017年3月31日
イタリア	フィレンツェ大学建築学科	2016年10月13日
スイス	西スイス応用科学技術大学	2017年7月4日
メキシコ	モンテレイ大学	2020年4月1日
医歯学総合研究科		
中国	徐州医科大学	2018年5月11日
インドネシア	ジェンバー大学医学部	2008年3月25日
タイ	プリンスオブソンクラーク大学医学部	2011年3月11日
ベトナム	ハノイ医科大学	2008年5月9日
ネパール	ネパールガンジ医科大学	2016年7月31日
国際島嶼教育研究センター		
韓国	済州研究院済州学研究センター	2019年6月10日

■外国へ留学した学生数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
大 学 間 学 術 交 流 協 定 校	24	23	24	0
部 局 間 学 術 交 流 協 定 校	5	7	7	0 ※1
鹿児島大学学生海外研修支援事業参加学生総数	223	228	227	0
トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム	10	13(11)	8(4)	0
鹿児島県清華大学留学支援奨学金交付事業	4	2	7	-
鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業 (長期派遣留学、中期派遣留学)	28	24	36	0 ※2
そ の 他 (個 人 渡 航 等)	28	39	46	0
合 計	322	334	351	0

(注)()内は、トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムの留学生数のうち学术交流協定校への留学生数を除いた数を示す。

(注)※1は、部局間:オンラインで1名参加。

(注)※2は、中期派遣留学:オンラインで12名参加。

■鹿児島大学学生海外研修支援事業(タイプA)

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、本学で実施する学生の海外研修を支援することを目的とする。(平成22年度より実施)

※2(令和元年度実績)

開講部局	開講期	授業科目名	授業担当者所属部局	支援対象人数	研修開始日	研修終了日	日数	派遣国
共 通 教 育 セ ン タ ー	前期	進取の精神海外研修 in ベトナム ※1	稲 盛 ア カ デ ミ ー	8 名	R1.8.17	R1.8.24	8	ベトナム
	前期	グローバル人材育成(米国ノースダコタ)	グローバルセンター	11 名	R1.8.21	R1.9.10	21	アメリカ合衆国
	前期	社会システム・政策研究(タイ研修)	グローバルセンター	10 名	R1.9.1	R1.9.14	14	タイ
	前期	海外研修基礎コース in カリフォルニア	グローバルセンター	9 名	R1.9.8	R1.9.22	15	アメリカ合衆国
	前期	国際協力体験講座ーミャンマーコースー ※1	農 学 部	4 名	R1.9.13	R1.9.23	11	ミャンマー
	後期	海外研修基礎コース in 東南アジア ※1	グローバルセンター	14 名	R2.2.15	R2.2.29	15	シンガポール
	後期	海外研修基礎コース in ハワイ ※1	共通教育センター	13 名	R2.3.4	R2.3.15	12	アメリカ合衆国
法 文 学 部	前期	文化人類学実習 ※1	法 文 学 部	15 名	R1.8.28	R1.9.2	6	韓国
	前期	海外異文化体験実習(台湾の歴史と多様性を学ぶ)	法 文 学 部	5 名	R1.9.20	R1.9.29	10	台湾
	後期	英語圏比較文化論(海外研修)	法 文 学 部	9 名	R2.2.16	R2.3.8	22	アメリカ合衆国
	後期	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ) ※1	法 文 学 部	10 名	R2.2.14	R2.2.25	12	トルコ
医 学 部	前期	国際看護学(韓国)	医 学 部	5 名	R1.8.21	R1.8.30	10	韓国
	前期	国際看護学(米国)	医 学 部	6 名	R1.9.1	R1.9.11	11	アメリカ合衆国
歯 学 部	前期	海外歯科研修プログラムV(インドネシア) ※1	歯 学 部	2 名	R1.9.7	R1.9.18	12	インドネシア
	前期	海外歯科研修プログラムV(カナダ) ※1	歯 学 部	5 名	R1.9.22	R1.9.29	8	カナダ
農 学 部	前期	国際森林論 ※1	農 学 部	8 名	R1.9.10	R1.9.21	12	ドイツ・フィンランド
	前期	国際食創システム学(食の安全コース)	農 学 部	15 名	R1.9.16	R1.9.25	10	タイ
	後期	国際食創システム学(食料生産)	農 学 部	2 名	R2.2.22	R2.3.5	13	アメリカ合衆国
水 産 学 部	前期	海外研修・実用英語(海外研修) ※1	水 産 学 部	10 名	R1.8.12	R1.8.28	17	フィリピン
				4 名	R1.8.19	R1.9.1	14	インドネシア
				12 名	R1.9.11	R1.9.27	17	フィリピン
共同獣医学部	前期	獣医学特別研修(台湾)	共 同 獣 医 学 部	3 名	R1.8.10	R1.8.25	16	台湾
	前期	獣医学特別研修(北米)	共 同 獣 医 学 部	1 名	R1.9.14	R1.9.30	16	アメリカ合衆国
理工学研究科	前期	建築設計特別演習I	理 工 学 研 究 科	5 名	R1.8.25	R1.9.4	11	インドネシア
	前期	化学生命工学特別研修	理 工 学 研 究 科	14 名	R1.9.15	R1.9.23	9	台湾
農学研究科	前期	国際協力農業体験講座特論 ※1	農 学 部	1 名	R1.9.13	R1.9.23	11	ミャンマー
農 林 水 産 学 研 究 科	前期	HACCP 監査研修(米国)	農 学 部	4 名	R1.6.16	R1.6.26	11	アメリカ合衆国
	前期	Tropical Fisheries ※1	水 産 学 部	8 名	R1.6.30	R1.7.13	14	フィリピン
	前期	海外森林・林業事情 ※1	農 学 部	1 名	R1.9.10	R1.9.21	12	ドイツ・フィンランド
	前期	HACCP 監査研修(タイ)	農 学 部	3 名	R1.9.16	R1.9.25	10	タイ
合 計				217 名				

(注)※1は、鹿大「進取の精神」支援基金による支援(地域貢献型)

(注)※2は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当該支援事業の対象となる国際交流事業の実施が中止又は延期となったため、参考資料として令和元年度実績を掲載

鹿児島大学オンライン型学生海外研修支援事業

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年度に予定されていた派遣が困難な状況にあっても、新たな国際交流教育の手法として、海外の大学等との交流にオンライン交流を活用した連携を拡大させるため、「鹿児島大学学生海外研修支援事業」の趣旨に則って、本事業に申請のあったオンライン型海外研修を支援することとなった。

【地域貢献型海外研修】

開講部局	期別	授業科目名	学部・大学院別	授業担当者部局	支援学生数	研修期間(自)	研修期間(至)	日数	研修先(国)(オンライン)
共通教育センター	後期	Capturing Kagoshima Regional Issues from SDGs 【かごしまグローバル教育プログラムの地域志向科目(共通教育科目)】	共通教育科目	グローバルセンター	11	R3.2.19	R3.3.12	22	アメリカ合衆国
共通教育センター	後期	Confronting Kagoshima Regional Issues 【かごしまグローバル教育プログラムのコア科目(高度共通教育科目)】	高度共通教育科目	グローバルセンター	1	R3.2.19	R3.3.19	29	アメリカ合衆国
法文学部	後期	法文アドバンスト科目Ⅰ 「海外異文化体験実習(カナダの法と社会)」	学部(専門教育科目)	法文学部	15	R3.2.9	R3.2.23	15	カナダ
合 計					27				

【中期派遣留学】

開講部局	期別	授業科目名	学部・大学院別	授業担当者部局	支援学生数	研修期間(自)	研修期間(至)	日数	研修先(国)(オンライン)
共通教育センター	前期	グローバル実地研修 【かごしまグローバル教育プログラムの実地体験】	共通教育科目	グローバルセンター	1	R2.8.17	R2.9.18	33	オーストラリア
理工学研究科	前期	理工系国際コミュニケーション特別研修	大学院共通教育科目	理工学研究科	11	R2.8.17	R2.9.18	33	オーストラリア
合 計					12				

鹿大「進取の精神」支援基金事業

鹿児島地域の活性化に資するグローバル人材を育成することを目的として、学生海外派遣事業、外国人留学生受入推進事業、若手研究者支援事業等を行う。(平成28年度より実施)
※1(令和元年度実績)

事業名		概要	支援人数	支援実績
学生海外派遣事業	長期派遣留学	グローバルな視座で革新的に地域を見る目を備え、新たな視点で仕事を創出して地域活性化に資する、将来鹿児島の地域で活躍するグローバル人材を育成することを目的とする。留学期間は、原則として10週間以上1年未満。	5	フィリピン1名、ウガンダ1名、米国1名、マラウイ1名、オーストラリア1名
	中期派遣留学	地域活性化に資する人材育成を目的とした、専門・語学学習及び研究、実習、インターンシップ等実地体験を組合せた海外派遣事業科目等を支援対象とする。留学期間は、29日以上90日以下。 (令和2年度は、2つのプログラムをオンラインにて開講)	31 12	医学部：インドネシア7名、韓国5名、米国4名、ドイツ3名、カナダ1名 理工学研究科：オーストラリア10名、米国1名 理工学研究科：オーストラリア11名 ※2 共通教育センター：オーストラリア1名 ※2
	地域貢献型海外研修	地域貢献型海外研修は、地域貢献をテーマに組込んだ28日以下の海外研修授業を支援対象とする。	115	詳細は、「鹿児島大学学生海外研修支援事業(地域貢献型海外研修)」に掲載
留学生受入推進事業	研究留学生	優秀な留学生を鹿児島に呼び込み、鹿児島のよき理解者として出身国と鹿児島をつなぐグローバルな視点を持った人材を育成することを目的とする。申請者である指導教員の下で、卒論、修論、博論等の作成を目指した研究活動の一部を行うものとし、学術交流協定校(学生交流の覚書締結校)から学部生または大学院生を本学に招致する。留学期間は6ヶ月間。	8	共同獣医学部：(インドネシア) アイルランガ大学2名 人文社会科学部：(台湾) 国立成功大学2名 医学部：(中国) 徐州医科大学1名 (インドネシア) ティボネゴロ大学2名 医歯学総合研究科：(中国) 中国医科大学1名 詳細は、「学術国際交流協定締結状況」に掲載
	鹿児島日本語研修生	鹿児島大学と学生交流協定、またはそれに準ずる協定を締結している海外の大学のうち、あらかじめ本学が定めた大学から日本語または日本学関連分野を学ぶ学部学生を鹿児島大学に5ヶ月または11ヶ月間受け入れ、日本語力の向上を目指すとともに地域と連携した多様な活動の場を提供し、日本・鹿児島への理解を深めることを目的とする。	1	(インドネシア) アンダラス大学1名 詳細は、「学術国際交流協定締結状況」に掲載
若手研究者支援事業	地域貢献型海外研修	次世代を担う若手教員の教育研究能力等の向上を図るため、海外の教育研究機関での研修支援や、若手研究者や女性研究者の研究活動費の助成を行う事業の中でも特に、鹿児島地域への貢献、活性化につながるテーマを持つ研修および研究活動を支援対象とする。研修期間は2ヶ月以上1年以内。	2	法文学部：オランダ1名 農学部：フランス1名 詳細は、「鹿児島大学若手教員海外研修支援事業(地域貢献型)」に掲載

(注)※1は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当該支援事業の対象となる国際交流事業の実施が中止又は延期となったため、参考資料として令和元年度実績を掲載。
(注)※2は、令和2年度にオンラインで実施したプログラムの支援実績。詳細は、「鹿児島大学オンライン型学生海外研修事業【中期派遣留学】」に掲載。

■JASSO海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)

- 海外留学支援制度(協定派遣) 日本の大学等と諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づいて、在籍大学等に在籍したまま8日以上1年以内の期間、在籍大学等が実施する派遣プログラムに参加する学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給するもの。
- 海外留学支援制度(協定受入) 日本の大学等と諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づいて、諸外国の大学等に在籍したまま8日以上1年以内の期間、受入れ大学等が実施する受入れプログラムに参加する学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給するもの。

※2(令和元年度)

プログラム区分	プログラム名	国または地域	人数	プログラム開始日	プログラム終了日
派遣	大学の世界展開力強化事業 (30 米国) プログラム	米国、インドネシア、タイ、台湾、韓国、中国	60	R1.6.17	R2.3.6
派遣	全学的カリキュラムとして実施する国際プロフェッショナル人材育成プログラム	米国、シンガポール	45	R1.9.9	R2.3.13
派遣	地域社会のグローバル化に資する人材育成プログラム	タイ、台湾	16	R1.9.2	R1.9.29
派遣	イスラームの多様性を理解するためのトルコ・イラン研修	トルコ	10	R2.2.15	R2.2.23
派遣	大学院理工系イノベーション海外研修プログラム (カリフォルニア研修) Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Innovation (GOES CA)	オーストラリア	8	R1.7.15	R1.9.20
派遣	熱帯水産学国際連携プログラムの推進 (派遣)	インドネシア、フィリピン、タイ	15	R1.7.2	R1.11.27
派遣※3	(令和元年度) ひっ飛べ!進取の気風派遣留学プログラム	ドイツ (オンライン参加)	1	R2.3.2	R3.2.3
派遣※1	(平成 30 年度) ひっ飛べ!進取の気風派遣留学プログラム	米国、オーストラリア、スウェーデン、スペイン、スロバキア、韓国、中国、ドイツ、フランス	16	H30.4.6	R2.2.7
受入	大学の世界展開力強化事業 (30 米国) プログラム	米国、タイ、台湾、韓国	56	R1.5.13	R2.1.23
受入	熱帯水産学国際連携プログラムの推進 (受入)	インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア	13	R1.8.17	R1.9.25
受入※1	(平成 30 年度) アジアにおける神経科学の共同研究体制形成に向けた人材育成	中国	1	H30.10.1	R2.3.9

(注)※1は、平成30年度に採択されたプログラムで令和元年度に継続実施した分。
(注)※2は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当該支援事業の対象となる国際交流事業の実施が中止又は延期となったため、参考資料として令和元年度実績を掲載。
(注)※3は、令和元年度に採択されたプログラムで令和2年度に継続実施した分。

■鹿児島大学学生海外留学支援事業 ※2

大学憲章及び学生憲章に謳われている「進取の気風にあふれ、困難な課題に果敢に挑戦し、国際的に通用する人材」を育成するため、海外の学術協定交流校へ6月以上1年未満の期間に留学する日本人学生および「鹿児島県清華大学留学支援奨学金交付事業」で留学する日本人学生を経済的に支援することを目的とする。(平成23年度より実施)

派遣年度	支援人数合計	支援実績(派遣国・地域、支援人数)
平成27年度	20名	米国3名、オーストラリア2名、スウェーデン3名、タイ1名、韓国4名、ドイツ2名、フランス2名、台湾1名、インドネシア1名、スペイン1名
平成28年度	19名	米国2名、オーストラリア2名、スウェーデン3名、韓国4名、ドイツ3名、フランス2名、インドネシア1名、スペイン2名
平成29年度	31名	米国4名、オーストラリア3名、スウェーデン1名、スペイン2名、ドイツ4名、フランス2名、インドネシア1名、タイ1名、韓国5名、台湾2名、中国4名、マレーシア1名、ブラジル1名
平成30年度	22名	米国2名、オーストラリア2名、スウェーデン1名、ドイツ4名、フランス3名、タイ2名、韓国3名、台湾1名、中国2名、スロバキア1名、フィリピン1名
令和元年度	41名	米国1名、イタリア1名、オーストラリア4名、韓国7名、スウェーデン1名、スロバキア1名、タイ2名、中国9名、ドイツ6名、フィリピン1名、フランス6名、マレーシア2名

(注)※2は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当該支援事業の対象となる国際交流事業の実施が中止又は延期となったため、参考資料として令和元年度までの実績を掲載

■鹿児島大学若手教員海外研修支援事業 ※2

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関等における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的とする。(平成21年度より実施)

研修開始年度	部局名	研修先(国名)	研修題目
平成29年度 (研修人数5名)	法文学部	イギリス	デジタル時代における映像都市論の構築と国際研究ネットワークの形成
	法文学部	台湾	台湾における母語運動の参与調査と地域間交流体制の構築 ※
	教育学部	アメリカ	風・気球・ドローンを用いたリモートセンシング手法に関する研究 ※
	理工学研究科(工学系)	アメリカ	粘着性液状原料由来粉体の流動性改善に関する粒子工学的研究
	医学部・歯学部附属病院	アメリカ	頭蓋咽頭腫における遺伝子変異の検出および、dabrafenib、trametinibによる薬物療法に関する研究
平成30年度 (研修人数4名)	農学部	フィンランド	広域における高精度森林資源情報の取得とICTによる高次利用
	水産学部	ルウェー・スペイン	欧州漁業生産システムにおける省エネルギー・省力化に関する研究
	医歯学総合研究科(歯学系)	ハンガリー	視床から大脳新皮質へのダイバージェンス回路による情報統合機構の解明 ※
	グローバルセンター	英国	日本語学習者の留学による言語能力評価ギャップ解消に向けた調査研究 ※
令和元年度 (研修人数5名)	法文学部	オランダ	メディア文化と都市の関係についてのメディア論的・視覚文化論的研究 ※
	農学部	フランス	農業の条件不利地における地理的表示制度を活用した農業地域振興と農と食の継続的調査拠点形成 ※
	理工学研究科(工学系)	アメリカ	マイクロガス流の熱伝達特性に関する研究と学部修士一貫短縮課程 (Accelerated B.S/M.S degree program) の研究教育方法・体制に関する研修
	水産学部	マルタ	魚類養殖業の持続性確保にむけた管理制度の日欧比較研究
	医歯学総合研究科(医学系)	カナダ	小児の難治性てんかんにおける焦点部位の同定、およびVideo-EEG monitoringを始めとした生理学的検査に関する研究

(注)※1は、鹿大「進取の精神」支援基金 若手研究者支援事業(地域貢献型)による支援
(注)※2は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当該支援事業の対象となる国際交流事業の実施が中止又は延期となったため、参考資料として令和元年度までの実績を掲載

■外国人研究者等受入状況

【経費別】

※(令和元年度実績)

区 分		法文学部	教育学部	附属病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科(理)	理工学研究科(工)	医学総合研究科	臨床心理学研究科	連合農学研究科	ヒト・ロウイルス学共同研究センター	機構	学内共同教育研究施設	事務局	総計	
自機関の運営資金	運営費交付金							2					4	1			7	
	自己収入						4							1	1		6	
外部資金	政府	文部科学省【科研費】													1	1		0
		文部科学省【科研費以外】			2	2		2							7			13
		その他官庁																0
	政府関係機関	日本学術振興会【科研費】							2			1				1		4
		日本学術振興会【科研費以外】						2	1	1					1			5
		科学技術振興機構																0
		日本医療研究開発機構																0
		国際協力機構				2	10				6							18
		その他政府関係機関				2	2											4
		地方自治体											2					2
	寄附金								3								3	
	受託研究費		5					1									6	
	共同研究費																0	
	外国政府・研究機関及び国際機関				4												4	
	その他外部資金									1							1	
自機関の負担なし	私費等			12		2		3		6				2		2	27	
	先方大学・機関の負担	3		3	24	12		5	1	3			1	3		8	63	
	その他自機関の負担なし													5	2	2	9	
不 明			13												8		21	
総 計		3	18	17	34	26	8	14	5	16	1	2	5	20	12	12	193	

(注)※は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実績が僅少のため参考資料として令和元年度実績を掲載。

■教職員の海外渡航件数

【地域別】

※(令和元年度実績)

地 域	法文学部	教育学部	医学部	鹿児島大学病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科(理学)	理工学研究科(工学)	医学総合研究科	臨床心理学研究科	連合農学研究科	ヒトロウイルス学共同研究センター	機 構	学共施設	事務局	合 計
	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修	出張 研修
アジア	19 10	6 1	6	17 3	33 2	37	6 7	21 2	37 10	31 8		4	2	24 4	12	9	264 47
大洋州	2		1	2	1		1		3	2 2				3 1	1	1	17 4
北 米	4 1	3	10	44	7	2	12	7 1	24 1	51 6			5	8		1 2	178 11
中南米	3				1	3		2	1	2			2				14 0
欧 州	13 2	8 3	1	26	12 1	4 1	7 1	26 2	28 1	30 10	5			5 1		1	166 22
中 東	1			5				1		3				2 1			12 1
アフリカ								2	2	1				1			6 0
小 計	42 13	17 4	18 0	94 3	54 3	47 1	25 9	59 5	95 12	120 26	5 0	4 0	9 0	43 7	13 0	12 2	657 85
合 計	55	21	18	97	57	48	34	64	107	146	5	4	9	50	13	14	742

(注)※は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実績がないため参考資料として令和元年度実績を掲載。

【経費別】

※(令和元年度実績)

経費の種類	法文学部	教育学部	医学部	鹿児島大学病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科(理学)	理工学研究科(工学)	医学総合研究科	臨床心理学研究科	連合農学研究科	ヒトロウイルス学共同研究センター	機 構	学共施設	事務局	合 計
自機関の運営資金	運 営 費 交 付 金					8	19		1	1			3			1	33
	自 己 収 入	13	4	1	17	14	3	13	2	12	12	2	4	2	18	1	126
外部資金	政府	文部科学省(科研費)	22		10			5	12	24	34				6	4	117
		文部科学省(科研費以外)			4		4		2	5	2				3		22
		その他官庁													1		1
	政府関係機関	日本学術振興会(JSPS)(科研費)		7		22	10		5	25	2	2			6		79
		日本学術振興会(JSPS)(科研費以外)		3						2							5
		科学技術振興機構(JST)														1	1
		国際協力機構(JICA)															0
		その他の政府関係機関					1								1		2
	地 方 自 治 体														1		1
	寄 附 金	4	1	3	50	4	6	1	1	26	49	3			2	4	154
	受 託 研 究 費				5	4	9		7	10	15						56
	共 同 研 究 費					2	1	2	2	14					2		23
	外国政府・研究機関及び国際機関									2					5		7
	そ の 他 外 部 資 金	1									2				2		5
	私 費 等	12	4			3		9	4	9	17				2		60
自機関の負担なし	先方大学・機関の負担	3	2		3	8		2	6	2	12				1	1	44
	その他(分類不能(自機関の負担なし))					1					1					4	6
	総 計	55	21	18	97	57	48	34	64	107	146	5	4	9	50	13	742

(注)※は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、実績がないため参考資料として令和元年度実績を掲載。

■部局別国際共同研究実施件数

(令和2年度実績)

法文学部	教育学部	鹿児島大学病院	水産学部	農学部	共同獣医学部	理工学研究科(理学系)	理工学研究科(工学系)	医学総合研究科	ヒトロウイルス学共同研究センター	機 構	学内共同教育施設	合 計
3	1	5	4	23	8	13	6	26	5	11	21	126

■出身国(地域)別(34か国・地域 305名 ※山口大学連合獣医学研究科を含む)

(令和3年5月1日現在)

地 域	国(地域)	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	グローバルセンター	合 計	連合獣医学研究科
ア ジ ア 地 域	ミャンマー									2 ①		2 ①	
	タイ						1	1		3 ①		5 ①	
	マレーシア	1				7	1			1		10	
	インドネシア				5 ②	1	2 ①			4 ③		12 ⑥	
	フィリピン	1 ①					1 ①					2 ②	
	韓国	6 ①	1	4	3	13	12	2		2		43 ①	
	ベトナム				1	3	24 ⑤	5 ③	1	4 ①		38 ⑨	
	中国	47	11 ①	9	2	26	14	7	1	13 ①		130 ②	
	香港	1										1	
	台湾		2					1	1			4	
	ラオス									1		1	
	カンボジア	1										1	
中 近 東 地 域	ネパール				2 ①					1		3 ①	
	バングラデシュ				2				9 ④	5 ④		16 ⑧	1
	スリランカ									6 ⑤		6 ⑤	
	トルコ	2 ①										2 ①	
	ケニア						2					2	
	タンザニア				2 ②							2 ②	
	エジプト											0	1
	マラウイ									1 ①		1 ①	
	ベナン									2 ①		2 ①	
	エリトリア						1					1	
	ウガンダ						1			1		2	
	フランス	1										1	
ヨーロツパ地域	スペイン	1										1	
	カザフスタン	1										1	
	アメリカ合衆国		1									1	
北 米 地 域	ブラジル	2 ②				2 ①			1 ①			5 ④	
	ガイアナ									1 ①		1 ①	
大 洋 州 地 域	オーストラリア					1						1	
	フィジー						2 ②			1		3 ②	
	キリバス							1				1	
	ソロモン諸島									1 ①		1 ①	
	バヌアツ									1 ①		1 ①	
合 計		64 ⑤	15 ①	13	17 ⑤	53 ①	61 ⑨	17 ③	13 ⑤	50 ②	0	303 ⑥	2

(注)※○印内は内数で国費留学生を示す。

※山口大学連合獣医学研究科は外数。

※この外国人留学生数は「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格を持つ外国人学生数を示す。

■在籍別

(令和3年5月1日現在)

在 籍 身 分	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	グローバルセンター	合 計	連合獣医学研究科
大学院 博士[博士後期]	4			4 ①				2 ①			6 ②	
〃 〃	3	3		1	2			4 ①	22 ⑥		32 ⑦	2
〃 〃	2	4		7 ③	1				15 ⑦		27 ⑩	
〃 〃	1	1		3 ①	1			4 ②	13 ⑧		22 ⑪	
〃 修士[博士前期]	2	10 ①			5	12 ②	3				30 ③	
〃 〃	1	8	9	1	3 ①	13 ④	1				35 ⑤	
学 部	6			1							1	
〃	5											
〃	4	8	2		10	9 ④	1	1 ①			31 ⑤	
〃	3	4	1	4	11	6 ③	6 ①				32 ④	
〃	2	4	2	3	7	10 ③	3 ①				29 ④	
〃	1	4	3	1	10	7 ③	3 ①				28 ④	
研 究 生	9				3	3					15	
特 別 研 究 学 生												
特 別 聴 講 学 生	8 ④	3 ①						1			12 ⑤	
科 目 等 履 修 生	1					1		1			3	
日 本 語 研 修 コー ス 生												
合 計	64 ⑤	15 ①	13	17 ⑤	53 ①	61 ⑨	17 ③	13 ⑤	50 ②	0	303 ⑥	2

(注)※○印内は内数で国費留学生を示す。

※大学院連合農学研究科50名の内訳: 鹿大30⑩ 佐大12⑥ 琉大8⑤(○印内は内数で国費留学生を示す。)

※山口大学連合獣医学研究科は外数。

■経費種別

(令和3年5月1日現在)

種 別	大学院生	学部学生	研究生	科目等履修性	特別研究学生	特別聴講学生	日本語研修コース生	合 計
国 費 留 学 生	38 (16)	17 (12)				5 (1)		60 (29)
外国政府派遣留学生	3 (2)	6 (1)						9 (3)
鹿児島県費留学生			1					1 (0)
J I C A 留 学 生	8 (3)							8 (3)
私 費 留 学 生	103 (52)	98 (32)	14 (8)	3 (2)		7 (5)		225 (99)
計	152 (73)	121 (45)	15 (8)	3 (2)	0 (0)	12 (6)		303 (134)
連 合 獣 医 学 研 究 科								
国 費 留 学 生								0 (0)
私 費 留 学 生	2 (1)							2 (1)
政府派遣留学生								0 (0)
計	2 (1)							2 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

■学部別

(令和3年5月1日現在)

学 部	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	
法 文 学 部		4 (1)	1		19 (7)	12 (9)	36 (17)
教 育 学 部		1			3 (2)	1 (1)	5 (3)
理 学 部					12 (2)		12 (2)
医 学 部							0 (0)
歯 学 部					2		2 (0)
工 学 部			5 (1)	1	33 (8)	2	41 (9)
農 学 部	13 (10)				19 (6)	2	34 (16)
水 産 学 部	3 (1)				10 (7)		13 (8)
共同獣医学部	1 (1)					1 (1)	2 (2)
グローバルセンター							
合 計	17 12	5 (1)	6 (1)	1 (0)	98 (32)	18 (11)	145 (57)

(注) ()は女子を内数で示す。

※山口大学連合獣医学研究科は外数。

■大学院別

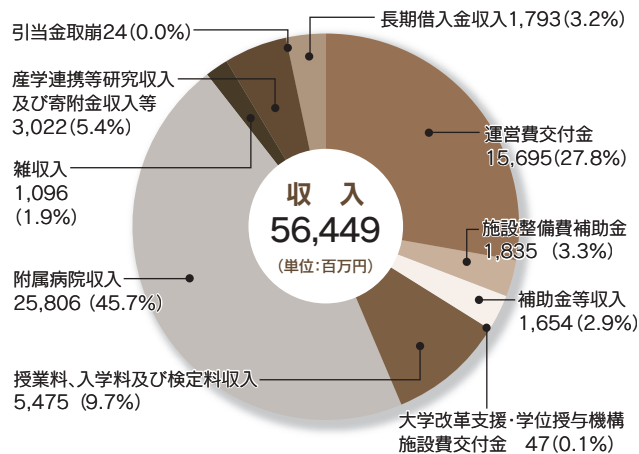
(令和3年5月1日現在)

研 究 科	国 費			外国政府派遣			私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
人文社会科学研究科	1 (1)						17 (15)	8 (3)	2 (2)	28 (21)
教育学研究科							9 (6)		1 (1)	10 (7)
医歯学総合研究科		5 (1)						10 (3)		15 (4)
理工学研究科	1						8 (2)	4 (1)		13 (3)
農林水産学研究科	6 (4)			1 (1)		5 (1)	17 (10)		2 (1)	31 (17)
共同獣医学研究科		4 (1)			1 (1)			5 (2)	1	11 (4)
連合農学研究科		21 (9)			1	3 (1)		25 (11)		50 (21)
合 計	8 (5)	30 (11)	0	1 (1)	2 (1)	8 (2)	51 (33)	52 (20)	6 (4)	158 (77)
連合獣医学研究科								2 (1)		2 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

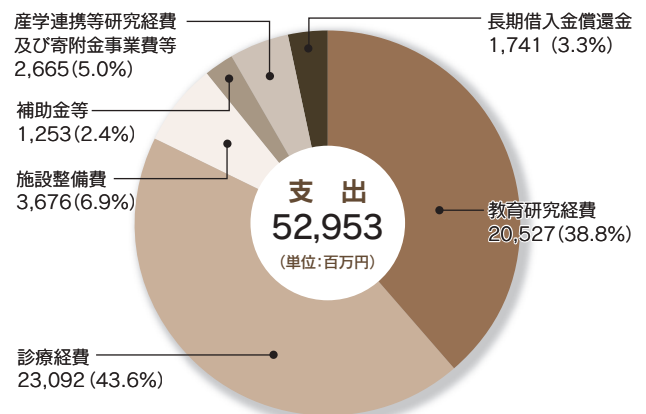
※ 山口大学連合獣医学研究科は外数。

令和2年度収入・支出決算額



(単位:百万円)	
収 入	金 額
運 営 費 交 付 金	15,695
施 設 整 備 費 補 助 金	1,835
補 助 金 等 収 入	1,654
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	47
授 業 料、入 学 料 及 び 検 定 料 収 入	5,475
附 属 病 院 収 入	25,806
財 産 処 分 収 入	0
雑 収 入	1,096
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,022
引 当 金 取 崩	24
長 期 借 入 金 収 入	1,793
前中期目標期間繰越積立金取崩	-
目 的 積 立 金 取 崩	-
合 計	56,449

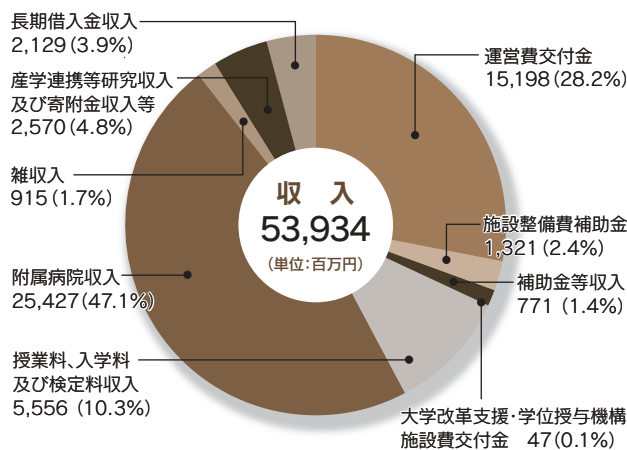
(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。



(単位:百万円)	
支 出	金 額
教 育 研 究 経 費	20,527
診 療 経 費	23,092
施 設 整 備 費	3,676
補 助 金 等	1,253
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,665
長 期 借 入 金 償 還 金	1,741
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	-
合 計	52,953

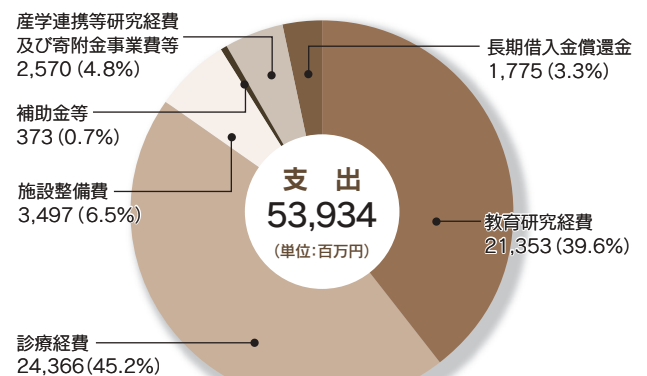
(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

令和3年度予算



(単位:百万円)	
収 入	金 額
運 営 費 交 付 金	15,198
施 設 整 備 費 補 助 金	1,321
補 助 金 等 収 入	771
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	47
授 業 料、入 学 料 及 び 検 定 料 収 入	5,556
附 属 病 院 収 入	25,427
雑 収 入	915
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,570
長 期 借 入 金 収 入	2,129
合 計	53,934

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。



(単位:百万円)	
支 出	金 額
教 育 研 究 経 費	21,353
診 療 経 費	24,366
施 設 整 備 費	3,497
補 助 金 等	373
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,570
長 期 借 入 金 償 還 金	1,775
合 計	53,934

(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

■科学研究費助成事業

(令和3年5月1日現在)

【種目別採択状況(令和3年度)】

(単位:千円)

研究種目	件数	金額	研究種目	件数	金額
基盤研究(S)	0	0	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(A))	2	0
基盤研究(A)	4	31,500	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	2	7,700
基盤研究(B)	48	192,100	学術変革領域研究(A)	1	10,100
基盤研究(C)	333	325,800	研究成果公開促進費 (学術図書)	1	900
若手研究	111	119,600	研究活動スタート支援	10	10,800
新学術領域研究	4	8,800	奨励研究	2	880
挑戦的研究(開拓)	0	0	特別研究員奨励費	16	14,500
挑戦的研究(萌芽)	6	10,900	合 計	540	733,580

(注)金額は直接経費

(令和3年5月1日現在)

【学部等別採択状況(令和3年度)】

(単位:千円)

学部等	件数	金額	学部等	件数	金額
法文学部	23	18,700	大学院医歯学総合研究科	176	240,600
教育学部	40	36,910	大学院臨床心理学研究科	2	2,500
大学院理工学研究科(理学系)	28	56,300	大学院連合農学研究科	10	8,500
医学部	20	16,700	総合教育機構	20	19,300
鹿児島大学病院	108	110,370	研究推進機構	8	29,700
大学院理工学研究科(工学系)	45	70,800	南九州・南西諸島域共創機構	1	1,100
農学部	22	43,700	ヒトレトロウイルス学共同研究センター	3	3,000
共同獣医学部	15	37,900	学内共同教育研究施設等	2	4,400
水産学部	17	33,100	合 計	540	733,580

(注)金額は直接経費

■厚生労働科学研究費

(令和3年5月1日現在)

(単位:千円)

研究事業名	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
地域医療基盤開発推進研究事業	1	6,160 (1,840)	1	1,190 (552)	1	1,544 (462)
長寿科学施策研究事業	1	4,077 (1,223)	1	3,670 (1,100)		
難治性疾患政策研究事業			1	12,308 (3,692)	1	12,308 (3,692)
合 計	2	10,237 (3,063)	3	17,168 (5,344)	2	13,852 (4,154)

(注)下段()書きは、間接経費で外数

■寄附金

(単位:千円)

学 部 等	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
法文学部・人文社会科学部	20	11,791	19	10,114	24	10,851
教育学部・教育学研究科(附属学校含む)	37	17,555	44	22,489	60	20,415
理 学 部	-	-	-	-	-	-
医学部・保健学研究科	28	7,303	44	13,467	51	15,195
歯 学 部	42	3,218	58	5,131	3	2,064
工 学 部	2	320	378	13,405	108	4,635
農 学 部	66	37,560	79	42,959	81	36,955
水 産 学 部	31	21,210	40	17,976	36	33,405
共同獣医学部・共同獣医学研究科	47	34,682	73	64,328	52	33,535
鹿児島大学病院	140	68,653	176	134,561	145	77,501
理工学研究科	300	152,207	242	137,833	219	128,271
農林水産学研究科	-	-	-	-	-	-
歯 学 総 合 研 究 科	1,163	1,021,086	1,162	1,030,508	1,116	983,610
臨床心理学研究科	8	1,008	4	753	7	961
連 合 農 学 研 究 科	1	350	1	300	2	436
機構・学内共同教育研究施設	2,421	84,081	2,663	72,144	2,703	85,971
事 務 局	586	185,088	738	1,184,430	980	243,825
合 計	4,892	1,646,118	5,721	2,750,405	5,587	1,677,637

(注) 1. 件数、金額には、平成30年度・・・2,709件、311,434千円、令和元年度・・・3,126件、1,333,422千円、令和2年度・・・3,110件、376,885千円の現物寄附を含む。
(現物寄附の件数に図書の受入冊数を含む。)

2. 千円未満切捨てにより作成。

■受託研究

(単位:千円)

学 部 等	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
法 文 学 部	5	2,242	3	1,643	3	424
教 育 学 部	2	4,240	2	4,270	1	667
医学部・保健学研究科	7	21,332	5	10,310	6	9,885
農 学 部	29	204,024	16	136,326	23	88,334
水 産 学 部	13	37,206	12	32,322	14	33,561
共同獣医学部	306	245,530	263	170,222	254	80,023
(うち、動物病理組織検査)	282	3,399	239	3,211	229	3,569
鹿児島大学病院	187	157,205	191	197,233	207	198,520
(うち、医薬品等の臨床研究)	87	117,074	90	131,388	107	130,457
理工学研究科	100	360,690	64	269,392	52	325,386
(うち、受託試験)	52	120	21	42	8	15
歯 学 総 合 研 究 科	210	412,435	249	435,895	202	476,440
(うち、病理組織検査)	129	60,850	156	60,874	117	47,843
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-
連 合 農 学 研 究 科	1	239	2	529	1	232
学内共同教育研究施設等	17	39,463	10	39,582	8	33,857
事 務 局	-	-	-	-	-	-
合 計	877	1,484,606	817	1,297,724	771	1,247,329
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	550	181,443	506	195,515	461	181,884

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。

2. 千円未満四捨五入により作成。

3. 端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

4. 理工学研究科における件数、金額には工学部と理学部を含む。

■共同研究

(単位:千円)

学 部 等	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
法 文 学 部	2	2,180	3	1,100	2	0
教 育 学 部	3	1,331	4	833	5	1,506
医学部・保健学研究科	-	-	3	2,250	5	6,550
農 学 部	63	45,627	83	83,250	70	47,535
水 産 学 部	26	22,104	36	34,937	46	29,452
共同獣医学部	18	46,484	22	85,284	25	84,531
鹿児島大学病院	15	5,460	17	27,310	21	9,180
理工学研究科	95	93,104	100	81,396	101	116,692
歯 学 総 合 研 究 科	52	56,823	65	49,070	58	68,383
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-
連 合 農 学 研 究 科	-	-	-	-	-	-
学内共同教育研究施設等	27	74,349	51	79,665	39	27,987
事 務 局	-	-	-	-	-	-
合 計	301	347,462	384	445,095	372	391,816

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。

2. 共同研究契約については、金額の受入がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)

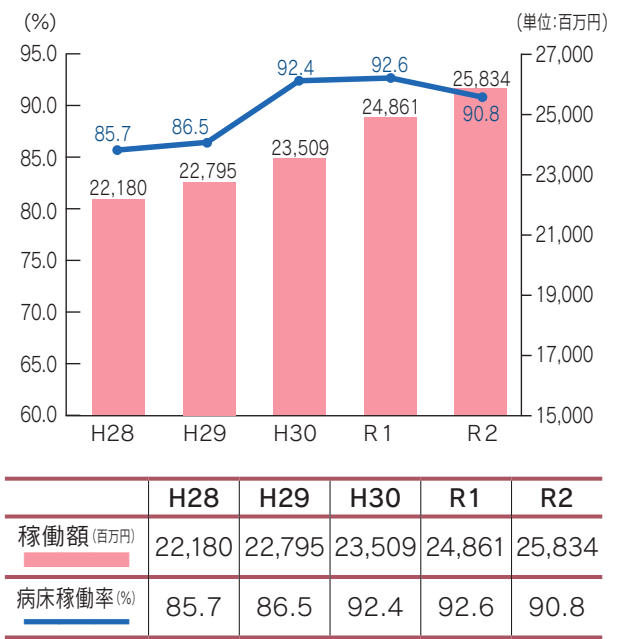
3. 千円未満四捨五入により作成。

4. 端数処理上、合計額が一致しない場合あり。

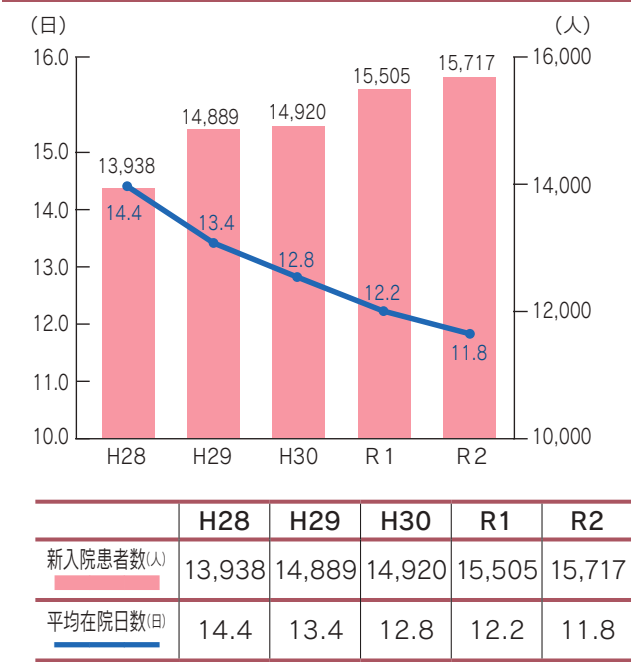
5. 理工学研究科における件数、金額には工学部と理学部を含む。

鹿児島大学病院実績等

診療報酬稼働額と病床稼働率の推移



平均在院日数（一般病床）と新入院患者数の推移



病床数					
					床
一	般	病	床		612
精	神	病	床		40
感	染	症	病	床	1
結	核	病	床		13 ※1
鹿児島大学病院合計					666

(注) ※1 休床中

附属動物病院実績等

診療件数および稼働額			
動物種	診療科等	件数 (件)	稼働額 (千円)
伴侶動物	伴侶系	5,349	166,584
	検査系	771	24,917
産業動物	馬診療科	362	7,986
	牛・山羊診療科	589	41,021
夜間診療		506	10,579
火葬		544	7,372
合計		8,121	258,462



附属図書館実績等

【令和2年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				
		平 日			土・日 及び祝日	合 計
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	267	72,221	21,592	93,813	10,174	103,987
桜ヶ丘分館	314	28,666	11,426	40,092	6,350	46,442
水産学部分館	237	6,840	549	7,389	227	7,616
合 計		107,727	33,567	141,294	16,751	158,045

【蔵 書】

図書(冊)

(令和3年4月1日現在)

	区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計
和漢書	中央図書館	67,235	41,783	79,542	200,981	100,401	67,242	52,561	27,928	27,982	70,882	736,537
	桜ヶ丘分館	860	1,893	729	5,155	91,396	959	332	745	1,575	1,528	105,172
	水産学部分館	1,775	371	1,268	6,119	13,036	6,316	13,162	915	1,225	857	45,044
	小 計	69,870	44,047	81,539	212,255	204,833	74,517	66,055	29,588	30,782	73,267	886,753
洋書	中央図書館	14,033	18,098	17,010	52,012	76,753	18,540	19,819	4,870	13,474	31,997	266,606
	桜ヶ丘分館	537	228	75	613	60,929	56	35	55	288	423	63,239
	水産学部分館	410	107	260	610	5,407	2,260	4,179	248	261	77	13,819
	小 計	14,980	18,433	17,345	53,235	143,089	20,856	24,033	5,173	14,023	32,497	343,664
	合 計	84,850	62,480	98,884	265,490	347,922	95,373	90,088	34,761	44,805	105,764	1,230,417

雑誌(総種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	22,429	9,684	32,113
桜ヶ丘分館	3,841	2,504	6,345
水産学部分館	2,561	1,140	3,701
合 計	28,831	13,328	42,159



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア、太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
市来文庫	伊佐市の郷土史家であった市来政香氏旧蔵書 政香氏収集の文書記録類 同様に市来政香氏旧蔵書で当館所蔵の中世・近世の市来家文書に連なる史料9冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊毛、馱謨、臼杵の各郡が比較的多くまとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	144点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

■土地・建物・船舶

(令和3年5月1日現在)

区 分		土 地 (㎡)	建 物 (延面積㎡)			備 考 (単位: ㎡)
			木 造	非木造	計	
郡 元 地 区	事 務 局	233,630 (23)	0	13,294	13,294	
	保 健 管 理 セ ン タ ー		0	902	902	
	附 属 図 書 館		0	12,703	12,703	
	法 文 学 部		0	6,930	6,930	
	理 学 部		0	13,764	13,764	
	工 学 部		0	38,540	38,540	
	農 学 部		169	24,958	25,127	
	共 同 獣 医 学 部		0	14,058	14,058	
	共 通 教 育		0	17,440	17,440	
	そ の 他		0	14,310	14,310	
	教 育 学 部	118,265	308	41,837	42,145	
	小 計	351,895 (23)	477	198,736	199,213	
桜ヶ丘地区	医 学 部	218,183	0	21,992	21,992	看護師宿舎 (土地 4,431 建物 4,127)
	歯 学 部		0	3,115	3,115	
	医 歯 学 総 合 研 究 科		0	35,230	35,230	
	鹿 児 島 大 学 病 院		0	106,371	106,371	
	附 属 図 書 館		0	1,978	1,978	
	研 究 支 援 セ ン タ ー		0	4,381	4,381	
	亀ヶ原総合グランド		0	52	52	
	桜ヶ丘寄宿舎		0	3,122	3,122	
下荒田地区	小 計	218,183	0	176,241	176,241	宿舎 (土地 3,383 建物 2,028)
	水 産 学 部 地 区	49,154	93	12,106	12,199	
	国際交流会館 (1号館)		0	1,430	1,430	
	国際交流会館 (2号館)		0	1,259	1,259	
	国際交流会館 (3号館)		0	1,507	1,507	
	外国人研究者宿泊施設		0	686	686	
そ の 他	小 計	49,154	93	16,988	17,081	宿舎 (土地 25,234 建物 15,338)
	唐 湊 寄 宿 舎	24,391	0	5,694	5,694	
	唐 湊 果 樹 園	72,682	0	1,207	1,207	
	唐 湊 林 園	9,958	0	0	0	
	寺山自然教育研究施設	300,855	0	885	885	
	教育学部附属特別支援学校	16,776	460	3,105	3,565	
	桜 島 火 山 観 測 点	298	0	31	31	
	高 隈 演 習 林	30,598,349	0	1,530	1,530	
	佐 多 演 習 林	2,972,936	0	0	0	
	入 来 牧 場	1,478,451 (26)	178	3,856	4,034	
	桜 島 熔 岩 実 験 場	372,714	0	0	0	
	指 宿 植 物 試 験 場	30,725	279	2,031	2,310	
	東 町 ス テ ー シ ョ ン	16,902	0	1,183	1,183	
	錦 江 湾 ス テ ー シ ョ ン	4,990 (94)	0	2,150	2,150	
	外 国 人 宿 泊 施 設	344	0	294	294	
	磯 艇 庫	408 (172)	0	243	243	
	海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設	457	0	389	389	
	谷 山 小 頭	0 (777)	0	0	0	
	甌 島 観 測 点	0 (49)	0	24	24	
	伊 集 院 観 測 点	0 (7)	0	0	0	
	屋 久 島 観 測 点	0 (109)	0	40	40	
	串 間 観 測 点	0 (58)	0	58	58	
	紫 尾 観 測 点	0 (59)	0	58	58	
	黒 島 観 測 点	0 (59)	0	58	58	
	佐 多 観 測 点	0 (58)	0	11	11	
	高 岡 観 測 点	0 (58)	0	40	40	
	吉 松 観 測 点	0 (47)	0	0	0	
	田 代 観 測 点	0 (6)	0	0	0	
	そ の 他	0 (2,969)	0	644	644	
	小 計	35,901,236 (4,548)	917	23,531	24,448	
合 計		36,520,468 (4,571)	1,487	415,496	416,983	宿舎 (土地 33,048 建物 21,493)

(注) 1. 土地欄 () 内数量は借用地。
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

船 名	トン数(トン)	機 関	馬 力	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
か ご し ま 丸	935.00	電 気 推 進	1,800	57.42	12.10	7.00	平成24年 3 月30日
南 星 丸	175.00	デ ィ ー ゼ ル	500	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

鹿児島大学学章



創立 50 周年を記念して制定された。
KAGOSHIMA の頭文字「K」をデザインしたもの
である。今、まさに飛び立とうとしている姿を「鳳」
の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学の
キャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようと
している姿をシンボル化したものである。



鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さっつん

薩摩の偉人たちの歴史を思わせる紋付
き袴と頭の校島が特徴の大きなしろく
まのキャラクター。名前の由来は薩摩
の「さつ」と西郷隆盛の愛犬「つん」。



(編集・発行)

鹿児島大学 広報センター

〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号

代表電話 099(285)7111 FAX 099(285)3854

URL <https://www.kagoshima-u.ac.jp/>

(発行月)

令和3年6月